

参考図書；

1.カザフ語入門、飯沼英三著、1994、ベスト社

2.平成16年度言語研修カザフ語研修テキスト3 明解カザフ語文法、中島善輝著、2004、東京外国語大学

## 1. 発音上の注意

### 1. 母音調和

カラカルパク語では、語幹内と接尾辞（語尾）の間で母音の配列の仕方に一定の調和が見られる。すなわち、一定の先行母音には一定の母音しか続かないという現象が見られる。これを母音調和というが、母音調和はカラカルパク語のみならず広くアルタイ諸語に共通して見られる現象で、奈良時代の日本語にもかつて見られた。

カラカルパク語の母音には и, ʏ, e, ə, ɵ, ɐ, a, o, ɔ の10の文字によって表記されている。それらの母音は発音するとき舌が前にあるか後ろにあるか、唇の形が平たいか丸いか、口の開きが狭いか広いかの3通りの対立によって次のように分類できる（əはロシア語起源の音なのでここでは考慮に入れないことにする）。

	前舌母音		後舌母音	
	平唇母音	円唇母音	平唇母音	円唇母音
狭母音	и	ʏ	ы	у
広母音	e, ə	ɵ	a	o

◆ カラカルパク語の母音調和は次の2つの原則から成り立っている。

#### ① 基本原則

前舌母音（и, e, ə, ʏ, ɵ）と後舌母音（ы, a, ɔ, o）は1語の中で共存しない。つまり第1音節に前舌母音があるとその後には前舌母音が続き、後舌母音があると後舌母音が続く。このとき舌の位置は、前舌母音の場合は舌が前に、後舌母音の場合は舌が後ろに残ったままである。

a) 平唇母音（и, e, ə, ы, a）の後には平唇母音が続く（但し、əは音頭節にしかこれないので後続母音にはなれない）。

b) 円唇母音（ʏ, ɵ, ɔ, o）の後にも平唇母音が続き、円唇母音にはこれない。

上記2つの原則をまとめて表にすると次のようになる。

	先行母音－後続母音	用例
前舌母音	и－e, и	иргери 前に
	e－e, и	егиз 作物
	ə－e, и	әдет 習慣
	ʏ－e, и	үлкен 大きい
	ɵ－e, и	өмир 人生

後舌	ы - а, ы	ыссы 暑い
	а - а, ы	ақыл 知恵
	ү - а, ы	ұзынлық 距離
	о - а, ы	орын 場所

- ◆ 母音調和の法則は語幹内においても語幹と接尾辞との間においても適用される。上記の用例は語幹内における母音調和の例であるが、語幹内では先行母音の後に1個以上の後続母音が自由に來れる。ところが、語幹の後に続く接尾辞の母音のパターンは接尾辞の種類によって、(e~a)型母音と(i~ы)型母音の2種類にあらかじめ定まっています、両者が1個の接尾辞の中で混在することはあり得ない(接尾辞が2個以上続けばもちろんこの限りではない)。このことをカラカルパク語の否定命令形の接尾辞 -ма ~ -ме 「...するな」と完了を表す語尾(過去形) -ды ~ -ди 「...した」を例として表にまとめると次のようになる。(なお бил- 「知る」、кел- 「来る」、жүз- 「泳ぐ」、көр- 「見る」、қыл- 「する」、жаз- 「書く」、тур- 「立つ」、бол- 「なる」はそれぞれ動詞の語幹である。)

### 接尾辞の母音のパターン

	語幹 母音	接尾辞 母音	(e~a)型	語幹 母音	接尾辞 母音	(i~ы)型
母音 前舌		и - е	бил-ме 知るな		и - и	бил-ди 知った
		е - е	кел-ме 来るな		е - и	кел-ди 来た
		ү - е	жүз-бе 泳ぐな		ү - и	жүз-ди 泳いだ
		ө - е	көр-ме 見るな		ө - и	көр-ди 見た
母音 後舌		ы - а	қыл-ма するな		ы - ы	қыл-ды した
		а - а	жаз-ба 書くな		а - ы	жаз-ды 書いた
		ү - а	тур-ма 立つな		ү - ы	тур-ды 立った
		о - а	бол-ма なるな		о - ы	бол-ды なった

## 2. 子音の同化

### (1) 逆行同化

- ① 語末の無声子音 п, к, қ は母音始まりの接尾辞がつくと、それぞれ б, к, ғ になる。たとえば、語末の п, к, қ に3人称所有接尾辞-ы~-и 「彼(女)の」がつくとそれぞれ б, к, ғ になる。

п → б	жип 糸 + -и 彼の → жиби 彼の糸 сап <sup>え</sup> 柄 + -ы 彼の → сабы 彼の柄
к → г	етик ブーツ + -и 彼の → етиги 彼のブーツ жүрек 心臓 + -и 彼の → жүреги 彼の心臓
қ → ғ	тарақ くし + -ы 彼の → тарағы 彼のくし қайық ボート + -ы 彼の → қайығы 彼のボート

- ② Нは**б, п**の前では**м**に、**к, қ, г, ғ**の前では**ң**に、**с, з**は**ш**の前では**ш**に、**з**は**с**の前では**с**と発音されるが正書法では表現されない。なお、この同化は語中のみならず語と語の間でも起こりうる。

<正書法>

түңги (夜の) → түңи  
 қашса (逃げれば) → қашша  
 жазса (書けば) → жасса

## (2) 進行同化

原則として、有声子音または母音で終わる語幹には有声子音で始まる接尾辞がつく。逆に、無声子音で終わる語幹には無声子音で始まる接尾辞がつく。たとえば、上述の位格語尾**-да~де-**「...で」と定過去語尾**ды~ди**「...した」を例にとると、無声子音終わりの語幹にはそれぞれ**-та~те、-ты~ти**が接尾する。

қала-да аспан-да арт-та айнек-те уна-ды бар-ды шық-ты жет-ти  
 町で 空で 後ろで 窓で 好んだ 行った 出た 着いた

上述の有声、無声の同化に加えさらに鼻子音の同化の見られる接尾辞がカラカルパク語には多い。すなわち、鼻子音**м, н, ң**で終わる語幹に**н**で始まる接尾辞がつくものが多い。例えば、奪格語尾**-дан~ден, -тан~тен, -нан~нен**「...から」を例にとってみると、

қала-дан ким-нен таң-нан план-нан  
 町から 誰から 朝から 予定から

## 3. 正書法

外来語の二重子音終わりの語幹に子音で始まる語尾がつくと、語幹末の子音が失われる。

класс 「クラス」 + -қа 「へ」 → класқа 「クラスへ」  
 класс 「クラス」 + -та 「へ」 → класта 「クラスで」

## 4. 音節

カラカルパク語の音節は他のチュルク諸語と同じように、1つの母音を中心にしてその前には子音を最高1個まで、後ろには子音を最高2個まで含んだものを1音節とする。前後の子音はついてはつかなくてもかまわない。

音節構造の型

- ① V            ә    えっ  
 ② CV          да    も  
 ③ VC          ис    仕事

- ④ CVC жер 場所
- ⑤ VCC арт 後ろ
- ⑥ CVCC сырт 外

#Vは母音、Cは子音を表す。

## 5. アクセント

アクセントは原則として最終音節の母音におかれ、語幹に接尾辞(語尾)がついた場合は後ろに移動する。ただし人称語尾、命令語尾、後置詞、助詞などのように接尾辞のなかにはアクセントをとらないものがある。

қойшы́	羊飼	い
қойшыла́р	羊飼	たち
қойшуларды́ң	羊飼	たちの

## 6. 弱母音の脱落

最終音節に狭母音 ы, и を含む 2 音節語に母音で始まる接尾辞がつくと、アクセントが接尾辞に移り、狭母音は弱化して脱落することがある。以下、例として語幹に所有接尾辞がついた形をあげた。

орын	地位	+ -ы	その	→ орны	その地位
ерин	唇	+ -и	その	→ ерны	その唇
ауыл	村	+ -ы	その	→ аулы	その村
ұақыт	時間	+ -ы	その	→ ұақты	そのとき
қарын	お腹	+ -ы	その	→ қарны	そのお腹

## 名詞類

### 名詞の数

カラカルパク語の名詞は、複数語尾を附加して、複数性を表示することができる。この名詞の複数形は、名詞の語幹に直接**-лар** または**-лер** を附加することによって作られる。**-лар**, **-лер** の名詞語幹に接尾される際の条件は、カラカルパク語の基本原則、前舌母音 (и, е, ә, ү, ө) と後舌母音 (ы, а, у, о) は 1 語の中で共存しないということに基づき、後舌母音の名詞には**-лар** を、前舌母音の名詞には**-лер** を附加する。

以上、**-лар** には 2 種類のバリエーションが見られる。そこで、本課ではそれらをまとめて**-лар<sup>2</sup>** と表すこととする。以下、他の接尾辞等の形態素も、同様の表し方をしていく。

### **-лар<sup>2</sup>**の附加例)

бала 子供-балалар

етик ブーツ-етиклер

дйихан 農民-дйиханлар

ғарры 老人- ғаррылар

таў 山-таўлар

жуўап 答え-жуўаплар

жигит 若い男性-жигитлер

бай 金持ち-байлар

問い；以下の名詞に適する複数語尾を付けなさい。

кемпир (おばあさん) —

майдан (広場) —

ойыншық (おもちゃ) —

машина (車) —

адам (人) —

күн (日) —

мап (牛) —

дос (友達) —

саат (時計) —

сораў (質問) —

үй (家) —

жулдыз (星) —

қус (鳥) —

аўыл (村) —

есик (ドア) —

дарья (川) —

жип (糸) —  
ит (犬) —  
пышық (猫) —  
хабар (知らせ) —  
қағаз (紙) —  
ай (月) —  
шөп (草) —  
жер (土地) —  
қәлем (ペン) —  
кітап (本) —

### -лар<sup>2</sup>の用法

① 数詞や、一部の形容詞 көп 「たくさんの」、бие неше 「いくつかの」などに修飾された場合、-лар<sup>2</sup>は用いなくてもよい。

төрт кітап 4 冊の本

Көп адам(лар) келді. たくさんの人が来た。

Бир неше күн(лер) өтті. 幾日か過ぎた。

※ (数詞は除き) 複数を表す形容詞に修飾された名詞へ-лар<sup>2</sup>が附加されると、個々の存在が強調される。

Үш күннен бери көп адамлар менен сөйлескен.

3 日間に渡り、彼は多くの人々と話し合っていた。

② 複数の存在を個別化して示す。

Олар аталас тууысқанлар.

彼らは互いにいとこ同士だ。

Өзи де баласы да универсал механиклар.

彼自身も、その息子もそれぞれが総合機械技師だ。

③ 人名の後に附加して、「～等の人」を表す。

Исламлар жақсылап жайласып отырған.

イスラムたちは十分に落ち着いて座っていた。

④ 名詞ばかりでなく、形容詞性の語にも附加されて、「複数の人々・物事」を表す。

Мен арт жақта отырдым, бірақ сахнадағылар маған анық көрінді.

私は後ろに座っていた。でもステージにいる人たちは、私にははっきりと見えた。

Сол гезде ботаника сабағында оқығанларымыз ядқа түсті.

その時、植物学の授業で私たちが学んだことが思い浮かんだ。

⑤ 数詞の後などに付けて概数を表す。

Ертең саат сегізлерде жолға шығайық.

私たちは、明日 8 時頃に出発しよう。

Ол отызларда.

彼の年齢は 30 代前後だ。

ただし、集合数詞には複数語尾は付されない。

**Төртеүйңизди ким көрүпти?**

あなたたち 4 人を、誰が目撃しましたか？

**Нешеүйңиз нөкиске барасыз?**

あなたたちの何人が、ヌクスへ行くのですか？

## 人称所有語尾

カラカルパク語の名詞類には、「～の」を表す属格の他に、語尾に附加して「私の～」、「あなたの～」、「その～」等、所属や関係を表示する人称所有語尾という範疇がある。人称や数、語幹の種類によって以下のバリエーションを持つ。

人称所有語尾；

数		単数		複数	
語末		母音	子音	母音	子音
一人称		-М	-ЫМ/-ИМ	-МЫЗ/-МИЗ	-ЫМЫЗ/-ИМИЗ
二人称	普通	-Ң	-ЫҢ/-ИҢ	лар <sup>2</sup> + -ЫҢ/-ИҢ	
	尊敬	ҢҢ	-ЫҢЫЗ/-ИҢИЗ	лар <sup>2</sup> + -ЫҢЫЗ/-ИҢИЗ	
三人称		-СЫ/-СИ	-Ы/-И	-СЫ/-СИ	-Ы/-И

### 人称所有語尾の附加例)

#### бала 子供

балам	私の子供
балаң	君の子供
балаңыз	あなたの子供
баласы	彼の子供
баламыз	私たちの子供
балаларың	君たちの子供
балаларыңыз	あなた方の子供
баласы	彼らの子供

#### ини 弟

иним	私の弟
иниң	君の弟
иниңиз	あなたの弟
иниси	彼の弟
инимиз	私たちの弟
инилериң	君たちの弟
инилериңиз	あなた方の弟
иниси	彼ら弟

#### китап 本

китабым	私の本
китабың	君の本
китабыңыз	あなた方の本
китабы	彼の本



кітабымыз	私たちの本
кітаптарың	君たちの本
кітаптарыңыз	あなた方の本
кітабы	彼らの本

#### **сөзлик** 辞書

сөзлігім	私の辞書
сөзлің	君の辞書
сөзлігіңіз	あなたの辞書
сөзлігі	彼の辞書
сөзлігіміз	私たちの辞書
сөзліктерің	君たちの辞書
сөзліктеріңіз	あなた方の辞書
сөзлігі	彼らの辞書

#### 人称所有語尾の付け方

- a) 基本的に、名詞語末に直接、上の表に示した条件に従って、そのまま接続すれば得られる。以下、三人称形を例にとってみる。

қала 都市-қаласы

дәптер ノート-дәптери

завод 工場-заводы

шам ランプ-шамы

үй 家-үйи

майдан 広場-майданы

қағаз 紙-қағазы

саат 時計-сааты

- b) ただし、先の附加例にも見るように、-қ, -к, -п に終わる語については、-ғы, -ги, -бы/-би のように有声音化する。

балық 魚-балығы

көмек 手伝い-көмеги

қудық 井戸-қудығы

қолғап 手袋-қолғабы

ящик 箱-ящиги

себеп 原因-себеби

- c) また、以下に見る、若干の語については、多く習慣的に語中の **ы/и** が脱落する。記憶の便宜上、以下は 2 組に分けた。

<身体と関係のある若干の語>

қойын ふところ-қойны  
мурын 鼻-мурны  
мойын 首-мойны  
ауыз 口-аузы  
қарын 腹-қарны  
дауыс 声-дауысы  
ерин 唇-ерни

<その他>

кейип 外見-кейпи  
сийық 外觀-сийқы  
парық 違い-парқы  
халық 民衆-халқы  
турық 外貌-турқы  
құлық 品性-құлқы  
қырық40-қырқы  
қалып 型-қалпы  
хәрип 文字-хәрпи  
ерик 自由-ерки  
зауық 喜び-зауқы  
ауыл 村-аулы  
көрик 見栄え-көрки  
қәуип 危険-қәуипи

## 人称所有語尾の用法

人称所有語尾は、人称代名詞と所属関係にある時に用いられる用法の他、2つの普通名詞が修飾・被修飾の関係にある際に用いられる（この場合、三人称に限る）。

қарақалпақтың тили-қарақалпақ тили カラカルパク語  
мектептиң кітапханасы-мектеп кітапханасы 学校の図書館

## 名詞人称所有語尾複数形の表す意味

カラカルパク語における人称所有語尾の複数形は、状況により幾つかのケースに解釈される。1つは、「1人の人に所属・関係するそれぞれ（1つ1つ）のもの」、更には、「複数の人に所属・関係する単数のもの」などである。

例えば、二人称複数について上の附加例から見れば、сөзликлериң は次のように解釈し得る。即ち、「君1人が所有する複数の辞書」、「君たち個々人が所有するそれぞれの辞書」、「君たち共用の1冊の辞書」などである。また、мамаларың は、例えば、母親はふつう1人なので、2人が実の兄弟関係にあれば「君たち2人共通の1人のお母さん」、兄弟関係になければ「君たち2人のそれぞれ1人ずつのお母さん」などといった具合である。-лары を引き合いに用例で示せば、以下に見るように、やはり文脈によって3つのケースが見られる。

Бөлмениң үлкен айналары бар.

部屋には大きな複数の窓がある。(一の所有する多)

Оқыушылар үйлерине қайтты.

生徒達はそれぞれの家々に帰った。(多の所有する多)

Китапханаларыңыздан кітап алыуға бола ма?

あなた方の図書館から、本を借りられますか？(多の所有する一)

### 人称代名詞の属格と人称所有語尾

人称代名詞の属格形と、人称所有語尾はよく呼応して用いられる。しかし、その属格形は省略されても、人称所有語尾は一般に省略することはできない。

мениң қәлемим = қәлемим	私のペン
сениң қәлемиң = қәлемиң	君のペン
сизиң қәлемиңиз = қәлемиңиз	あなたのペン
оның қәлеми = қәлеми	彼のペン
бизиң қәлемимиз = қәлемимиз	私たちのペン
сенлердиң қәлемлериң = қәлемлериң	君たちのペン
сизлердиң қәлемлериңиз = қәлемлериңиз	あなた方のペン
олардың қәлеми = қәлеми	彼らのペン

ただし一人称複数の属格が **бизиң**「私たちの」の場合、**-ымыз**<sup>4</sup>は省略されることがある。

Бизиң класста 50 оқыушы бар.

私たちのクラスには 50 人の生徒がいます。

Бизиң завод пенен остановканың арасы 200 метрдей жер.

私たちの工場と駐車場との間は、200 メートルくらいです。

A.-Сенлердиң үйлеринде пышық бар ма?

B.-Бизиң үйде бир ала пышық бар.

A.-君の家に猫がいるかい？

B.-家には 1 匹のまだらの猫がいるよ。

### 人称所有語尾と完了形動詞

人称所有語尾は、完了形動詞と結びついて、文末において条件が整った様や、強調を表したりする。

◆ **-қаны**<sup>4</sup> ( <-қан<sup>4</sup>+ -ы<sup>2</sup>)

① [文末で強調を表す]

Не қылғаның?

君、一体何をしたんだ？

Қызық екенсизлер, ойын билетуғын әкеліп отырса, бармаймыз дегелерің не қылғаның.

君たちは面白いね、人が芝居のチケットを買って来てやったというのに、私たちは行かないというのは、

一体どうした者達なんだ。

② [[-са болғаны] として、必要な条件が全てそろったことを表す]

Әйтеуір алып келсең болғаны.

とにかく、持って来さえすればそれでいいんだ。

Тырыссаң болғаны, қарақалпақ тилин жақсы үйрениўге болады.

君は、努力しさえすればそれでいいんだ、カラカルパク語をしっかりとマスターすることができる。

Кимнің қалпағы суў болып жерге түссе, сол гүнәлы болғаны.

帽子が水に濡れて地面に落ちれば、まさにその者が罪をもっているということだ。

③ [[болғаны ма] として、強い懷疑の念や驚きの気持ちなどを表す]:「まさか〜だということなのか!？」

Ол жерде бир жылдың төрт мәүсими жоқ болғаны ма?

まさかそこには一年の四季もないということなのか?

Өсимлик тұқымының күши усыншама зор болғаны ма?

まさか植物の種の力はそれほどにもおおきいというのか!

Ақыр заман болғаны ма, алланың қәхәри тийди ме?

まさか世の末なのか、アッラーの怒りに触れたのか?

### 絶対三人称

人称所有語尾三人称系は、時を表す語に附加されて副詞を形成する。本課では、ドイツ語やロシア語の対格形で見られるこの種の用法の呼び名「絶対対格」の発想から、「絶対三人称」と呼ぶこととする。

Ол түни биз тыныш уйықладық.

その晩、われわれはゆっくりと眠った。

Бир күни оған бир европалық ушырасты.

ある日、彼には1人のヨーロッパ人が出くわした。

Абай 1845 жылы туўды.

アバイは1845年に生まれた。

Бул-1937 жылыдың 21 майы, аздаңағы саат 11ден 25 минут өткен ўақыт еди.

これは、1937年の5月21日、朝の11時25分の時であった。

即ち、文の成分としての副詞（句）ではなく、単体の場合には、三人称語尾は用いられない。

1983 жыл 22 март. Мениң самолётим жоқары көтерилди.

1983年3月22日。私の飛行機は上昇した。

この絶対三人称は、曜日を表す語に附加されて、その副詞を形成する。

名詞形	副詞形
биринши күн 月曜日	биринши күни 月曜日に
екинши күн 火曜日	екинши күни 火曜日に
үшинши күн 水曜日	үшинши күни 水曜日に
төртинши күн 木曜日	төртинши күни 木曜日に
бесинши күн 金曜日	бесинши күни 金曜日に
алтыншы күн 土曜日	алтыншы күни 土曜日に
қала күн 日曜日	қала күни 日曜日に

以下のような、時と関係した語にも、三人称所有語尾が附加されている。これらも皆、副詞として機能するものである。

бәхәрдің күни 春に  
жаздың күни 夏季に  
гүздің күни 秋季に  
қыстың күни 冬季に  
күни-түни 昼も夜も  
алдыңғы күни おととい  
арғы күни あさって

問い；次の文を、人称所有語尾に注意して訳しなさい。

1. Мениң үйим мектепке жақын.
2. Кишкене үйдің қасында жаңа бийик үй турыпты.
3. Қарақлпақ тили грамматикасының қыйын жери.
4. Сениң бөлмеңнің неше айанасы бар?
5. Бул нәрселердің хәр қайсысының өзине машлығы.
6. Мен мектеп кітапханасынан кітап алдым.
7. Өкинишлиси - гейбир сөзлерди анық айта алмайман.
8. Оқыўшы муғаллимге дәптерин берди.
9. Ол оқыйтуғын жасқа толады, бірақ оның не қағазы, не қәлеми, не сиясы жоқ еди.
10. Усы жылы мен институтқа түсемен.
11. Усындай қылса, ол гүзедеги суўды ише алатуғын болғаны ғой.
12. Бундай болғанда, ол сен ҳаққында жүдә көп билгени ме?

## 代名詞

カラカルパク語の代名詞は以下のように分類される。即ち、(1)人称代名詞、(2)再帰代名詞、(3)指示代名詞、(4)疑問代名詞、(5)総括代名詞、(6)不定代名詞、(7)否定代名詞、(8)所有代名詞である。

### (1) 人称代名詞

人称代名詞の主格形は次の表の通りである。

人称代名詞の主格形；

人称	数	単数	複数
一人称		мен	биз/бизлер
二人称	普通	сен	сенлер
	尊敬	сиз	сизлер
三人称		ол	олар

これらの人称代名詞主格形は、以下のように格変化する。一人称、二人称、三人称の形をそれぞれ別の表で表す。

一人称人称代名詞の格変化形；

称格	人	一人称	
		単数 (私)	複数 (私たち)
主格 (～は)	мен	биз	бизлер
属格 (～の)	мениң	бизиң	бизлердиң
与格 (～へ)	маған	бизге	бизлерге
対格 (～を)	мени	бизди	бизлерди
位格 (～に)	минде	бизде	бизлерде
奪格 (～から)	меннен	бизден	бизлерден
助格 (～と)	мем менен	биз бенен	бизлер менен

二人称人称代名詞の格変化形；

格	人稱	二人稱		二人稱尊敬	
		単数 (君)	複数 (君たち)	単数 (あなた)	複数 (あなた方)
主格 (～は)	сен	сенлер	сиз	сизлер	
属格 (～の)	сениң	сенлердиң	сизиң	сизлердиң	
与格 (～へ)	саған	сенлерге	сизге	сизлерге	
対格 (～を)	сени	сенлерди	сизди	сизлерди	
位格 (～に)	сенде	сенлерде	сизде	сизлерде	

奪格 (～から)	сеннен	сенлерден	сизден	сизлерден
助格 (～と)	сен менен	сенлер менен	сиз бенен	сизлер бенен

三人称人称代名詞の格変化形；

格	人称	三人称	
		単数 (彼、彼女、それ)	複数 (彼ら、彼女ら、それら)
主格 (～は)		ол	олар
属格 (～の)		оның	олардың
与格 (～へ)		оған	оларға
対格 (～を)		оны	оларды
位格 (～に)		онда	оларда
奪格 (～から)		ондан	олардан
助格 (～と)		оны менен	олар менен

なお、人称に関わる文では、人称標識（人称助詞や動詞人称語尾）が述部で呼応して用いられる。人称代名詞は省略されても、人称標識は省略できない。

注) 一人称複数主格形 **бизлер** の、述部における人称標識は、一律 **биз** に順ずる（即ち、例えば\*-мызларという人称助詞は存在しない）。

**Бизлер бүгін киноға барамыз.**

私たちは今日、映画へ行きます。

## (2) 再帰代名詞

再帰代名詞は、人称所有語尾を **өзи** 「自身」に附加してつくられる。即ち、**өзим** 「私自身」、**өзимиз** 「私たち自身」、**өзиң** 「君自身」、**өзлериң** 「君たち自身」、**өзиңиз** 「あなた自身」、**өзлериңиз** 「あなた方自身」、**өзи** 「彼・彼女・それ自身」、**өзлери** 「彼・彼女それら自身」となる。

これらは人称代名詞に準じた用いられ方をし、文の主語として用いられると、人称標識が文末で呼応することとなる。

また **өз** が名詞の前に来て限定語として用いられた場合は、本来 **өз** に附加されるべき人称所有語尾などは省略することもできる。

**өз** **китабым-өзимнің** **китабым** 私自身の本

**өз** **китабың-өзиңнің** **китабың** 君自身の本

**өз** **китабыңыз-өзіңиздің** **китабыңыз** あなた自身の本

**өз** **китабы-өзинің** **китабы** 彼自身の本

問い； 次の文を再帰代名詞に注意して訳しなさい。

1. Жұмысың болмасын, жеңілсем **өзимнен**-ақ көрейин.

2. Мине, енди өзлериң ойланыңлар.
3. Жазда мен өз бақшамда жұмыс іслеуді жақсы көремен.
4. Оқыудан тарақадық, хәр ким өз үйлерине қайтты.
5. Бул нәрсени ол өзи келип алсын.
6. Хәр адам өз пикирин айтсын.
7. Әйтеуір уқтырдым, келе ме, келмей ме, өзиниң иси.
8. Алдыменен маған өзиңизди таныстырың!

### (3) 指示代名詞

指示代名詞の格変化形；

	бул (これ)	усы (これ)	мына (これ)	сол (それ)	ана (あれ)
主格	бул	усы	мына	сол	ана
属格	буның	усының	мынаның	соның	ананың
与格	буған	усыған	мынаған	соған	анаған
对格	буны	усыны	мынаны	соны	ананы
位格	бунда	усында	мынада	сонда	анада
奪格	будан	усыдан /усынан	мынадан	содан /соннан	анадан
助格	буны менен	усы менен	мына менен /мынаў менен	соны менен	ана менен /анаў менен

#### 若干の注意事項)

- a) 人称代名詞 ол「それ」も、指示代名詞として用いられる。
- b) бул, ол, усы, мына, ана などへは、複数語尾を付すことができる。即ち、булар「これら」、олар「それら、あれら」、усылар「これら」、мыналар「これら」、аналар「あれら」などとなる。なお、бул, усы, мынаなどは、全て「これ」の位であるが、若干の用法の違いは、下の問いの中で解説したい。
- c) мына, ана には ŷ のついた мынаў「これは (の)」、анаў「あれは (の)」などの指示代名詞形もある。これらには複数語尾は附加されない。人称所有語尾はそのまま附加され得る。





19. Бұл сүүретши тағы қандай сүүретлер салды?

20. Будан үш жыл бұрын.

21. Бұныменен салыстырғанда

22. Бұнда ким бар?

23. Онысы да белгисиз, ол оқыған шығар.

24. Керек болғанда, бұны қалай аламан?

25. Оның бас көтермей оқығанлары усылар.

26. Сол гезде ол неше жасларда еди?

27. Сол бала сонда да табылмап па?

28. Соны айтсеши!

29. Ол содан кейин узаққа кеттима?

30. Соныменен ол не қылыпты?

#### (4) 疑問代名詞

ここでいう疑問代名詞は、いわゆる疑問詞の総称としての呼び名である。細かくはそれぞれ機能別に、名詞的なもの、形容詞的なもの、副詞的なものの 3 種類に分けられる。これらには、つぎのようなものがある。ким「誰」、не「何」、не зат「何」、қай「どの」、қайсы「どれ」、қандай「どんな」、қалай「どのように」、қанша「いくつ、どれだけ」、неше「いくつ」、қайда/қаяқта「どこで」、қайдан/қаяқтан「どこから」、қашан「いつ」、неге「なぜ」、не себептен「なぜ」などである。

#### 疑問代名詞の用法

a) 疑問代名詞を用いた疑問文では、日本語の疑問助詞「か」とは異なり、疑問助詞 **ма**<sup>6</sup>「か」はふつう用いられない。

Ол кимди көрди?

彼は誰を見たのか?

Олар онда не ислейди?

彼らはそこで何をしているのか?

Сен қаяққа бара атырсаң?

君は（今）どこに向かっているのか？

- b) **ким, не, қайсы, неше**などは、格変化や複数語尾、人称所有語尾が附加されて用いられる。

**Мына ата сизлердің неңиз болады?**

このおじさんは、君たちの何なの？（どんな間柄か）

- c) 程度を表す疑問副詞は、感嘆文でも用いられる。

**Қандай уятлы ис!**

何と恥ずかしいことをしでかしてくれたものか！

- d) 疑問代名詞は、不特定の対象も表す。

**Ким болса да кириў билетисиз музейге кириўге болмайды.**

誰であれ、入場券なしで博物館に入ってはいけません。

**Не керектиң бәри бар.**

必要な物は、何でもある。

**Қанша алсаң да беремен.**

私は、君が欲しいだけあげますよ。

- e) 指示代名詞などと呼応して関係詞節を構成する。

**Не ексең, соны оарсаң.**

**Шетел тилин үйренгенде жас қанша кишкене болса, сонша жақсы болады емес пе?**

外国語を学ぶ際には、年齢がどれだけ小さければ、それだけよいではないのか？（→外国語を学ぶなら、若ければ若いほどよいでしょ）

問い；次の文を、関係詞に注意して訳しなさい。

1. **Не болса, соны жейди.**
2. **Неше рет келсе, сонша рет беретугын себебим усы.**
3. **Қайсы жақ жеңе басласа, сол жаққа қосылмақшы болды.**
4. **Жаздың күни сен қаяққа баратуғын болсаң, мен де сол жаққа бараман.**
5. **Жаў қызлы ким усласа, соған 50 мың франк ақша бериўге үәде берди.**
6. **Ким жұмыс ислесе, сол тоқ болады.**
7. **Бир адам не керек болса, соны алады.**
8. **Бурын адамлар; <Қайжерде халық болса, ол сол жерде бар> деўши еди.**
9. **Хызмет оны қайжаққа жиберсе, ол сол жерге барып ислейтуғын еди.**

## (5) 総括代名詞

次のものが総括代名詞に当たるとされる。**бәри**「すべて」(三人称所有語尾付き)、**барлық**「ありったけ」、**бәрше**「あるだけの」、**бар**「ある」、**гүлли**「丸々の」、**пүткіл**「全ての」、**пүтин**「完全なる」の7語である。そのうち、**бәри** と **барлық** は単独で用いられ、人称所有語尾を伴って用いられ、その他は普通、限定語として用いられる。

問い ;

1. Бәримиз бардық.
2. Бақшаның ишінде жемистиң бәри бар.
3. Барлығымыз да шаңғыны жақсы тебемиз.
4. Барлығымыз паркке бардық, паркте халық жүдә көп екен.
5. Бочка жақсы жабылмағанлықтан бензиннің бәри ушып кетипти.
6. Бар дүньясы усыншалық.
7. Пүтин дүньядағы халықлар бир туўысқан.
8. Усының бәри өзимдики.
9. Бәршелериңизге сәлем.
10. Усы мәселе менен байланысly барлық жағдайларды тексерип анықлады.

## (6) 不定代名詞

不定代名詞とは、主に **бир**「1つの」、**хәр**「毎」、**әлле**「もしくは」の3語を元にしてつくられる一群の代名詞を指す。若干のものであるが、以下のような語がそれにあたる。

- a. **биреу** 誰かある人、**гейбиреу** 若干の人、**гейбир** 個々の、**қайсыбир** 若干の、**хәрбир** 各々の、**бирнеше** いくつかの、**бирнәрсе** 何か
- b. **хәрким** 個々の人、**хәрқайсы** 個々のどれ
- c. **әллеким** 不明のある人、**әллеқайдан** 不明のどこかから、**әлленеше** 不明のいくつか、**әллеқашан** 不明のいつか

問い ; 次の文を、不定代名詞に注意して訳しなさい。

1. Биреу саған бирнәрсе деди ме?

2. Үйде биреу жоқ па?
3. Гейбиреу өз пикирінде қалды.
4. Биреудің нәрсесін алма.
5. Бирнәрсе дегендей болды.
6. Қымызды хәрким ишеди.
7. Хәрқайбір адамның парызы.
8. Ұазыйпа әллекашан орынланды.
9. Әллекайда биреудің ыңырсыған дауысы естиледі.
10. Бир аңыз сөзді әлленеше рет қайталады.
11. Ол әллекашан кетіп қалған.
12. Соңы әллекалай болар екен.
13. Оның әлленени еситіп келгенин ким билсин.
14. Тоқтаусыз үш күн жауын жауып, гейбир адамлардың үйи зыянға ушырады.
15. Сизиң үйрениуіңізге көмек беретуғын дослар бар екенлигин әллекашан еситкенмен.

### (7) 否定代名詞

否定代名詞は、**хеш**「何も（～ない）」と、他の語との組み合わせで作られる。否定代名詞とされるものは、**хешким**「誰も（～ない）」、**хешқашан**「いつも（～ない）」などと続けて綴られるが、**хеш**がその他の名詞類と共に用いられる際、辞書の上では、**хеш адам**「どの人も（～ない）」、**хеш нәрсе**「どの物も（～ない）」、**хеш ұақытта**「何時にも（～ない）」などと、話して綴られるようである。

これらの文中では、必ず動詞の否定形か、**емес**「～ではない」、**жоқ**「ない」、**-сыз**「～のない」などの否定語を伴って用いられる。次のようなものが見られる。

- хешким** 誰も（～ない）
- хешбир** 一つも（～ない）
- хешнәрсе** 何も（～ない）
- хешқандай** いかなる～も（～ない）

хешқашан いつも (～ない)

хешқайсы いかなる人も (～ない)

問い； 次の文を、否定代名詞に注意して訳しなさい。

1. Аўылда хешким жоқ па?
2. Хешбир нәтийже жоқ.
3. Хешбир аяўсыз соққы берди.
4. Хешнәрсе болған жоқ.
5. Хешнәрсе қылмайды.
6. Хешқандай хәмел жоқ.
7. Хешқандай өзгерис жоқ.
8. Хешқайда шықпай үйде отыр!
9. Олардың хешқайсысы келген жоқ.
10. Мәжилис ашыў хаққында хешқандай хабар жоқ.
11. Олар хешнәрсе айта алмады.
12. Хеш хәжети жоқ.
13. Хешбир жерде буны сатпайды.
14. Будан бурын ол арақ деген нәрсениң хешбиреўин татқан емес еди.
15. Буның саған хешқандай қатнасы жоқ.
16. Ол келиў келмеў туўралы хешнәрсе айтпады.
17. Хешнәрсе еситилмеді.
18. Бизиң оған хешқандай пикиримиз жоқ.

19. Биз хешнәрседен қорықпаймыз.

20. Телефон жалғанса да, хешким сөйлемесе, қалай болғаны?

### (8) 所有代名詞

人称代名詞、支持代名詞からつくられる「私のもの」、「君のもの」などの所有物等を示す代名詞である。人称代名詞、指示代名詞等の語幹に-ники、-дики を附加することによって得られる。所有代名詞の格変化は、三人称所有語尾が附加したものに順ずる。

меники 私のもの

сеники 君のもの

сизтики あなたのもの

оныки 彼/彼女のもの

биздики 私たちのもの

сенлердики 君たちのもの

сизлердики あなた方のもの

олардики 彼らのもの

мынаники この人のもの

кимдики 誰のもの

問い；次の文を、所有代名詞に注意して訳しなさい。

1. Бул кітап меники.

2. Бүгін кеште меникине

3. Меники ақылсызлық ис.

4. Оныки дурыс емес.

5. Келген адам биздикине түсти.

6. Қонақлар олардикинде қонып кетти.

7. Сенлердики биздикинен жақсы.

8. Мынаў кимдики?

9. Яқ, меники емес.

10. Меникин қарап бериң.



## 名詞の格

カラカルパク語の名詞は格変化を行う。その格変化によって、名詞が文中で果たす機能を細かく表示する。カラカルパク語の格語尾は、7種類ある。即ち、主格（～は）、属格（～の）、与格（～へ）、対格（～を）、位格（～に）、奪格（～から）、助格（～で）である。これは、いわゆる日本語の「て、に、を、は」に相当する。

なお、格助詞の認定は、若干変則的な体系を有す、人称代名詞の格変化に基づいている。

### (1) 主格

日本語の「は」や「が」に相当する格である。文の主語や、トピックとなる。主格を表す語尾はない。

#### I. 主格の用法

- a) 単文の主語となる。

Мен бараман.

私は行きます。

Тереклер егилди.

木々は植えられました。

Ағам көрген, бәлким, ол билер.

私の兄は見た。多分、彼がしつていよう。

(ағам と ол は、それぞれ別の単文の主語)

- b) 形容詞の主語となる。

Биз көрген самолёт аэропортқа келип қонды.

私たちが見た飛行機は、飛行場にやってきて止まった。

(形容詞句の主語は биз である。文全体の主語は самолёт)

- c) 副詞句の主語となる。

Ол мен күлген сайын ашыўланды.

彼は、私が笑うごとに、怒った。

(副詞句の主語は мен である。文全体の主語は ол)

#### II. 引用文中の主格とトピック

引用文中の表現には直接話法と間接話法がある。人が話した言葉そのままを変えず引用するのが直接話法で、言い換えて引用するのが間接話法である。

引用の際、カラカルパク語では一般に、動詞 **де**-「～と言う；しようとする」を用いる。直接話法においては地の文の主語は、主語＝主格、引用文もそのまま主語＝主格として表現される。

しかし、間接話法では、地の文の主語は主語＝主格だが、引用の場合、トピック＝主格で表されることがあるようである。それで、見かけ上、引用文内の述部の人称が、トピックの人称と対応しない現象が見られる。以下、この機にそのことについて、若干観察してみたい。

- a) 直接話法の場合

1. -Мен мына кишкене қала Мойнақтың адамыман, - деди ол командирге.

「私はこの小さな町、モイナクの者です」と言った、彼は、司令官に。

2. **Мамам мени, не испесең де табанлылығың жоқ деп урысады.**

私のお母さんは私を、「お前は何をしても粘り強さがないね」と叱る。

1.の文で、地の文の主語は **ол**、引用文の主語は、**мен** である。2.の地の文の主語は **мамам** であり、コンマから始まる引用文の主語は、省略されている **сен** であると考えられる。

**b) 間接話法の場合**

三人称では違いが良く分からないため、一人称および二人称代名詞を用いた文章で観察したい。

3. **Мен сиз барды деп ойлағанман.**

私は、あなたが行ったものと思っていました。

一見すると、**мен** も **сиз** も主格なのに、引用文の述部は **барды** と三人称形をとっていることが分かる。

実は、この文全体の主語は **мен** で、**сиз** はトピックであると考えられる。**барды** の本来の主語は、“**мен**” が頭の中で<彼 (**ол**=**сиз**) は行った>と解釈した際の **ол** であろう。

なお、ネイティブに確認したところ、**сиз** と **барды** の人称を対応させた、以下の文は誤りだとのことである。

\***Мен сиз бардыңыз деп ойлағанман.**

ただ、(Мен) **сизди барды деп ойлағанман.** とは言い換えることができるそうである。

動詞 **де-**による引用文的な表現においては、主格とトピック、動詞の人称などは見かけ上異なる。解釈の際には注意が必要である。

**Қайда барамаң десек де еркиң.**

彼がどこに行くといえども自由だ。

**Ол оқыймаң деп, белин беккем буўынды.**

彼は、私は学んだ、と決心を固めた。

**Мейли, кетемең десең автомобильге отырғызып жиберейин.**

よろしい、君が行くというのなら、私が自動車へ見送って乗せてあげよう。

**Мен билмейди ғой деп пе едиң?**

私は知らないんだと君は思っているのか？

**Ол маған сиз сол ҳаққында жақсы биледи деп айтты.**

彼が私に、あなたはそのことについてよく知っていると話した。

**(2) 属格**

日本語の「～の」に相当する格である。

-ның/-ниң	母音と -м, -н, -ң の後
-дың/-диң	有声子音の後
-тың/-тиң	無声子音の後

なお、2つの名詞が概念的に密接な関係にある場合、属格は必要に応じて省略される。

Нөкис қаласы   ヌクス市

дүнья жүзи еллери   世界各国

なお、この他に、属格が省略されない幾つかの条件があるが、以下の問いの中でその諸条件について言及したい。

問い； 次の文を属格と人称所有語尾に注意して訳しなさい。

1. Мына сөздің мәніси не?
2. Электр шамы үйдің ишин жарқыратып турыпты.
3. Қысқа ғана ұақыт ишинде үйренип ала қоюға болмайды.
4. Мениң жасым отыздың ишинде.
5. Нөкис қаласының айналасы жүдә сулыў.
6. Бизге оныншы мектептің оқыўшылары келди.
7. Қарақалпақ тилинің хәмме қағыйдасы бойынша жазыңлар.
8. Қыйраған затлардың ишинен мынаны қазып алдым.
9. Олардың бул жерге келип орналасқанына көп болды.
10. Оның еки баласы бар.
11. Шахматтың дым қызығы жоқ.
12. Мениң кишкентай бөлмем бар. Бөлмемнің бир айнасы бар.
13. Оның қызық кітабы көп екен.
14. Саған не кереги бар оның?
15. Балалардың бесеўи артта қалып қойды.
16. Достымның берген кітабын мен кешке оқып шықтым.
17. Кезинің сулыўын-ай!

## 18. Жигитиң султаны

## 19. Әжнияздың театры

## 20. Әжнияздың ата-анасы

### (3) 与格

日本語の「〜へ」に相当する格である。

-ға / -ге	母音と有声子音の後
-қа / -ке	無声子音の後
-а / -е	一人称単数、二人称単数の所有語尾の後
-на / -не	三人称所有語尾の後

#### 与格の用法)

- ① 方向を表示する。

**Мен мектепке бардым.**

私は学校へ行った。

**Басыңызды сәл оңға бурың.**

あなたの頭をちょっと右へ向けてください。

- ② 判断の対象を表示する。

**Маған ашшы таам жеуге болмайды.**

私は辛い食べ物をとってはいけません。

**Мениң үйрениуим оған жетпейди.**

私の学績は彼に及ばない。

- ③ 目的を表示する。

**Мамам нанға кетти.**

母はパンを買いに行った。

**Бизлер ертең тауға шаңғы тебиуге барамыз.**

私たちは明日、山へスキーをしに行きます。

**Балаларды мийнет суйуға тәрбиялау керек.**

子供たちを労働を愛するように、教育しなければならない。

- ④ 価格を表示する。

**Мен 280 сумға бир карта алдым.**

私は 280 スムで地図を買いました。

- ⑤ 時間を表示する。

**Бизде китап еки-үш хәптеге бериледи.**

私たちのところでは、本は 2-3 週間で貸し出ししております。

Ол он жыл бойына жақсы жұмыс иследи.

それは、10年間にわたってよく稼働した。

⑥ まとまり、区分を表示する。

Балалар бирнешеге бөлиніп, жүріп кетті.

子供たちは幾つかに分かれて、駆けて行った。

Бул дәрини күніне қанша рет ишиў керек?

この薬を、日に何回飲む必要がありますか？

問い；次の文を、与格に注意して訳しなさい。

1. Мен шыпакерге бардым.
2. Мен таўға гүл териўге бараман.
3. Ол не нәрсеге барды?
4. Оның рухсатысыз дем алыўға болмайды.
5. Квартираға айына қанша төлеў керек?
6. Мен бул жерге бир неше күнге келдим.
7. Поездың турғанына көп болды.
8. Бул дәри асқазан аўырыўына ғана ем болады.
9. Ол өзиниң саўаты төмен болғанлығына налыўды.
10. Сизге жұмысқа арналған очки алыў керек.

#### (4) 対格

日本語の「～を」に相当する格である。動詞の直接目的となる語を表示する。

-ны / -ни	母音の後
-ды / -ди	有声子音の後
-ты / -ти	無声子音の後
-н	三人称所有語尾の後

なお、単独の本名詞（実詞）が直接目的語となり動詞の直前にある時などは、対格語尾は省略される。

Мен маманнан хат алдым. ⇔ Мен хатты маманнан алдым.

私は母から手紙を受け取った。⇔私は手紙を母から受け取った。

問い； 次の文を、対格に注意して訳しなさい。

1. Ғарбыз өлшең.
2. Қус бир шөжени илип алып кетти.
3. Оқыўшы китапты, дәптерди, қәлемди, қарандашты сумкаға салды.
4. Қудай-аў, оныңды мен қайтип толтыраман? Өзиң толтырып берсең!
5. Керек болса, буны қалай аламан?

## (5) 位格

日本語の「～に」、「～で」に当る格である。

-да / -де	母音と有声子音の後
-та / -те	無声子音の後
-нда / -нде	三人称所有語尾の後

### 位格の用法)

- ① 具体的に、位置を表示する。

**Ол үйде.** 彼は家にいる。

- ② 抽象的に、所在を表示する。

**Барыў-бармаў өз еркинде.**

行くか行かないかは君の自由だ。

**Айтқан сөзиңизде турың.**

あなたが言った言葉に立って下さい。(→約束はお守りください)

- ③ 程度を表示する。

**Жас муғдары отызларда.**

彼の年格好は、30 才くらいだ。

**Сизге қандай сүүрет керек және қандай көлемде?**

あなたにはいくつ写真が必要ですか、またどんなサイズですか？

- ④ 状況を表示する。

**Сениңше жер шары тыныш күйинде тура ма, ямаса айланып тура ма?**

君の考えでは、地球は静止した状態でありますか、また回転していますか？

- ⑤ 時を表示する。

**Бул журнал еки айда бир рет шығады.**

この雑誌は、2ヶ月に1回出ます。

**Саат түңги он бир болғанда, мен уйқлаўға жаттым.**

時間が晩の11時になったら、私は寝るために横になった。

## (6) 奪格

日本語の「～から」に相当する格である。

-дан / -ден	母音と有声子音の後
-тан / -тен	無声子音の後
-нан / -нен	鼻音と、三人称所有語尾の後

### 奪格の用法)

- ① 起点を表示する。

**Мен мектептен келдим.** 私は学校から来ました。

Мен алыстан көре алмайман. 私は遠くからは見えません。

- ② 比較の対象を表示する。

Мен сеннен бир жас кишимен.

私は君より 1 才年下です。

Сениң инглистилин үйрениўиң мениң үйрениўимнен жақсы.

君の英語の学績は、私の学績よりも良い。

- ③ 全体の一部を表示する。

Ол бир сабақтан қайта имтихан тапсырады.

彼は 1 課目で追試を受ける。

Лагерьде жеңил атлетикадан, суўда жүзиўден спартакиада өткизилди.

合宿所では陸上競技や、水泳の総合スポーツ大会が催された。

- ④ 全体の一部に行為が及ぼされることを表示する。

Ол қолымнан жетеклеп мени китапханаға алып келди.

彼は私の手を引いて、私を図書館へ連れて来た。

Бул адам басынан жараланыпты.

この人は頭部を負傷してしまっています。

Ол дийўалдан тесик ашты.

彼は壁に穴をあけた。

- ⑤ 素材を表示する。

Бул үй ағаштан салынған.

この家は木でできています。

Мына сөзлерден гәп дүзиңлер.

君たち、これらの単語を使って文を作ってください。

- ⑥ 原因を表示する。

Мен суўықтан қалтырап кеттим.

私は寒さで震えてしまいました。

Биз ҳешқандай қыйыншылықтан қорықпаймыз.

私たちはいかなる困難も恐れません。

- ⑦ 数量を表示する。

Бизде үш мың гектардан аслам жер сүриледі.

私たちの所では、3000 へクタール以上の耕地が耕されます。

- ⑧ 分配される数量を表示する。

Олардың қолына бир-бирден қызыл алма беремен.

私は彼らの手元に、1 つずつ赤いりんごを与えます。

Мына дәрини күнине үш таблеткадан ишиў керек.

この薬を日に、3 錠ずつ飲まなければなりません。

- ⑨ 分数、少数を表示する。

бестен еки 5 分の 2

үш пүтин оннан жети 3 と 10 分の 7 (~3.7)



сегиз пүтин мыңнан жигирма бир 8 と 1000 分の 21(～8.021)

問い ; 次の文を、奪格に注意して訳しなさい。

1. Сизде биринши таамнан не бар?
2. Сиз нөмерден кәтелестиңиз.
3. Кийим-кеншектен не алыў керек?
4. Манлайынан сүйди.
5. Жағасынан жулқып қалды.
6. Мени белимнен жоқары түсириңиз.
7. Жаңа китаптардан қандай қызықпылары бар?
8. Сеннен қандай солдат шықсын?
9. Бундай сөзликтен оған еки нусқа керек.
10. Оның денсаўлығы бурынғыдан тәўир.
11. Ийнинен жулқып тартты.
12. Мен жақыннан көре алмайман.
13. Мен сеннен үлкенмен.
14. Сизиң дәриңиз үш сааттан кейин тайын болады.
15. Мавзолей мрамордан салынған.
16. Адам төрт мыңнан кем емес.
17. Мына дәрини күнине бир пакеттен ишиў керек.
18. Бул реттеги топтан утылыўымыздың себеби, әдетте күшли шуғылланбағанымыздан болды.

## (7) 助格

日本語の、道具や手段を表す際の「〜で」に相当する格である。

-менен	母音と ж, з を除く有声子音の後
-бенен	ж, з の後
-пенен	無声子音の後

### 助格の用法)

- ① 道具を表示する。

**Бизлер сүүретти қарандаш пенен салдық.**

私たちは絵を鉛筆で描きました。

- ② 手段・方法を表示する。

**Ат пенен барамыз.**

私たちは馬で行きます。

**Мына кітаптарды бандероль менен ямаса посылка менен жиберген дурыс па?**

この複数の本を、帯封で、あるいは小包で送ったほうがいいですか？

- ③ 携帯物を表示する。

**Мамам еки шелек пенен суйға кетти.**

母は、2つの桶を提げて水汲みに行った。

- ④ 移動の場所を表示する。

**Буғы тайганың иши менен қашып келе атыр.**

鹿がタイガの中を逃げてやって来ている。

**Океан менен кешип жүриў**

海を航海して行く。

- ⑤ 様式を表示する。

**Үйдің төбеси қызыл менен сырланған.**

家の屋根は赤色で塗った。

- ⑥ 副詞であることを表示する。

**Ертең менен келип қалар.**

彼は、明日来るだろう。

- ⑦ 共同関係を表示する。

**Ол мениң менен танысты.**

彼は私と知り合った。

**Ажапам менен бирге барады.**

彼は、私の姉とでかける。

- ⑧ 対立関係を表示する。

**Биз қыйыншылық пенен гүрес жүргизийүмиз керек.**

私たちは、困難に対し、闘争を行わなくてはいけない。

- ⑨ 原因を表示する。

**Мени не жұмыс пенен изледиңіз?**

あなたは、私を何の用事で探しましたか？

- ⑩ 順序を表示する。

**Алдыменен мениң оқығанымды тыңлаңыз!**

まず、私の読むのを、あなた方は聞いてください。

- ⑪ 様態を表示する。

**Оқышылар муғаллимди ынта менен тыңлады.**

生徒たちは先生の言うことを、注意深く聞いた。

- ⑫ 時を表示する。

**Таң атыуы менен-ақ, ол жұмысқа жүрип кетти.**

夜が明けるやいなや、彼は仕事へ出かけた。

- ⑬ 逆説を表示する。

**Дегени менен, әдетленип кетсем деймен.**

でも、私は自分が慣れていったらいいなと思います。

## 補助名詞

方向や位置関係を表す名詞の一群である。格語尾や、後置詞などだけでは表現できない。こまかな位置関係を指示する役割を果たす。これらは通常、人称所有語尾を伴った形で用いられる（例えば、**алд**「前」や **аст**「下」、**үст**「上」は、すでに **алды**, **асты**, **үсти** として、辞書の見出し語に三人称所有語尾が附加された形で挙げられている）。その上で文中では場合により、時や空間関係を表す与格、位格、奪格などと共に用いられ、副詞性の状況語として用いられる。なお、前の名詞との間には、属格語尾はとったり、とらなかつたりされる。

**әтирап, дөгерек** 「周囲」

**мектептің әтирапы** 学校の周囲

**Буну еситкен жигит ишинен қууанып ханның үйинің әтирапына ағаш-отынларды топлапты.**

このことを聞いた青年は、内心喜んで、ハンの家の周囲に焚き物の木々を集めたようだ。

**алд** 「前」

**үйди алды** 家の前、**он жылдың алдында** 10年前に

**ара** 「あいだ」

**Оқышылар арасында** бундай сөзді айтыу орынсыз.

生徒たちの間で、このような言葉を使うのは妥当ではない。

**арт** 「後」

**Артыңызға** бурылыңыз.

あなたの後ろ側を向いてください。

**Мениң артымда** қалған Саламат деген бир балам бар еди.

私の去った後に残されたサラマツトという1人のわが子がいるのでした。

**аст** 「下」

**жер артында** 地下に、**қар астында** 雪の下に、**аяқ астында** 突然

барыс 「過程」

ұақыяның барысы 事件の経過

Жумыстың барысы 仕事の行程

бас 「傍ら、たもと」

от басы 火の傍ら

қәбыр басы 墓の傍ら

қудық басы 井戸の傍ら

Сол жүенди алып көлдің басына барыңыз.

あなたはその馬勒を持って、湖のたもとへ行ってください。

бет 「面」

суу бети 水面、жер бетінде 地面に

\*なお、-қан<sup>4</sup> бети として「～したなり」の意を表す。

Дем алыуға отырған бети уйықлап қалған екен.

休憩しに腰掛けたなり、寝入ってしまったのだ。

жақ 「方向」

оң жақ 右側、шеп жақ 左側、жоқары жақ 上側

Почта мектептің бери жағында тур.

郵便局は学校の手前側に建っています。

Ол музыка жағына көп зейин салды.

彼は音楽方面に、多くの注意を払った。

жан 「傍ら」

Ыдыстың жанында жатқан майда таслар.

甕の傍らにあった複数の小石

Жанында ақша жоқ.

彼はお金を持ち合わせていない。

қарсы 「向い」

Қарсымыздағы квартирада кимлер турады?

私たちの所の反対側のアパートには、誰たちが住んでいますか？

қас 「となり」

Мектептің қасында дарья бар.

学校の傍らに川がある。

Ақысына мың тилла беретугын ғаррының қасына келди.

報酬に1000金貨をくれるおじいさんの許へやってきた。

әтирап, дөгерек 「付近」

Оның үйинің дөгерегінде хешким жоқ.

彼の家の周辺には、誰もいない。

орта 「中央」

түн ортасы 真夜中

Бизиң мектебимиз қаланың ортасында.

私たちの学校は、町の中央にあります。

Қыс ортасынан бери қар жаўмаған еди.

冬の半ば以来、雪は降っていなかったのです。

орын「場所」（与格を従えて、「～の代わりに」の意を表す）

Мениң орныма сен бар.

私の代わりに君が行け。

Гейбиреўлер қой терисин таўып жамылып ишик орнына пайдаланыпты.

一部の者たちは、羊の毛皮を見つけて羽織って、毛皮のコートの代わりに使ったそう。

соң「末」

Истиң соңы не болыпты екен.

事の最後は、どうなるのかな？

сырт「外」

ўйдиң сырты 家の外

әтирап, дөгерек「周り」

қала дөгерегі 都市の周辺

түп「底；傍ら」

теңиз түби 海底

уйдиң түбинде 家の近くに

Арба ўйдиң түбинде тур.

彼は荷車の傍らに立っている。

Ит там түбинде жатыр.

犬は壁下に横たわっている。

үст「上」

ўй үсти 屋上

столдың үстинде 机の上に

оның үстине その上に（接続詞）

иш「中」

ўйдиң иши 家の中

## 形容詞

形容詞は、名詞類に属する語の機能の1つで、物事の性質や状態、関係などを表す。名詞を修飾したり、文の述語になる他、副詞としても機能する。また、格語尾や人称所有語尾、名詞類から名詞類を派生する接尾辞、名詞類から動詞類を派生する接尾辞などと結合する。

## 形容詞の機能概観

- a. 名詞を修飾する（名詞は人称所有語尾をとらない）。

жақсы адам. （良い+人）⇒良い人

- b. 名詞の特徴をもとに形容詞へ転化する。

ағаш үй

(木→“木製の” + “家”) ⇒木造の家

**СУЛТАН ЖИГИТ**

(スルタン→“有能な” + “青年”) ⇒有能な青年

- c. 名詞化し、格語尾をとる。

**Жақсыдан үйрениу керек.**

優れた者から学ぶ必要がある。

- d. 名詞化し、人称所有語尾をとる。

**Жақсысы жақсы-ақ, бірақ жүдә қымбат екен.**

良いには良いが、しかし、とても値段が高い。

- e. 名詞化し、文の主語になる。

**Бұл кітапты оқығанман.**

この本を読んだのは、私だ。

(оқыған は形容動詞。すなわち、動詞から派生した形容詞である)

- f. 文の述語になる。

**Ата-анасы еле тири.**

彼の両親はまだ生きている。

- g. 副詞となり動詞を修飾する。

**Ол қарақалпақша жақсы сөйлейди.**

彼はカラカルパク語を上手に話す。

**(1) 性質形容詞**

性質形容詞とは、物事の外見や様子、性質などを表す。語根のみからなるものと、動詞などからの派生によるものなどが含まれる。

**(1)-1. 性質形容詞の種類**

- ① 色彩に関するもの：

ақ「白い」、ала「まだらの」、ақ「白色の」、жасыл「緑色の」、гүрең「褐色の」、қоңыр「暗褐色の」、сары「黄色の」、сур「灰色の」、суркөк「青い」、қара「黒」、қызыл「赤い」など。

- ② 空間や面積などに関するもの：

үлкен「大きい」、киши「小さい」、узын「長い」、қысқа「短い」、узақ「遠い」、жақын「近い」、кең「広い」、тар「狭い」、терең / шуңқыр「深い」、бийик「高い」、пәс / аласа「低い」、сайыз「浅い」、жууан「太い」、жиңишке「細長い」、майда / усақ「細かい、小さい」、жуқа「薄い」、көп「多い」、аз「少ない」、арық「痩せた」、семиз「太った」など。

- ③ 性質などを表すもの：

жақсы「良い」、жаман「悪い」、ауыр「重い」、жеңил「軽い」、ыссы「熱い、暑い」、жыллы「暖かい」、сууық「冷たい、寒い」、қатты「硬い」、жумсақ「軟らかい」、жаңа「新しい」、ески / гөне「古い」、жас「若い」、ғарры「老いた」、бай「豊かな」、жарлы / гедей「貧しい」、тоң「凍った」、суйық「流動的な」、қою「濃い」など。

## (1)-2. 性質形容詞の級

カラカルパク語の形容詞は印欧語の屈折による級の枠組み当てはめれば、性質形容詞を中心に原級の他、比較級、最上級を表すことができる。また、強調を表す強化形、その反対の意味の弱化形を形成する。

原級は、形容詞の語幹をののままの形なので、以下、比較級を作り方から見てゆきたい。

### I. 比較級

母音調和と語幹の種類に応じて、語尾-ырақ / -ирек (子音の後)、рақ / -рек (母音の後) を付すことによって表される。「より～である」意を表す。

көк 青い—көгирек より青い  
узақ 遠い—узағырақ より遠い  
кең 広い—кеңирек より広い  
көп 多い—көбирек より多い  
қатты 硬い—қаттырақ より硬い  
жақсы 良い—жақсырақ より良い

### II. 最上級

原級の前に副詞 ең 「最も」 を附加することによって表される。

ең жақсы 最も良い  
ең жаман 最も悪い  
ең үлкен 最も大きい  
ең киши 最も小さい

### III. 強化形

強化形とは、日本語で「真っ白」、「真っ黒」の「真っ」に相当するものを指す。カラカルパク語では、母音の始まりの形容詞ならば第一音節目の母音に-п を、子音始まりならば子音と母音の組み合わせに同じく-п を附加し、原級の前に置くことで生産的に表すことができる。この際、両者はハイフンでつなげて綴られる。

ауыр 重い—ап-ауыр とても重い  
үлкен 大きい—үп-үлкен とても大きい  
қара 黒い—қап-қара 真っ黒な  
жууан 太い—жуп-жууан とても太い  
сууық 寒い—суп-сууық とても寒い  
терең 深い—теп-терең とても深い

なお、ақ 「白い」 は аппақ 「真っ白な」、көк 「青い」 は көккөңбек 「真っ青な」という別の形をとる。

### IV. 弱化形

日本語では「幾分～めの」を意味する形式である。原級の語幹に、-лау / -леу を附加して表す。

сары 黄色い—сарылау 幾分黄色めの  
ауыр 重い—ауыркау 幾分重めの

қызыл 赤い—қызыллау 幾分赤めの  
кең 広い—кеңлеу 幾分広めの  
сууық 寒い—сууықлау 幾分寒めの

## 級のまとめ

ауыр 重い

—ап-ауыр—ең ауыр—ауырақ—ауылау

үлкен 大きい

—үп-үлкен—ең үлкен—үлкенрек—үлкенлеу

кең 広い

—кеп-кең—ең кең—кеңірек—кеңлеу

киши 小さい

—кип-киши—ең киши—киширек—кишилеу

қара 黒い

—қап-қара—ең қара—қарарақ—қаралау

қызыл 赤い

—қып-қызыл—ең қызыл—қызылрақ—қызыллау

сары 黄色の

—сап-сары—ең сары—сарырақ—сарылау

сууық 寒い

—сууп-сууық—ең сууық—сууықрақ—сууықлау

сулыу 美しい

—суп-сулыу—ең сулыу—сулыурақ—сулыулау

## (2) 関係形容詞

名詞や動詞に、形容詞を形成する接尾辞を附加することによってつくられる。若干のものを除き一般に、関係形容詞は、性質形容詞でみた級の体系は有さないとされる。

### (2)-1. 名詞派生の関係形容詞

#### ① -лы / -ли 「～のある」

жобалар 計画—жобалы 計画のある

көлем 範囲—көлемли 範囲のある

бас 頭—баслы 主要な

なお、動名詞-у / -ю 形に附加されると、「～した状態の」の意。

ой-彫刻する—оюлы 彫刻のほどこされた

ил-掛ける—илиулы 掛かった状態の

#### ② лық / лик 「～と関係した」

қала 都市—қалалық 都市の

ауыл 村落—ауыллық 集落の



район 農村—районлық 農村の  
облыс 州—облыслық 州の  
капиталис(т) 資本家—капиталистлик 資本主義の

③ -сыз / -сиз 「～のない」

ақша お金—ақшасыз お金のない  
семья 家族—семьясыз 家族のいない  
жигер 強い—жигерсиз 強くない  
ел 人びと—елсиз 無人の

④ -қы / -ғы, -ги / -ки 「～の」: 主に、時間や空間と関係する語に附加される。

бәхәр 春—бәхәрги 春の  
жаз 夏—жазғы 夏の  
гүз 秋—гүзги 秋の  
қыс 冬—қысқы 冬の  
кеше 昨日—кешеги 昨日の  
бүгін 今日—бүгінги 今日の  
ертең 明日—ертеңги 明日の  
иш 内—ишки 内部の  
сырт 外—сыртқы 外部の  
енди 次に—ендиги 次の  
алда 前—алдағы 前の  
бас 頭—бастағы 初頭の  
соң 後—соңғы 後の  
ақыр 最後—ақырғы 最後の  
кейін あと—кейінги あとの

⑤ -дағы / -деги, -тағы / -теги 「～における」(位格の先に-ғы / -гиが附加されたもの)

қала 都市—қаладағы 都市の  
аўхам 社会—аўхамдағы 社会の  
завод 工場—заводтағы 工場の  
аўыл 村落—аўылдағы 村落の  
қыслақ 農村—қыслақтағы 農村の  
мектеп 学校—мектептеги 学校の  
үй 家—үйдеги 家の

※参考までに、この他、〔完了形動詞+位格〕のものに附加される例もみれる。

есик қағылғандағы даўыс

ドアがノックされたときの音

мениң үйден шыққандағы мақсетим

私が出た(時の)目的

⑥ -шаң / -шең 「～の特徴をもった」

аўрыў 病気—аўрыўшаң 病気しがちの

ашыў 怒り—ашыўшаң 怒りっぽい  
бой 背丈—бойшаң 背の高い  
сөз 言葉—сөзшең おしゃべり好きの  
тер 汗—тершең 汗かきの

- ⑦ -шыл / -шил 「～を嗜好するところの」  
уйқы 眠り—уйқышыл 寝てばかりの  
әңгеме おとぎ話—әңгемешил おとぎ話好きの  
ой 思慮—ойшыл 思慮の深い
- ⑧ бий- 「～のない」  
бийгүнә 無実な  
бийғам うっかりやの  
биймаза 不安の  
бийтаныс 見知らぬ  
бийтәреп 中立の  
бийшара あわれな

## (2)-2. 動詞派生の関係形容詞

- ① -аған / -еген  
бер- 与える(бериў)—береген 気前がよい  
көр- 見る(көриў)—көреген 視力のよい  
қап- かみつく(қабыў)—қабаған 嘔み付くくせのある  
қаш- 逃げる(қашыў)—қашаған (家畜が) 人に捕まえられない  
теп- 蹴る(тебиў)—тебеген (家畜が) 人をよく蹴る
- ② -арлық / -ерлик 「～するに値する」  
айт- 言う(айтыў)—айтарлық 言うに値するような  
қуант- 喜ばす(қуантыў)—қуантарлық 喜ばすに値するような  
мақта- 誉める(мақтаў)—мақтарлық 誉めるに値する  
таңлан- 驚く(таңланыў)—таңланарлық 驚くに値する
- ③ -қыр / -кир, -ғыр / -гир 「よく～する」  
кес- 切る(кесиў)—кескир 鋭利な  
өт- 鋭利になる(өтиў)—өткир するどい  
таб- 見つける(табыў)-тапқыр 機知のある
- ④ -қыш / -киш, -ғып / -гиш  
бил- 知る(билиў)—билгиш 聡明な  
көр- 見る(көриў)—көргиш 目のいい、洞察力のある  
өзгер- 変わる(өзгериў)—өзгергиш 変わりやすい  
сез- 感じる(сезиў)—сезгиш 敏感な  
таныс- 識別する—(таныў) танысғыш 識別に長けた  
уғ- 理解する(уғыў)—уғқыш 理解力のある

- ⑤ -млы / -мли, -ымлы / -имли 「～の傾向のある」
- жақ- (～に) 好かれる(жағыў)—жағымлы 人に好まれる  
 жара- 適合する(жараў)—жарамлы 適合した  
 өт- 過ぎる(өтиў)—өтимли 流通のはやい  
 түс- 落ちる(түсиў)—түсимли 生産高のある  
 уна- 気に入る(унаў)—унамлы 気に入った
- ⑥ -нды / -нди, -ынды / -инди 「～された」
- асыра- 飼育する(асыраў)—асыранды ペットの  
 жаса- 作る(жасаў)—жасанды 人口の；偽造の  
 қура- 組み立てる(қураў)—қуранды 組み立てられた  
 түй- 結目を付ける(түйиў)—түйинди 結目のある：要の
- ⑦ -ңқы / ңки, -ыңқы / -иңки 「～した状態の」
- бағын- 従属する(бағыныў)—бағыныңқы 従属している  
 пытыра- 散らばる(пытыраў)—пытыраңқы 散らばった  
 жап- 覆う(жабыў)—жабыңқы 覆った  
 көтер- 上げる(көтериў)—көтериңки 高まった  
 салбыра- 垂れ下がる(салбыраў)—салбыраңқы 垂れ下がった
- ⑧ -шақ / -шек
- ашыўланы- 怒る(ашыўланыў)—ашыўшақ 怒りやの  
 ерин- 怠ける(ериниў)—ериншек 怠け者の  
 мақтан- 自慢する(мақтаныў)—мақтаншақ 自慢やの  
 сүрин- つまづく(сүриниў)—сүриншек つまづきやの  
 умыт- 忘れる(умытыў)—умытшақ 忘れっぽい  
 уял- 恥じる(уялыў)—уялшақ 恥ずかしがりやの

## 数詞

本課で学ぶカラカルパク語の数詞は基数詞、序数詞、集合数詞である。数詞は機能上、形容詞とほぼ同じである。

### ① 基数詞

カラカルパク語の基数詞は、ゼロも加え、以下のものである。

нөл	0
бир	1
еки	2
үш	3
төрт	4
бес	5
алты	6
жети	7
сегиз	8

тоғыз 9  
он 10  
жигирма 20  
отыз 30  
қырық 40  
елиў 50  
алпыс 60  
жетпис 70  
сексен 80  
тоқсан 90  
жүз 100  
мың 1000

また、一万以上は次のようになっている。

он мың 10,000  
жүз мың 100,000  
миллион 1,000,000  
он миллион 10,000,000  
жүз миллион 100,000,000  
миллиард 1000,000,000—мың миллион

複合数詞は、前から順番に並べて作る。

жигирма еки 22  
төрт жүз жетпис бес 475  
отыз сегиз 38  
мың тоғыз жүз қырық 1940  
алпыс бир 61  
еки мың төрт 2004

問い；次の数詞をアラビア数字で書きなさい。

елиў алты  
бир мың жигирма бир  
сексен үш  
еки мың алпыс  
тоқсан тоғыз  
он мың тоғыз жүз елиў  
үш жүз жетпис  
жети жүз мың жети жүз төрт  
сегиз жүз жетпис еки

## ② 序数詞

序数詞は、数詞の後に-ыншы / -инши, -ншы / -нши (-ыншы<sup>4</sup>)を附加してつくられる。ただし、40は第2音節目の ы が落ちる。

биринши	1 番目の
екинши	2 番目の
үшинши	3 番目の
төртінши	4 番目の
бесінши	5 番目の
алтыншы	6 番目の
жетінши	7 番目の
сегизінши	8 番目の
тоғызыншы	9 番目の
оныншы	10 番目の
жигирманшы	20 番目の
отызыншы	30 番目の
қырқыншы	40 番目の
елиўинши	50 番目の
алпысыншы	60 番目の
жетписінши	70 番目の
сексенінши	80 番目の
тоқсаныншы	90 番目の
жүзінши	100 番目の

また、複合序数詞は、数の最終桁に-ыншы<sup>4</sup>が付く。

жигирма алтыншы	26 番目の
жүз алпыс үшінши	163 番目の
сегиз жүз он бесінши	815 番目の

日付は序数詞で表す。

Кеше айдың нешеси? 昨日は何日ですか?

Кеше 28 (жигирма сегизінши) февраль. 昨日は2月28日です。

Ертең 1 (биринши) март. 明日は3月1日です。

## ③ 集合数詞

集合数詞は1~6まで用いられる。基数詞に-аў / -еў を付けてつくられている (еки と алты の и / ы は脱落する)。ただし、集合数詞には名詞を修飾する形容詞的な用法はない。なお、「いくつ、何人」は нешеў を用いる。集合数詞類に複数語尾は付されない。

биреу 1つ、1人  
екеу 2つ、2人  
үшеу 3つ、3人  
төртеу 4つ、4人  
бесеу 5つ、5人  
алтау 6つ、6人

## 時間の表し方

何時何分の「時」は〔саат+数詞〕で次のように表す。

саат бес 5時

саат сегиз 8時

саат он бир 11時

Саат он еки болды.

12時になった。

Биз саат сегизде сабаққа киремиз.

私たちは8時に授業が始まります。

Биз музейге барғанда, саат еки болды.

私たちが博物館に行った時は、2時でした。

また、分は〔数詞+минут〕、秒は〔数詞+секунд〕で表す。

төрт минут 4分

Саат он екиге бес минут қалды. 12時5分前だ。

Саат оннан үш минут өтті.10時3分だ。

Хәзир бестен он минут өтті.現在5時10分だ。

「30分」は **ярым (саат)** 《半 (時間)》、「15分」は **шерек (саат)** 《4分の1 (時間)》を用いて表すこともできる。

Саат он бир ярым болды. 11時半だ。

Саат сегизге шерек қалды. 8時15分前だ。

期間としての時間は〔数詞+〕で表す。

алты саат 6時間

жийгирма төрт саат 24時間

Мен еки саат үйрендим. 私は2時間勉強しました。

## екен

**екен** は、名詞類に属する付属形式であり、常に句や文の末尾に用いられる。元々動詞 **е-** 《～である》の完了形動詞形で、形容詞相当の語である。**екен** の主な用法は以下の通りであるが、名詞類としての用法は厳密には①のみで、②以下は不変化詞類的に用いられる。その場合 **екен** は、「発見・伝聞助詞」と呼んでもよか

ろう。

- ① [動詞の直接目的語となる句を受ける。この場合、**екенлик** と互換可能である] : 「～であることを」

**Оның мини қайда екенін билмейсең бе?**

彼の欠点が、どこにあるのかを、君は知らないのか？

**Үйінде кимлер бар екенлігін маған еле айтқан жоқсаң ғой?**

君の家には、(家族は) 誰々がいるのかを、私にはまだ話したことはなかったよなあ？

- ② [自己の経験した事柄に対する発見や詠嘆を表す]

**жүдә мазаллы екен.**

とてもおいしいなあ。

- ◆ [②の疑問文は、自他へ向けて、その疑問に対する相談を持ちかけるニュアンスを表す]

**Бүгінгі түсте қандай аўқат сатылады екен?**

今日のお昼は、何の料理が売り出されるのかなあ？

**Қалай / Не қылсақ, болар екен?**

私たちはいったい、どうしたらいいの？

- ③ [他者からの伝聞による発見と、自他への伝聞を表す]

**Бұл кітап таўсылып қалды, еситиўимше ол қайта басылады екен.**

この本は、売り切れてしまいましたよ。私が聞くところによれば、それは再び印刷されるそうです。

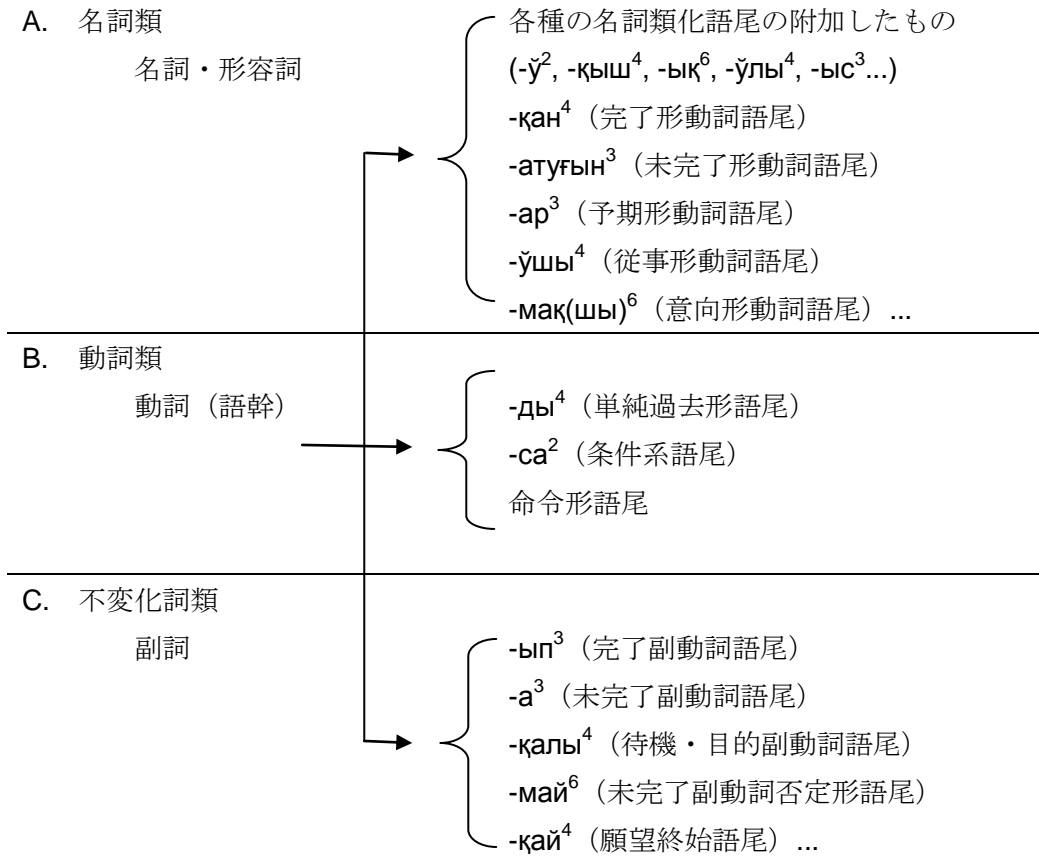
**Ерте, ерте, ертеде Жалбағай, Манас деген екі батыр болған екен.**

昔、昔のその昔、ジャルバガイとマナスという 2 人の勇者がいたのだとさ。

## 動詞類

### 動詞類の他の品詞類との関係

名詞類と並んで、文中で重要な位地を占めるのが動詞類である。本書では3品詞分類の観点から、動詞類と他の品詞類との関係は、派生に通じて、以下の様な体系をなしているものとみなして解説を行っている。



本書では、動詞類とは、狭義には B. に属するもののみを、広義には、本来名詞形である - $\ddot{y}$ <sup>2</sup> 形を動詞の不定形と認め、また、形動詞語尾の附加したもの（形動詞）と、副動詞語尾等の附加した C. に属するものを動詞類に含めるものとする。

### (1) 動詞の種類

カラカルパク語の態や相を表さない動詞語幹は3つに分類できる（この際、名詞類と組み合わせて用いる。қосық айт-(айтыў)「歌う」、жақсы көр-(көриў)「好く」のような複合動詞は扱わない）。

( )は不定詞

- ① 語根動詞：ал-(алыў)「取る」  
бер-(беріў)「与える」  
бол-(болыў)「成る」  
еру-(ериў)「融ける」  
ет-(етиў)「する」



жала-(жалай) 「舐める」  
 же-(жей) 「食べる」  
 жуў-(жуўыў) 「洗う」  
 жуы-(жуыў) 「近づく」  
 кет-(кетиў) 「去る」  
 қал-(қалыў) 「残る」  
 оқы-(оқыў) 「読む」  
 өл-(өлий) 「死ぬ」  
 өс-(өсий) 「成長する」  
 сой-(сойыў) 「屠る」  
 сора-(сораў) 「尋ねる」  
 сиң-(сиңий) 「しみこむ」  
 таб-(табыў) 「見つける」  
 той-(тойыў) 「満ちる」  
 улы-(улыў) 「吠える」  
 ур-(урыў) 「打つ」  
 ушыра-(ушыраў) 「遭う」  
 шоршы-(шоршыў) 「驚く」  
 иш-(ишиў) 「飲む」

- ② 派生動詞 : атқары-(атқарыў) (←ат「馬」+қар-) 遂行する  
 байы-(байыў) (←бай「豊かな」+ы-) 富む  
 бирики-(биргий) (←бир「1」+ик-) 1つになる  
 желпи-(желпиў) (←жел「風」+пи) 扇ぐ  
 кемсити-(кемситий) (←кем「少ない」+си-) 不足だと思う  
 кеңей-(кеңейий) (←кең「広い」+ей-) 広くなる  
 ойла-(ойлаў) (←ой「考え」+ла-) 考える  
 терши-(тершиў) (←тер「汗」+ши-) 汗ばむ  
 түне-(түней) (←түн「夜」+е-) 夜を明かす  
 уйқысыра-(уйқысыраў) (←уйқы「眠り」+сыра-) 寝言を言う

- ③ 縮合動詞 : апар-(апарыў) (←алып барыў) 持って行く  
 әкели-(әкелий) (←алып келиў) 持って来る  
 әкети-(әкетиў) (←алып кетиў) 持ち去る  
 әпер-(әперий) (←алып берий) 持って来て与える

※なお、副詞として縮合した қайти-(қайтиў)「どうする」(<қалай етиў)、 бүйт-(бүйтиў)「こうする」(<бұлай етиў)、 сөйт-(сөйтиў)「そうする」(<солай етиў)、 өйт-(өйтиў)「そうする」(<олай етиў)なども見られる。

(2) 相の接尾辞

動詞が示す動作の過程を、どのような視点で捉えるのかを表す文法範疇が相（アスペクト）である。カザフ語のアスペクトは多くの場合、[副動詞+補助動詞] で表されるが、若干動詞から動詞を派生する接尾辞によって表現される。

a) -ыңқыра- / -иңкире, -ңқыра- / -ңкире- (-ыңқыра<sup>4</sup>-) : 動作のもう少しの継続や追加、弱化などを表す。この語尾の付いた形自体は辞書の見出しに載っていないことが多いが、相当自由に接尾できる。

абайла-(абайлау)用心する—абайлаңқыра- もう少し用心する

әбигерлеб-(әбигерленіу)どぎまぎする—әбигерлениңкира- 若干どぎまぎを感じる

бер-(беріу)与える—бериңкире- もう少し与える

жақынлат-(жақынлатыу)近づける—жақынлатыңқыра- もう少し近づける

b) -қыла- / -киле-, -ғыла- / -гиле- : 激しく、ちからのこもった動作の反復を表す。「何度も何度も～する」、「～しまくる」

ат-(атыу)撃つ、射る—атқыла- 撃ちまくる、何度も何度も射る

кер-(кериу)引き延ばす—кериңгиле- 引き延ばしまくる

қақ-(қағыу)叩く—қаққыла- 叩きまくる

мыжы-(мыжыу)押し潰す—мыжғыла- 何度も押し潰す

соз-(созыу)伸ばす—созғыла- 伸ばしまくる

соқ-(соғыу)殴る—соққылау- 殴りまくる

шап-(шабыу)鞭打つ—шапқыла- 鞭打ちまくる

тарт-(тартыу)引っ張る—тартқыла- 何度も何度も引っ張る

c) -ла- / -ле- : 動作の多回を表す：「何度も～する」

ийиске-(ийискеу)においをかぐ—ийискеле- 何どもにおいをかぐ

қарғы-(қарғыу)跳ぶ—қарғыла- 何ども跳びはねる

сипа-(сипау)なでる—сипала- 何どもなでる

силки-(силкиу)はたく—силкиле- 何どもはたく

үйке-(үйкеу)こする—үйкеле- 何どもこする

問い：次の文章を、-ыңқыра<sup>4</sup>-に注意して訳しなさい。

1. Турыңқыра!

2. Қысқартыңқырап алыңыз.

3. Мен бираз исениңкиреп турыппан.

4. Дузы шығыңқырамаған сыяқлы.

5. Кемпир бул сөзге исениңкиремепти, исенсе де қорқынқырап қалыпты.

6. Үйирме баслығы, жағдайым болыңқырамай тур. Бир күнге рухсат бериңиз.
7. Ей, анық естилмейатыр ғой, дауыслаңқырап айтыңызшы.
8. Усы бетиңізбенен жүриңкиреп барып оңға бурылсаңыз болғаны, барасыз.
9. Жол-жөнекей қыз сөз қозғаса, жигиттің айтқан әңгимеси бурынғы үәделескен жигиттің сөзине уқсаңқырамапты.

### (3) 態の接尾辞

カラカルパク語の態は、能動態の他、4種類が接尾辞によって区別される。それらは、使役、受動態、再帰態、相互・共同態である。能動態は「～は～する」意で、態の接尾辞はない。

よって、ここでは、使役態、受動態、再帰態、相互・共同態の接尾辞の作り方を概観する。

#### I. 使役態

「他者に～させる」意を表す。動詞によって、主に以下のような4種類の接辞を附加することによって表される。

##### ① -дыр- / -дир-, -тыр- / -тир-

қал-(қалыу)残る—қалдыр- 残す

жүз-(жүзиу)泳ぐ—жүздир- 泳がせる

арт-(артыу)増やす—арттыр- 増やさせる

кел-(келиу)来る—келтир- 来させる

##### ② -ғыз- / -гиз-, -қыз- / -киз

отыр-(отырыу)座る—отырғыз- 座らせる

же-(жеу)食べる—жегиз- 食べさせる

жат-(жатыу)横たわる—жатқыз- 横たわらせる

ақ-(ағыу)流れる—ағыз- 流す

##### ③ -т- : 主に母音、й-, л-, р-に終わる2音節からなる動詞語幹に附加される。

оқы-(оқыу)読む—оқыт- 読ませる

қуры-(қурыу)減ぶ—қурт- 減ぼさせる

азай-(азайыу)減る—азайт- 減らせる

қутыл-(қутылыу)免れる—қутылт- 免れさせる

ер-(ериу)ついて行く—ерт- ついて来させる

қорық-(қорқыу)恐れる—қорқыт- 恐れさせる

##### ④ -ар- /\*-ер-, -ыр- / -ир- ; 主に с, ш, т に終わる動詞語幹に附加される。

қайт-(қайтыу)帰る—қайтар- 帰す

бат-(батыу)沈む—батыр- 沈める

пис-(писиу)熟す、煮える—писир- 熟させる、似る

## II. 受動態

主として、「(他者によって)～される」意を表す。動詞語幹に**-ыл-** / **-ил-** / **-л-** (母音と、л以外の子音の後)、**-ын-** / **-ин-** / **-н-** (лと、**-ла-** / **-ле-**の後)を附加することによって表される。

аш-(ашыў)開く—**ашыл-** 開かれる  
боя-(бояў)色を塗る—**боял-** 色が塗られる  
кура-(кураў)組み立てる—**қурал-** 組み立てられる  
ал-(алыў)取る—**алын-** 取られる  
таярла-(таярлаў)準備する—**таярлан-** 準備される  
тәрбияла-(тәрбиялаў)教育する—**тәрбиялан-** 教育される

また、この受動態の形式は、単に他動詞から自動詞を形成する場合にも用いられることが多い。

есити-(еситиў)聞く—**еситил-** 聞こえる  
жыйна-(жыйнаў)集める—**жыйнал-** 集まる  
көтер-(көтерилий)上げる—**көтерил-** 上がる  
таўыс-(таўысыў)終える—**таўсыл** 終わる (語中の **ы** は脱落)  
туў-(туўыў)産む—**туўыл-** 生まれる

## III. 再帰態

「自分に対して～する」、「おのずと～する」意を表す。動詞語幹に**-ын-** / **-ин-** / **-н-**を附加することによって表される。なお、時として受動態の**-ын-** / **-ин-** / **-н-**と区別しにくいことがあるが、その場合は文脈により判断しなければならない。

жуў-(жуўыў)洗う—**жуўын-** 自分を洗う  
кий-(кийий)着る—**кийин-** 自分で服を着る  
күт-(күтий)күтин-  
сүрт-(сүртий)сүртин-  
шеш-(шешиў)шешин-  
көр-(көрий)көрин-

なお、若干の心的の動作を表す語にも附加され、再帰態の付かない対を有さないものがある。  
қуўан-(қуўаныў)「喜ぶ」、қызған-(қызғаныў)「ねたむ；けちる」、сағын-(сағыныў)「重い偲ぶ」などが挙げられよう。

## IV. 相互・共同態

「互いに対して～する」、「一緒に～する」意を表す。動詞語幹に **-ыс-** / **-ис-** / **-с-**を附加することによって表される。

ал-(алыў)取る—**алыс-** 取り合う  
кер-(кериў)引っ張る—**керис-** 口論する、口げんかする  
күл-(күлий)笑う—**күлис-** 笑いあう、皆で笑う  
соқ-(соғыў)たたく—**соғыс-** 戦う

сөйле-(сөйлеу)話す—сөйлес- 会話する  
таны-(таныу)認識する—таныс- 知り合う

なお、態の語尾は文意に複合的にも用いられる。сөйлестирил- (共+使+受)「会話させられる」、кийиндир- (再+使)「自分で服を着させる」、писирт- (使+使)「(他人に)煮させる」など。

問い：次の文を態の語尾に注意して訳しなさい。

1. Маған мына сүүретти үлкейтиу керек.
2. Кийим кеншекти жийнастырдың ба?
3. Мен бланкти дурыс толтырдым ба?
4. Қурбақа еки ретинде де секирип устатпайды.
5. Ол гармонь тартып қосық айтып кейятыр.
6. Келгенлерди мийманханаға оранастырдық.
7. Муғаллим бизлерге сабақ түсиндирди.
8. Ол Қаракөл қасында жерленди.
9. Дүкән қай ўақытта ашылады?
10. Бул қосық қосықлар топламына киргизилди.
11. Бул магазинде азық-аўқат сатылады.
12. Түүел дерлик келисти.
13. Мениңше бул мәселени ақылласып шешиу керек.
14. Мен сиз бенен ушырассам деп едим.
15. Биз бийыл орта мектепти питиремиз.
16. Мени мына адрес бойынша жеткизиңиңши.

17. Тез жүрмесек жаўынға жуўынып қаламыз.
18. Биз шөптің арасында жасырындық.
19. Дәрини бир рет иштим, шыпасы анық билине қойған жоқ.
20. Ол күшикти кроватьтың үстине жатқызып қойды.
21. Мына тисти қаплату керек.
22. Балалар отырғызылған ағашларды жақсы күтті.
23. Аўзыңызды ашып, тилиңизди көрсетиңиз.
24. Бул кишкене магазинде сүт өнімлери сатылады.
25. Ұақыя туўылған ұақытта мен де болдым.
26. Сиз саяхатлаўды унатасыз ба?
27. Газета-журналларға қайсы окошода жазылыўға болады?
28. Үй ишиндегилер хәзил-қалжың айтысып күлисип отыр.

#### (4) 否定形の接尾辞

カラカルパク語動詞の否定は、語幹に否定接尾辞-ма<sup>6</sup>-を附加して表す。語幹の音的条件により、6種類のバリエーションを有す。

動詞の語幹末	否定接辞 -ма <sup>6</sup> -
母音と й, ў, л, р の後	-ма- / -ме-
з, м, н, ң の後	-ба- / -бе-
無声子音の後	-па- / -пе-

#### 動詞の否定形附加例)

- есити-(еситиў)聞く—естпе- 聞かない
- кел-(келиў)来る—келме- 来ない
- аўыр-(аўырыў)痛む—аўырма- 痛まない
- қуй-(қуйыў)注ぐ—қуйма- 注がない
- жаў-(жаўыў)降る—жаўма- 降らない

жаз-(жазыў)書く—**жазба-** 書かない  
 жүз-(жүзиў)泳ぐ—**жүзбе-** 泳がない  
 қан-(қаныў)満足する—**қанба-** 満足しない  
 исен-(исениў)信じる—**исенбе-** 信じない  
 көм-(көмыў)埋める—**көмбе-** 埋めない  
 сиң-(сиңиў)しみ込む—**сиңбе-** しみ込まない  
 уш-(ушыў)飛ぶ—**ушпа-** 飛ばない  
 уқ-(уғыў)理解する—**уқпа-** わからない  
 ет-(етиў)する—**етпе-** しない  
 қаш-(қашыў)逃げる—**қашпа-** 逃げない  
 кеп-(кебиў)乾く—**кеппе-** 乾かない  
 кес-(кесиў)切る—**кеспе-** 切らない  
 кет-(кетиў)去る—**кетпе-** 去らない  
 жатлық-(жатлығыў)練習する—**жатлықпа-** 練習しない

なお、この否定接尾辞は、相や態の接尾辞同様に、見かけは新しい語幹を形成しているものであるが、常にそれらの接尾辞よりも後に附される（ただし、若干の否定動詞には例外あり）。

же-(жеў)食べる—**жеме-**食べない—**жегизбе** 食べさせない  
 оқы-(оқыў)読む—**оқыма-**読まない—**оқытпа-**読ませない—**оқытқызба-**読まさせない  
 тасла-(таслаў)捨てる—**таслама-**捨てない—**таслатпа-**捨てさせない  
 айт-(айтыў)話す—**айтпа-**話さない—**айтқызба-**話させない  
 қорық-(қорқыў)怖がる—**қорықпа-**怖がらない—**қорқытпа-**怖がらせない

#### <参考>

カラカルパク語の辞書の見出しには、よく否定形で用いられる動詞も見出し語として挙がっている。**аўма-(аўмаў)**「そっくりである」、**жайпа-(жайпаў)**「滅ぼす」、**мойыма-(мойымаў)**「困難に屈しない」、**мызғыма-(мызғымаў)**「動じない」、**үндеме-(үндемеў)**「黙りこくる」など。

問い：次の文を、否定に注意して訳しなさい。

1. Мениң хеш жерим аўырмайды.
2. Поезд арман қарай жүрмейди, вагонды босатыңызлар.
3. Ессаплаўышты тоқтатпаңыз.
4. Жақтырсаң ал, жақтырмасаң алма.
5. Мен сөйлесе алмадым.

6. Түри ағасынан аўмайды екен.

7. Қашпанлар!

**(5) 命令形**

一人称では「～しよう」、「～しましょう」などの意向や勧誘を、二人称では「～せよ」、「～して下さい」などの命令を、三人称では放任などを表す。否定語幹形成の**-ма<sup>6</sup>**が付いた形でも活用する。

人数		数		
		単数	複数	
一人称		母音の後	-йын / -йин	-йық / -йик
		子音の後	-айын / -ейин	-айық / -ейик
二人称	普通	動詞語幹に同じ		-ынлар / -инлер
	尊敬	-ыңыз / -иңиз		-ыңызлар / -иңизлер
三人称		-сын / -син		

**命令形活用例)**

- жаз-(жазыў) 書く
- жазайын! 私は書こう
- жаз! 君は書け
- жазыңыз! 貴方は書いてください
- жазсын! 彼は書くよう
- жазайық! 私たちは書きましょう
- жазыңлар! 君たちは書いて下さい
- жазыңызлар! あなた方は書いて下さい
- жазсын! 彼らは書くよう

- жазба-(жазбаў) 書かない
- жазбайын! 私は書かないでおこう!
- жазба! 君は書くな!
- жазбаңыз! あなたは書かないでください!
- жазбасын! 彼は書かないよう! 彼に書かせぬよう!
- жазбаайық! 私たちは書かないでおきましょう!
- жазбаңлар! 君たちは書かないで下さい!
- жазбаңызлар! あなた方は書かないで下さい!
- жазбасын! 彼らは書かないよう! 彼らに書かせぬよう!

**I. 命令形の表す意味**

**a) 一人称命令形**

- ① 話しての意向、勧誘などを表す。



**Мен сизге қанша төлейин?**

私はあなたにいくらお支払いしましょうか？

**Сизге қанша нан әкелейин?**

私はあなたにいくつナンを持ってきましょうか？

**Кәне тексерейик!**

どれ、私たちは調べてみようよ！

**Жүриңлер, енди күтпейик!**

君たち、行った行った。私たちはもう待たないことにしようよ！

- ② депに導かれる引用文で、主語の意向、趣向を表す。

**Мен Турсын менен сөйлесейин деп едим.**

私はトゥルスンと話したいんですが。

**Сиз не айтайын деди.**

あなた何を言おうとしてたんですか？

**Отырыспаң енди қызайын деди.**

パーティーはこれからまさに熱を帯びようとしていた。

**Күн жауайын деп турған секилли.**

雨が降ろうとしているようだ。

## **b) 二人称命令形**

- ① 聞き手に対する、話し手の命令や願望を表す。

**Мен кітап оқыйын, сен жақсылап тыңлап отыр.**

私は本を読もう。君はよく聞いていなさい。

**Дем алыңыз.**

あなたは休憩してください。

**Сәл күтип тұрыңыз, мен хәзир келемен.**

ちょっと止まっていてください。私、すぐ来ます。

## **c) 三人称命令形**

- ① 話し手の、第3者に対する命令や願望、放任などを表す。

**Қайтып кетсин!**

彼は帰させよ！

**Бараман десе барсын.**

彼が、私が行くのだ、と言うなら行かせよ。

**Тууылған күнің құтлы болсын!**

君の誕生日が幸福でありますように！（誕生日おめでとう）

**Жақсылап сақлап қой, жоғалып қалмасын.**

しっかり保管しておけ！なくなってしまうぬよう！

**Ол алдын денсаулығы оңалып алсын.**

彼にはまず健康を回復してもらおう。

**Бузық адамды тез устаңлар, қашып кетпесин.**

君たち、悪人を早く捕まえてよ！逃げてしまわぬよう！

**Посылканың салмағы 8 килограмнан аспасын.**

小包の重さは8キロを超えぬよう。

**Исенимиңіз кәмил болсын.**

ご安心を！（あなたの信頼が完全でありますよう）

② 反問、反語を表す。

**Ким билсин!**

誰が知っているのか！（私は知りません。知るもんか。）

**Оларда оқыў оқыйтуғын ақша қаяқтан болсын.**

彼らに、学校で学べるようなお金が、どこにあるのか。

**Оны өлшейтуғын ондай үлкен тарези қаяқтан болсын.**

それを量るそんな大きな量りが、どこにあるのか。

なお、命令形の語末には、催促のニュアンスを加えたり、命令の語気を弱めるために、語気動詞 **-шы / -ши,-шеши** が附加されることがある。

**Сен айтшы/айтшеши!**

君、言いなよ！

**Көңилин сорай кетийинши.**

私もお見舞いに行こうや。

**Есаплаңызшы.**

お勘定、お願いします。

**Маған бұрыш бериңизши.**

私に胡椒を取ってくださいな。

**Анаў қысынып қалып жүрмесин, азырақ сөйлеши!**

あいつが気まづくなってしまうまいよう、お前、少ししゃべってやれよ。

## II. もう一つの一人称複数命令形

また、口語において、一人称複数命令形には、**-айық / -ейик, -лық / -лик** という形も見られる。傾向として **-алық<sup>4</sup>** は、皆で一緒に行くという何らかの前置きや同意があった場合などによく用いられるようである。なお、同じ語尾を付けた **айталық** は「例えば」の意で用いられる。

**Көне танысайық.**

さあ、お知り合いになりましょうよ。

**Жол тайғақ көринеди, абайлаңқырап жүрейик.**

道が滑りやすくなっているようだよ。もっと注意して歩こうね。

**Ол ушын үшеўмиз де қалпағымызды далаға илип қояйық.**

そのためには、俺たち3人とも、帽子を外に吊るしておこうぜ。

A.—Келдің бе? 来た?

B.—Келдим. 来たよ。

A.—Онда жүрейик. じゃあ、行きましょう。

### III. 願望形

この他カラカルパク語には、話し手の聞き手に対する願望や希望を表す表現がある。それは動詞語幹に **-ғай** / **-гей**, **-қай** / **-кей** を附加し、一般に二人称へ向けて発話され、「～しますよう希望します」、「～しますようお願いします」といった意味で用いられる。

**Сақ болғайсаң.** 君は油断しないようにね。

**Умытпағайсызлар.** 皆々様、お忘れになりませんよう。

**Қулақларыңыз түрик болғай!**

さて、では皆様のお耳が注意深くありますよう。(→注意してお聞きください(ラジオ放送で))

### (6) 動詞人称接尾

動詞人称接辞は、以下で習う単純過去形(-ды<sup>4</sup>)と条件形(-са<sup>2</sup>)にのみ附加される人称語尾である。

動詞人称接辞：

人数		数	
		単数	複数
一人称		-м	-қ / -к
二人称	普通	-ң	-ңлар / -ңлер
	尊敬	-ңыз / -ңиз	-ңызлар / -ңизлер
三人称		—	

### (7) 単純過去形

カラカルパク語の単純過去は、動詞語幹に **-ды** / **-ди**, **-ты** / **-ти** (-ды<sup>4</sup>)を付けることによって表される。なお、**-ды** / **-ди** は動詞語幹が母音か有聲子音の時、**-ты** / **-ти** は無聲子音の際に附加される。

動詞単純過去系(-ды<sup>4</sup>) + 動詞人称接辞：

人数		数	
		単数	複数
一人称		-дым / -дим, -тым / -тим	-дық / -дик, -тық / -тик
二人称	普通	-дың / -диң, -тың / -тиң	-дыңлар / -диңлер -тыңлар / -тиңлер
	尊敬	-дыңыз / -диңиз, -тыңыз / -тиңиз	-дыңызлар / -диңизлер, -тыңызлар / -тиңизлер
三人称		-ды / -ди, -ты / -ти	

※なお参考までに、単純過去形は、単なる過去時制を表す他に、確定近未来を表す場合にも用いられることがある。

**Биз кеттик.** (では) 私たちは行きます。

**Енді өллим ғой.** これで私は死ぬのだな。

単純過去形附加例)

жаз-(жазыў) 書く

жаздым 私は書いた

жаздың 君は書いた

жаздыңыз あなたは書いた

жазды 彼は書いた

жаздық 私たちは書いた

жаздыңлар 君たちは書いた

жаздыңызлар あなた方は書いた

жазды 彼らは書いた

қуй-(қуйыў) 注ぐ

қуйдым 私は注いだ

қуйдың 君は注いだ

қуйдыңыз あなたは注いだ

қуйды 彼は注いだ

қуйдық 私たちは注いだ

қуйдыңлар 君たちは注いだ

қуйдыңызлар あなた方は注いだ

қуйды 彼らは注いだ

басла-(баслаў) 始める

басладым 私は始めた

басладың 君は始めた

басладыңыз あなたは始めた

баслады 彼は始めた

басладық 私たちは始めた

басладыңлар 君たちは始めた

басладыңызлар あなた方は始めた

баслады 彼らは始めた

оқы-(оқыў) 読む

оқыдым 私は読んだ

оқдың 君は読んだ

оқыдыңыз あなたは読んだ

оқыды 彼は読んだ

оқыдық 私たちは読んだ

оқыдыңлар 君たちは読んだ

оқыдыңызлар あなた方は読んだ  
 оқыды 彼らは読んだ

кес-(кесиў) 切る  
 кестим 私は切った  
 кестиң 君は切った  
 кестиңиз あなたは切った  
 кести 彼は切った  
 кестик 私たちは切った  
 кестиңлер 君たちは切った  
 кестиңизлер あなた方は切った  
 кести 彼らは切った

кеспе-(кеспеў) 切らない  
 кеспедим 私は切らなかった  
 кеспедиң 君は切らなかった  
 кеспедиңиз あなたは切らなかった  
 кеспеди 彼は切らなかった  
 кеспедик 私たちは切らなかった  
 кеспедиңлер 君たちは切らなかった  
 кеспедиңизлер あなた方は切らなかった  
 кеспеди 彼らは切らなかった

### (8) 条件

カラカルパク語の条件形は、動词语幹に **-ca / -ce (-ca<sup>2</sup>)**を付けることによって表される。

動詞条件形(-ca<sup>2</sup>) + 動詞人称接尾辞

人数		数	
		単数	複数
一人称		-сам / -сем	-сақ / -сек
二人称	普通	-саң / -сең	-саңлар / -сеңлер
	尊敬	-саңыз / -сеңиз	-саңызлар / -сеңизлер
三人称		-ca / -ce	

### 条件形附加例)

жаз-(жазыў) 書く  
 жазсам 私が書けば  
 жазсаң 君が書けば  
 жазсаңыз あなたが書けば

жазсақ	私たちは書けば
жазсаңлар	君たちが書けば
жазсаңызлар	あなた方が書けば
жазса	彼らが書けば

жазба-(жазбай)	書かない
жазбасам	私たちが書かなければ
жазбасаң	君たちが書かなければ
жазбасаңыз	あなた方が書かなければ
жазбасақ	私たちが書かなければ
жазбасаңлар	君たちが書かなければ
жазбасаңызлар	あなた方が書かなければ
жазбаса	彼らが書かなければ

## 条件の用法

### I. [-ca<sup>2</sup>]

#### ① [条件を表す]

**Дым тез сөйлейди екенсиз, ақырын сөйлесеңиз бола ма?**

あなたはとても速く話しますね。ゆっくり話して頂いてもいいですか？

**Ўақытында оқып бола алмасаңыз, ўақытын создырыўыңызға да болады.**

期間中に読み終えることができなかつたら、期間を延長させることもできます。

**Сизге буны биреў түсиндирип берсе жақсы болар еди.**

あなた方にこれを、誰かが説明してくれたらいいんですがねえ。

#### ② [事の順序を表す]

**Ўәзирлердің биреў түсиндирип; <Өтеди, рас өтеди. Пәлен ўақытта биреўдің бир шойбалтасыны басын кемирип кетипти> десе, енди биреў; <Биреўдің ләгенин тесип кетипти тышқан> дейди.**

大臣の1人が立ち上がって、「(齒で) 切れますよ、本当に切れます。いついつの時に、ある者の1本の斧

のかかと部を齧ってしまったそうです」というと、もう1人は、「ある者の金属盥を、穴を開けてしまっ

たそうですよ、ねずみは」と言う。

#### ③ [文末で、話し手の希望を表す]

**Қайсы тамақ тез болса, соны әкелсеңиз.**

どれでも、はやくできた料理から持ってきてください。

**Өттең, сол қустың аяғынан услай алып, тағы бир ушып, сол шәхәрди араласам еди.**

ああ、私はその鳥の脚をつかまえて、再び飛んでいって、その町を歩き回れたらなあ。

### II. [-ca<sup>2</sup> екен]

- ◆ [話し手の願う希望・理想を表す]: 「～であったら良いなあ」

Гейпара биреулер жүрген жерине түкиреді, бул сабақласлар усы кемшиликлерин дүзетсе екен.

一部の、少数の人たちはやたらとつばを吐き散らします。こういったクラスメート達は、この欠点を直し

てもらえたらなあ、と思います。

### III. [-сам<sup>2</sup> деймен]

- ◆ [第一人称の希望を、控えめに相手に伝える]: 「私は～したいなと思います」

Жеке жұмыс пенен бир күнге рухсат аксам деймен.

個人的な用事で1日休暇の許可をもらいたいんです。

Алып кетип оқысам деймен. Неше күнге алыўға болады?

持って行って読みたいと思います。何日借りることができますか?

Мен аўылға барып, атам менен кемпирапамды көрип қайтсамба деймен.

私は故郷へ行って、おじいさんとおばあさんの様子を見て来ようかなと思います。

### IV. [-сашы<sup>2</sup> екен] (-са<sup>2</sup> +-шы (催促動詞) )

- (1) [話し手の希望、後悔などを表す]: 「～であったらなあ！」

Асықпасаңшы(сеши)!

せくなよ!

Бир ўақыт үй сыртына шығып, жарық дүньяны көрсеңши(сеши).

一時、家の外に出て、あんたは世の中を見たらどう。

Соларды маған айтып берсеңши(сеши)!

それらを私に話してよ!

Ертерек билсекши!

もっと早めに私たちが知っていたのなら!

- (2) [話し手の抱く仮定的な状況を、聞き手に強く問いかける]: 「もし～であった場合はどうですか？」

Егер ол ойран болған имарат орнындағы үйиндинің астында қалсашы(ше).

もしそれ(この場合“種子”)が、破壊された建築物の堆積の下に落ちた場合、どうなんですか?

Егер оны биреу байқап қазып алсашы/ше?

もしそれを、誰かが気付いて掘り出して取った場合は、どうなるの?

### V. [-са<sup>2</sup> да<sup>2</sup>]

- ◆ [譲歩を表す]: 「～するとしても」、「～したとしても」

Кеширек келсеңиз де болар.

あなたは遅めに来てもよいでしょう。

Ол жүдә зийрек боласа да, қыйыншылық пенен оқыған.

彼はとても聡明でありましたが、とても苦学しました。

Орысша онша жақсы билмесем де, негизги мазмуну менен чегизги ўақыясын түсіндим.

私はロシア語はそれほどよくは知らなくても、基本的な内容と基本的な出来事を理解しました。

VI. [-ca<sup>2</sup> керек] (-ca<sup>2</sup> + керек 《必要》)

◆ [話し手の推測を表す]: 「多分～なのだろう」、「～かも知れない」

Мен де билмеймен, ол Москвадан командировкаға келсе керек.

私も知りません。彼はモスクワから出張で来たのかも知れません。

Ол президенттің өзи менен қол алысатыңлығын үш уйықласа да ойламаған болса керек.

彼は、大統領本人と握手を交わすということを、3度寝たとしても思ったことはなかったでしょう。

Патима оның тұрған жери бул жерден онша алыс болмаса керек, део ойлады да, өзи излеп таппақшы болады.

パティマは彼の住んでいる場所はここからはそれほど離れていないだろうと考えて、彼を自分で見つけた

くなるのである。

VII. [-ca<sup>2</sup> нетти] (-ca<sup>2</sup> + ет- 「する」 の単純過去形)

◆ [話し手の希望を表す。-ca<sup>2</sup> жақсы болар еди 「～すれば良いのですが」と互換可能。だが、稀に用いられるのみ]

Мен де барсам нетти.

私も行きたいなあ。

Зонтик алсаңыз нетти.

あなたは傘をお持ち下さればいいのに。

問い：次の文を、条件形の各用法に注意して訳しなさい。

1. Мениң даўысымды дүзетип қойсаңыз болама?
2. Бунда бир сыр болса керек.
3. Емлеўханаға барып көринип келсем деймен.
4. Өттең келсе екен.
5. Жасырмай айтсаң нетти.
6. Олай болса, өзимизден шыққанынан биреўин алсаңыз болар.
7. Күйеуім меннен бойшаң еди, оған 2 метр 20 сантиметр алсам жетер ме?
8. Сен айтпасаң да ол биледи.
9. Айтқаның келип, қуўып шықса екен!



10. Қорықпаң! Қанша кеш жатсам да ерте тураман.
11. Ол айнаға қарауды жақтыратуғын болса керек?
12. Соны тағы бір қайталап айтсаңыз екен.
13. Малшылардың семьяларын көрсем деймен, бола ма?
14. Сен шырт уйқыда екен сең, шақырсам да оянбадың.
15. Ол қаншалықты үлкен пил екен? - жүдә үлкен болса керек.
16. Тезирек жүрсенши!
17. Хат жазып талай шақырып еди, барып келсем деймен.
18. Ол бүгін машинаның бар екенін билсе де, келмейди.
19. Негизи сол бір атым насыбайдай нәрсе қырық-елиу атқа артатуғын гәүхәрдан да қымбат нәрсе болса керек.
20. Бул бәлким, сондай орынды хұрмет тутыудан ямаса наўқас жуғады деп сақланыудан туўған болса керек.

#### (9) еди

**еди** は、動詞類に属する唯一の付属形式で、形式的には動詞 **e-**「～である」の単純過去形である。この動詞 **e-**は、活用形が完全には整っていない。**еди** 以外には、**екен**, **емес**, 反問の **емей**, **емеген(де)**や、**емес** と同義の **емен**, 嘲笑の **-мыс / -мис** などが見られるが、条件形や (ただし、**биресе**「時には」**ямаса**「あるいは」に見られる **-есе**, **-са** はその痕跡か?)、完了/未来完了副動詞形、命令形などの諸形がカラカルパク語では見られない。

**еди** : ①断定・過去 (時制) を表す。名詞に附加された場合などは多く過去を表し、「～だった」と訳される。また形動詞や副動詞に付いた場合では、断定の意が顕著である。

②文末で、謙虚さの語気を添える。「～なのですが」

※なお、**едим** は **ем**、**едик** は **ек**、**едиң** は **ең**、**еди** は **-ди** という短形が見られる。

#### **еди** を用いた若干例)

1. Япырым-ай, бир нәрсе болса жақсы болар еди.

2. Бизге сәл тәнепис жасасақ жақсы болар еди.
3. Сен оған құл болыўшы ма едиң?
4. Ол үш бала туўып еди, биреў де турмады.
5. Көрмесем де елден еситип едим.
6. Қарақалпақтың тойына қатынасып па едиң?
7. Мен гуўалық ушын сүүретке түсейин деп едим.
8. Сен келгенде, мен кітап оқып отыр едим.

### (10) 動詞の語幹

カラカルパク語の不定形には、本来名詞の形である-*ў* という形が当てである。多くの場合、この-*ў* を取り去ったものがそのまま動詞の語幹となる。

- алыў—ал- 取る
- жеў—же- 食べる
- артыў—арт- 増やす
- сиңиў—сиң- しみ込む
- келиў—кел- 来る
- барыў—бар- 行く

1つの不定形が全く異なる2つの動詞を代表しているケースもある。両者は活用が異なるため、特に注意が必要である。なお、下記( )内は三人称現在形の場合の活用を示す。

- ашыў—①аш-開ける(ашады)—②ашы-発行する(ашыйды)
- ериў—①ер-ついて行く(ереди)—②ери-融ける(ерийди)
- жаныў—①жан-燃える(жанады)—②жаны-研ぐ(жанийды)
- жарыў—①жар-割る、裂く(жарады)—②жары-十分にある(жарыйды)
- жуўыў—①жуў-洗う(жуўады)—②жуўы-近づく(жуўыйды)
- кетиў—①кет-去る(кетеди)—②кети-欠けらせる(кетийди)
- қурыў—①қур-建てる(қурады)—②қуры-滅びる(қурийды)
- сасыў—①сас-慌てる(сасады)—②сасы-腐って悪臭を放つ(сасыйды)
- ысыў—①ыс-揉みこする(ысады)—②ысы-暑くなる(ысыйды)

また、次のようなケースもある。この場合は、*ў* 形をはずすと *ы* / *и* が挿入されるものである。以下、過去形(*ы*/*и* が挿入される形)と現在・未来形(*ы*/*и* が脱落する形)と比較してみたい。

- бүркий 液体をふりかける : бүрикти (過) —бүркеди (現未)

қорқыў 恐がる : қорықты (過) —қорқады (現未)  
қырқыў 羊毛を刈る : қырықты (過) —қырқады (現未)  
иркиў 儉約する : ирикти (過) —иркеди (現未)  
силкиў はたく ; ゆさぶる : силикти (過) —силкеди (現未)  
урсыў 叱る : урысты (過) —урсады (現未)

※なお、これらの動詞活用の参考までに記すと、**ы/и**が挿入されるのは過去形の他、子音で始まる否定形 **-ма**<sup>6</sup>、条件形**-са**<sup>2</sup>、完了形動詞**-қан**<sup>4</sup>などが直接語幹に接続される場合である。また、**ы/и**が脱落するのは現在・未来形の他、完了副動詞**-ып**<sup>3</sup>、未完了形動詞語尾**-атуғын**<sup>3</sup>などが附加された場合などである。

従って、形は似ているが、以下のものとは活用が異なるため取り扱いには注意する必要がある。

қарғыў ジャンプする : қарғыды (過) —қарғыйды (現未)  
сергийў リフレッシュする : сергиди (過) —сергийди (現未)  
сорғыў 乾き始める : сорғыды (過) —сорғыйды (現未)  
толқыў 波立つ : толқыды (過) —толқыйды (現未)  
шылқыў 濡れる : шылқыды (過) —шылқыйды (現未)

## (11) 副動詞

カラカルパク語の副動詞とされるものは次の3種類である。

- I. **-ып, -ип, -п (-ып<sup>3</sup>)** 完了副動詞
- II. **-а, -е, -й (-а<sup>3</sup>)** 未完了副動詞
- III. 一人称命令形 **-деп атыр- /отыр- / тур-**待機・目的副動詞

副動詞とは日本語動詞の連用形に相当するものであり、「動詞由来の副詞」を意味する用語である。言い換えれば、副動詞語尾 I.~III.の附加したその形自体は、副詞相当語であり、不変化詞類に属する(動詞本来の特性は、その語幹部が有している)。よって、文中での連用形用法では、他の副詞同様、いかなる人称表示も取らない。

なお、副詞 I., II.は、文末において、副動詞人称助辞を伴って述語として終止形を構成する。

### I. 完了副動詞 (-ып<sup>3</sup>)

**-ып<sup>3</sup>**は母音調和と動詞語幹の条件に従って附加される。

#### I-1) **-ып<sup>3</sup>**の文中用法

文中での完了副動詞を表す意味は、ちょうど日本語の連用形「～して」とほぼ同じと言える。ある行為がいったん終わり、次の動作が始まる。または、その終わった行為が、次の動作に何らかの副詞的な作用を及ぼしている、といった意味で用いられる。

Мектепке барып келдим.

私は学校に行ってきました。

Жаз шығып, күн жылыды.

夏になり、天気は暖かくなりました。

同じ動作を2回繰り返して用いると、その行為が複数回行われたことなどを表す。その際、2つの副動詞はハイフンでつなげて書かれる。

Ол баласын сүйип-сүйип алды.

彼は子供に何度もほおずりした。

また、語幹が **п** に終わる **жап-(жабыў)**「覆う」、**кеп-(кебиў)**「乾く」、**сеп-(себиў)**「撒く」、**тап-(табыў)**「見つける」、**теп-(тебиў)**「蹴る」等の完了副動詞は、**жаўып**「覆って」、**кеўип**「乾いて」、**сеўип**「撒いて」、**таўып**「見つけて」、**теўип**「蹴って」のようになる。

なお、完了副動詞の否定形は**-мап<sup>6</sup>**となるが、文末用法しか持たない。文中では、未完了副動詞の否定形**-май<sup>6</sup>**が広く用いられる。

### I -2) -ып<sup>3</sup>の文末用法

完了副動詞は **[-ып<sup>3</sup> 完了動詞人称助詞]** という構造で、発見・伝聞完了を表現する（完了副動詞人称助詞については、人称助詞の項目を参照のこと）。また、**[-ып<sup>3</sup> еди]** という構造では、過去の点的に行われた動作を断定する、点断定の用法がある（これについては **[-қан<sup>4</sup> еди]**（経験断定）を参照）。ここでは特に、その前者について学ぶこととする。

完了副動詞 (-ып<sup>3</sup>) + 完了副動詞人称助詞：

人数		数	
		単数	複数
一人称		-пан / -пен	-пыз / -пиз
二人称	普通	-саң / -сең	-саңлар / -сеңлер
	尊敬	-сыз / -сиз	-сызлар / -сизлер
三人称		-ты / -ти (肯定文で) , па / пе (否定文で)	

上で、**[-ып<sup>3</sup>完了副動詞人称助詞]** は、発見・伝聞完了を表す、と書いたが若干補足説明をしておきたい。この動詞類における発見・伝聞完了は、名詞類に属し発見・伝聞を表す **екен** に対する、「動詞版の形式」と考えられる。

その意味するところは、話者自身にとって「元はよく知らなかったのだが、何と～していたのであった」とか、「実は知らないうちに、ついうっかり～してしまっていた」などの、自分自身で察知した「発見」である。ときに驚きの感情なども込められて発話される。また、聞き手が傍らにいれば、その内容の伝達も兼ねることとなる。

また、伝聞には2つの段階が含まれている。1つは、上述に引き続き、認知にいたる根拠が人からの伝聞による「発見」の意である。「へえ、実は～だったんだ」と聞き手はその新情報を自分自身へ「発見」として投げかけている。そしてもう1つは、その人から聞いた「発見」を、更に第三者の前で口にする行為である。聞き手が傍らにいた状況下で、発言によって自分自身へも向けて「発見」を再認識する、という伝達様式である。この場合「(人からの受け売りなのだが) 実は～なんだよね」といった、自身と相手への双方向の伝達となる。

従って、以下の附加例に付した訳は紙面の都合上至極簡潔なものであるが、上述の含意があることを推し量

って読み取って頂きたい。

また、更にその下には発見文の例を付した。童話などでは、伝聞の用例はよく目にする。しかし、発見の用法は直接話法的なものなので、口語色が強く、あまり書かれたものでは目にしない。訳文と読み比べながら、用いられる状況を理解して頂きたい。

### -ып<sup>3</sup>の附加例)

жаз-(жазыў) 書く

жазыппан 私は書いたのだ

жазыпсаң 君は書いたのだ

жазыпсыз あなたは書いたのだ

жазыпты 彼は書いたのだ

жазыппыз 私たちは書いたのだ

жазыпсанңлар 君たちは書いたのだ

жазыпсызлар あなた方は書いたのだ

жазыпты 彼らは書いたのだ

қуй-(қуйыў) 注ぐ

қуйыппан 私は注いだのだ

қуйыпсаң 君は注いだのだ

қуйыпсыз あなたは注いだのだ

қуйыпты 彼は注いだのだ

қуйыппыз 私たちは注いだのだ

қуйыпсанңлар 君たちは注いだのだ

қуйыпсызлар あなた方は注いだのだ

қуйыпты 彼らは注いだのだ

басла-(баслаў) 始める

баслаппан 私たちは始めたのだ

баслапсаң 君は始めたのだ

баслапсыз あなたは始めたのだ

баслапты 彼は始めたのだ

баслаппыз 私たちは始めたのだ

баслапсанңлар 君たちは始めたのだ

баслапсызлар あなた方は始めたのだ

баслапты 彼らは始めたのだ

оқыма-(оқымаў) 読まない

оқымаппан 私は読まなかったのだ

оқымапсаң 君は読まなかったのだ

оқымапсыз	あなたは読まなかったのだ
оқымапты	彼は読まなかったのだ
оқымаппыз	私たちは読まなかったのだ
оқымапсаңлар	君たちは読まなかったのだ
оқымапсызлар	あなた方は読まなかったのだ
оқымапты	彼らは読まなかったのだ

発見文を中心とした用例)

1. Мен қәте еситип қалыппан.  
私は聞き間違えてたよ！
2. Сегизге он бес минут қалыпты, тез жүрейик!  
ちょうどの時間だ！8時15分前だ！速く行こうぜ！
3. Бираз уйқлағанға жақсы сергип қалыппан.  
少しばかり眠ったので、調子が出たよ！
4. Мен қәлемимди умытып кетиппен.  
私はペンを忘れて来ちゃった！
5. А.—Ояның ба? Жақсы уйқладың ба?  
あんた、起きたの。よく眠れた？  
Б.—Жүдә жақсы уйықлаппан.  
すっごくぐっすり眠ったよ。
6. Кеширесиз. Мен көрмей қалыппан.  
すみません、私、見ませんでした。
7. Гөш порсып кетипти.  
肉が腐って悪臭を放っちゃってる。
8. Бул сүүрет жүдә жақсы тартылыпты.  
この写真、とてもよく撮れているね！
9. Құдай урды, нан күйип кетипти.  
しまった！焼きパンが焦げてしまった！
10. Бояў тегис берилмепти.  
塗料がむらなく塗られていないよ。
11. Саат тоғыз болып қалыпты, машина еле жүрген жоқ.  
なんということだ、9時になってしまったじゃないか。自動車はまだ動いていないぞ。
12. Ыақыт өтип кетипти-аў, сааттың даўсын да еситпеппен!  
時間が過ぎてしまった！時計（アラーム）の音も聞こえなかったよ！
13. Мен сасқалақлағанымнан қазанға суў қуйып жибериппен, жалын оннан сайын улғайып кетти.  
私は慌ててしまったので、鍋へ水を思わず注いでしまったんです。炎はますます大きくなってしまいました。
14. Кемпирапаның бундай наўқас екенин билмеппиз ғой, хәмел бар ма!  
おばあちゃんがこのような（ひどい）病気であったということを私たちは知らなかったよ。もはや手の施

し

ようがあるものか。

15. A.—Ана шыпакер не депти?

あのお医者さんは何と言っていたの？

Б.—Қайнаған сууды көп ишиңиз депти.

沸かした水を沢山飲んでくださいと言っていましたよ。

II. 未完了副動詞 (-a³)

-a³も母音調和と動詞語幹の条件に従って附加される。

II-1) -a³の文中用法

文中での未完了副動詞を表す意味は普通、付帯状況である。日本語の連用形「～しながら」とか、「～して」、「～した状態で」などと訳される。また、「～するや (いなや)」の意味でも用いられる。

Еки қыз қолтықтаса мектепке бет алды.

2人の少女は腕を組んで学校に向かった。

なお、бол-(больй)「なる」の未完了副動詞が、与格と用いられた場合は、「専ら～のためだけに～する」という意味を表す。

Саған бола келдим.

私は君だけのために来ました。

同じ動詞を2回繰り返して用いると、その行為が持続して行われていることなどを表す。また、2つの副動詞はハイフンでつなげて書く。

Мен жүре-жүре шаршадым.

私は歩きに歩いてくたびれた。

II-2) -a³の文末用法

[-a³+未完了副動詞人称助詞]は、現在・未来形を形成する。日本語同様、単に「～する」、「～します」を意味する。

未完了副動詞語尾は、動詞語幹の種類によって3タイプに分かれる。語幹が子音で終わる閉音節であれば、母音調和に従って -a または -e を附加する。また、語幹が母音終わりであれば -й を附加する。

未来完了副動詞 (-a³) + 未完了副動詞人称助詞 :

人数		数	
		単数	複数
一人称		-ман / -мен (-м)	-мыз / -миз
二人称	普通	-саң / -сең	-саңлар / -сеңлер
	尊敬	-сыз / -сиз	-сызлар / -сизлер
三人称		-ды / -ди (肯定文で) , ма / ме (否定文で)	

これらの否定形は、動詞語幹に-ма<sup>6</sup>-を付けたものである。

未来完了副動詞附加例)

жаз-(жазыў) 書く

жазаман 私は書く

жазасаң 君は書く

жазасыз あなたは書く

жазады 彼は書く

жазамыз 私たちは書く

жазасаңлар 君たちは書く

жазасызлар あなた方は書く

жазады 彼らは書く

қуй-(қуйыў) 注ぐ

қуяман 私は注ぐ

қуясаң 君は注ぐ

қуясыз あなたは注ぐ

қуяды 彼は注ぐ

қуямыз 私たちは注ぐ

қуясаңлар 君たちは注ぐ

қуясызлар あなた方は注ぐ

қуяды 彼らは注ぐ

басла-(баслаў) 始める

баслайман 私たちは始める

баслайсаң 君は始める

баслайсыз あなたは始める

баслайды 彼は始める

баслаймыз 私たちは始める

баслайсаңлар 君たちは始める

баслайсызлар あなた方は始める

баслайды 彼らは始める

оқы-(оқыў) 読む

оқыйман 私は読む

оқыйсаң 君は読む

оқыйсыз あなたは読まなかったのだ

оқыйды 彼は読まなかったのだ

оқыймыз 私たちは読まなかったのだ

оқыйсаңлар 君たちは読まなかったのだ



оқыйсызлар      あなた方は読まなかったのだ  
оқыйды           彼らは読まなかったのだ

кеспе-(кеспеў) 切らない  
кеспеймен       私は切らない  
кеспейсең       君は切らない  
кеспейсең       あなたは切らない  
кеспейсиз       彼は切らない  
кеспейди        私たちは切らない  
кеспейсеңлер    君たちは切らない  
кеспейсизлер    あなた方は切らない  
кеспейди        彼らは切らない

なお、2 人称の際の疑問文では、疑問助詞 **ма<sup>6</sup>** が人称助詞に挟まれて用いられることがある。その時 **ма<sup>6</sup>** は **-мы / -ми** と綴られる。また、文の意味も、聞き手に対して親近の情が込められた語気を持つ。

**Барасаң ба? ⇔ Бармайсаң?**

君は行くか? ⇔ 君は行くの?

**Келмейсең бе? ⇔ Келмейсең?**

君は来ないか? ⇔ 君は来ないの?

問い：次の文を、未完了副動詞に注意して訳しなさい。

1. Ақшаң жете ме?
2. Ай жер шарын айналады.
3. Күнине үш рет аўқаттан кейин ишесиз.
4. Қәте жазып қойсам қайтемен?
5. Бара-бара әдетленип кетесең.
6. Мен де онша жақсы жаза алмайман.
7. Маған хәзир бере турыўыңа бола ма?
8. Неге болмайды? Алып ислесе бересең болды ғой.
9. Суў сай қуалай ағып атыр.

10. Басқа ҳешнәрсе айтпайсыз ба?

### III. 待機・目的副動詞（一人称命令形+**-деп атыр-** / **отыр-/тур**）

#### III-1) 一人称命令形**-деп атыр-** / **отыр-/тур** の文中用法

① 「～するつもりでいる」

жүр-(жүрийү)「(動いて)～している」、отыр-(отырыў)「(じっとして)～している」、тур-(турыў)「(立って)～している」か、その助動詞形 атыр, жүр, отыр, тур との組み合わせで表される。

Ол мектепке барайын деп отыр.

彼は学校へ行こうとしている。

Мен қалаға барайын деп тұрыппан.

私は町へ行こうとしている。

Жазайын деп отырған жоқпан.

私は書こうとしているのではない。

問い：次の文を、待機・目的副動詞に注意して訳しなさい。

1. Сени излейин деп тур едим, дәл ўақытында келиң.

2. Биз китап алайын деп келдик.

3. Мен зат жазайын деп отырыппан.

4. Там қулайын деп тур, тиреў тиреп қой.

#### (12) 助動詞

カラカルパク語の助動詞とされるものは次の5種類である。

I. -ған / -ген, -қан / -кен (-қан<sup>4</sup>) : 完了形動詞

II. -атуғын / -етуғын, йтуғын (-атуғын<sup>4</sup>) : 未完了形動詞

III. -ар / -ер, -р (-ар<sup>3</sup>) : 予期形動詞

IV. -ўшы / -ўши (-ўшы<sup>2</sup>) : 従事形動詞

V. -мақ / -мек, -бақ / -бек, -пақ / -пек および、これらに-шы / -ши の付いた形 (мақ(шы)<sup>6</sup>) : 意向形動詞

形動詞とは、日本語動詞の連体形に相当するものである。「動詞由来の形容詞」を意味する用語である。よって、形容詞と同様に物事の性質や様態を表し、I.～V.のいずれもが、名詞を前から限定修飾する他、文末で述語としても機能する。

なお、文末述語用法において、形動詞の後に **еди** や **екен**、**емес**、推量の助詞などが続く場合、人称表示は一括してこれらに附加される。

#### I. 完了助動詞 (-қан<sup>4</sup>)

-қан<sup>4</sup>は、母音調和と動詞語幹の子音の種類に従って、動詞語幹に附加される(-ған / -ген は母音と有声子音

の後、-қан / -кен は無声子音の後)。

### I -1) -қан<sup>4</sup>の限定修飾用法

限定修飾用法の完了形動詞-қан<sup>4</sup>が表す意味は、以下に見る様に、日本語動詞の過去連体形「～した～」とほぼ同じとなる。

оқыған кітап 読んだ本

салынған үй 建てられた家

жаздырған хат 書かせた手紙

Жыйналыста болған колхозшылар үйлерине қайтып барады.

会議に出席したコルホーズ員たちが家々に帰って行く。

Жол тауға көтерілген жерде үш қайның өсіп тұр.

道が山へ上がる場所に3本のカバの木が育っている。

なお、これらが、現在進行を表す4つの補助動詞(即ち атыр-「～している」、жүр-「(動いて)～している」、отыр-「(じっとして)～している」、тұр-「(立って)～している」)に附加された場合は、-қан<sup>4</sup>における完了の意味は薄まり、単に「～しているところの～」意を表す。

жүгіріп келе атырған балалар 走って来る子供たち

писип тұрған мийўели 熟している果物

оқып жүрген мектеп 通学している学校

### I -2) -қан<sup>4</sup>の文末述語用法

#### I -2)-1. [-қан<sup>4</sup>人称助詞]

文末述語としての完了形動詞-қан<sup>4</sup>の用法は、よく単純過去形の-ды<sup>4</sup>と対比して述べられる代表的な用いられ方である。-ды<sup>4</sup>が単なる過去時制を表すのに対して、そもそも完了の形容詞である-қан<sup>4</sup>は、様態を表現するのみで、時制は表さない。すでに行われた行為の存続や、その行為の現在に至るまでの有効性、経験などを表す。文末での人称は、人称助詞の附加によって表される。

Ата-анам жоқары билим алған.

私の両親は、(過去に)高等教育を受けております。

Мен бұрын сизди бір жерден көргенмен.

私は以前、あなたをあるどこかで見たことがあります。

Бұлай деп ким ойлаған!

こんな風だなんて、(これまで)一体だれが考えただろうか!

Абайлаң! Боялған!

「注意、ペンキ塗りたて」

なお、この用法の否定は4種類見られる。

- ① -қан<sup>4</sup>+名詞人称所有語尾+жоқ: жазғаным жоқ
- ② -ма<sup>6</sup>-+ -қан<sup>4</sup>+人称助詞: жазбағанман
- ③ -қан<sup>4</sup>+жоқ+人称助詞: жазған жоқпан

④ қан<sup>4</sup>+емес+人称助詞 : жазғанн емеспен

いずれも「書いたことがない」の意である。この内、①が最も広く用いられ、逆に④はあまり用いられない。

I -2)-2. [-қан<sup>4</sup> еди]

-қан<sup>4</sup>のもう一つのよく用いられる文末用法は、[-қан<sup>4</sup> еди] という構造で、経験断定を表す表現である。「～したことがあるのです」とか「～してたんです」などと訳される。完了形動詞-қан<sup>4</sup> は形容詞なので、時間的な長い有効期間が反映された断定を表現する。

Мен, Асқар және Ораз үшеуіміз оқыған едик.

私、アスカールそしてオラズの3人は一緒に学んだのでした。

Ол қалай деген еди?

彼はどのように言っていた?

なお、еди の附加されたよく似た構造の表現に、完了副動詞を用いた [-ып<sup>3</sup> еди] (点断定) がある。双方とも構造上は「完了断定」を表すが、相対的にこちらは、点的な過去を断定する表現である。時間的な奥行きを必要としない、単発的に行われた行為の断定に用いられる傾向がある。

Сабақласлар мазақлап еди, ол қаперине келген жоқ.

クラスメートは嘲笑したが、彼は気にも留めていなかった。

Мен дәмин татып көрейін деп едим.

私は下見をしてみようと思ったんですよ。

I -3) -қан<sup>4</sup> のその他の用法

-қан<sup>4</sup> は名詞類に属するので、格助詞や名詞形成接尾辞、副詞形成接尾辞などが附加され、構文上いろいろな重要な機能を果たす。ここでは、その-қан<sup>4</sup> の様々な使われ方についての若干を見てゆきたい。

I -3)-1. [-қанда<sup>4</sup>] (-қан<sup>4</sup>+位格)

① [主文の自制に関係なく単に完了相を表し、おかれた状況や、2つの行為の遭遇点を示す]: 「～する際」、  
「～した際」

Муғаллим классқа киргенде, балалар тып-тыныш отыр екен.

先生が教室に入ると、子供たちはシーンと座っているのです。

Мына дәрини аўқатланғанда ишесиз.

この菓を食事の際に飲んでください。

Перде ашылғанда, отырығанлар тынышланып қалды.

幕が開かれると、着席していた人びとはにわかには静まり返った。

② [世のならいを表す] (+現在・未来形): 「～すると (～する)」

Жас үлғайғанда бетке әжим түседі.

年齢が大きくなると、顔にしわが寄る。

Гүз болғанда, құстар жыллы жаққа кетеді.

秋になると、鳥たちは暖かいほうへ去り行く。

Москвада кеш болғанда, Владивостокте таң атады.

モスクワが晩になると、ウラジオストークでは夜が明ける。

- ③ [反問を導く際の事情を述べる]:「～である以上 (～などない)」

Бул билеттер олардың өзлерине жетпей атырғанда, саған қайда?

これらのチケットが、彼ら個人個人に足りていないというのは、君へなんてどこにあると言うんだ?

Сен шеше алмағанда, басқалар қайдан шеше алсын?

君が解けないというのは、他の者がどうして解けようか。

**I -3)-2. [-қанға<sup>4</sup>] (-қан<sup>4</sup>+ (人称所有語尾) +与格)**

- ① [原因を指示する]:「～したことによって」

Еки-үш күн ауырғанға көзі шүңирейип кетипти.

彼は2-3日病気にかかったことによって、目がくぼんでしまったよ。

- ② [対象を指示する]:「～したことに」

Сиз бенен танысқаныма қуанышлыман.

あなたに会えたことにより、喜びをえています。(お会いできて光栄に思います)

Сениң алыпинизм менен шуғылланғаныңа неше жыл болды?

君は登山に携わるようになって、何年になった?

**I -3)-3. [-қаннан<sup>4</sup>] (-қан<sup>4</sup>+奪格)**

[原因を表す]:「～したことにより (～する)」

Оқышы уялғаннан қып-қызыл болып кетти.

生徒は恥ずかしくて真っ赤になってしまった。

Бала қуғаннан күлип жеберди.

子供は嬉しくて笑ってしまった。

**I -3)-4. [-қанлықтан<sup>4</sup>] (-қан<sup>4</sup>+名詞化接辞+奪格)**

[理由を表す]:「～したので (～する)」

Мен шаршағанлықтан отыра кеттим.

私はくたびれたので座り込んでしまった。

Қар көп жауғанлықтан, жол көринбей қалды.

雪が沢山降ったので、道が見えなくなった。

Басқа балалар балық аулауға баратуғын болғанлықтан, мен де жийналдым.

他の子供たちは釣りにでかけることになったので、私も集まった。

**I -3)-2. [-қанша<sup>4</sup>] (-қан<sup>4</sup>+方式副詞形成辞)**

主に、ある行為が行われるに至るまでの状況を述べる。意味は、文脈により大きく4つに分類できよう。なお、否定形は-майынша<sup>6</sup>で、下記①の否定として専ら用いられるようである。

- ① [主文の行為の先行を表す]:「～するよりも先に (～する)」

Биз барғанша ол кетип қалыпты.

私たちが到着するよりも先に、彼は立ち去ってしまっていた。

Ол мен сөйлеп болғанша, тағы да маған; <Буннан былай мен сизди хызмет орныңызға күнде әкеліп тураман>, -деди.

彼は私が話し終わるよりも先に、再び私に、「今後、僕はあなたをあなたの仕事場に、毎日連れてきてあ

げるよ」と言った。

Ол жууап қайтарғанша, тағы бир жау оның тула бойын тағы да қадағалап тинтип, бир нәрсе тауып алмақшы болыпты.

彼が返事をするよりも先に、また別の敵が彼の全身を、またも念入りに探索し、新たに何かを見つけよう

としたのだとさ。

①-◆ [-мағанша<sup>6</sup>]

[①の否定を表す。後続に更に否定後を従える]: 「～しない内は (～ない)」

Сен оны жеңбегениңше ол малыңлы бермейди.

君は、彼を負かさないうちは、彼は君の家畜を返してはくれない。

Олар келмегенинше биз кетпес едик.

彼らが来なければ、(そもそも) 我々は立ち去るはずはない。

Жазыушы өмирге терең бойламағанша, бәхәли шығарма жаза алмайды.

作家は、実生活に深く浸らない内は、魅力的な作品を著わすことはできない。

Жолдаслардың денсаулық жағдайына қарамағанша, бәрін жұмысқа салыуға болмайды.

同志達の健康状態に気を配らない内は、全員を労働に投入してはいけない。

② [期限を表す]: 「～するまで (ずっと～である)」

Көрискенше сау болыңыз!

また会う時まで、お元気で。

Тап соған қоса елперіңе жеткенше тарықпайтуғын ақша да берейин.

更にそれに加え、あなた方が故郷へ着くまでに難渋しないくらいのお金も与えましょう。

Үйде таң атқанша шам сөнбеди.

家では夜が明けるまで、ランプは消えなかった。

Туп түбине жетпегенше ислей беремен.

その事の詳細に目が届くまで、私はやり続けます。

③ [比較選択を表す]: 「～するよりは (～した方がましである)」

“Бұл сыяқлы нахақ ханның үезири болғанша, болмағаның артығырақ” деп кетиуіге таярланыпты.

「このような正義のないハンの宰相になるよりも、ならないそれ自体の方がましだ」と、立ち去る支度を

したのだとさ。

Киси елинде султан болғанша өз елинде ултан бол.

他国で君主となるよりも、自国で靴底 (=庶民) となれ。

Ойынға берилгенше билим алыуға умытылсеши.

遊びに没頭するよりも、知識の吸収に邁進しなよ。

④ [程度を表す]: 「～するくらいに (～する)」

Ишек-силеси қатқанша күлди.

彼は、はらわたがこわばるほどに笑った。

Ишеги түйилгенше күлди.

彼は、腸がつまるほどに笑った。

I-3)-6. [-қан<sup>4</sup> (ы)менен] (-қан<sup>4</sup> + 人称所有語尾 + 助格)

[譲歩を表す]: 「～であるのに、(～だ)」、「～したところで、(～だ)」

Сизден жасым үлкен болғаным менен билгенлерим аз.

あなたより私の年齢は大きい、知っていることは少ない。

Ол дым аз айтқаны менен, бәрін де орынлы айтты.

彼はほんのわずかしこ話さなかったが、全てを適切に言った。

Кишкене ис болғаныменен де мәніси зор.

それは小さな事柄だとはいえ、意義は大きい。

Тәүбелегенменен хешнәрсе өнбейди.

神よと叫んだところで、何も好転はしない。

### I -3)-6. [-қан<sup>4</sup> шығар / көринеди / сыяқлы...] ; [-қан<sup>4</sup> 推量語]

[過去推量を表す]: 「～したみたいだ」

Мен бир нәрседен зәхәрленген шығарман.

私は何かで中毒になったようだ。

Маған сууық тийген шығар.

私は風邪を引いたみたいだ。

Бәри жыйналып алып гөшти жеп атырған көринеди.

皆で集まって、肉を食べているみたいだ。

### I -4) -қан<sup>4</sup> の副詞的用法

#### I -4)-1. [-қан<sup>4</sup> болса]

[完了条件を表す]: 「～していたならば」

Ол китап оқып атырған болса, мазасын алмай-ақ қойыңыз.

彼が本を読んでいるのなら、あなたは邪魔しないでおいってください。

#### I -4)-2. [-қан<sup>4</sup> бол-]

[素振りを表す]: 「～した振りをする」

Ол көрмеген болып алдымыздан өтип кетти.

彼は見なかった振りをして、私たちの前から通り過ぎて行った。

Бир ұақытта жигит кийимин шешип, отқа арқасын қыздырған болып, терис қарап шынтақлап жатты.

ある時、青年は服を脱いで、火に背中を暖めている素振りをして、反対側を向いて肘をついて横たわった。

Қыз өтирик ауырған болады да, бир күни ағасына : — Мен ауырыў болдым, — дейди.

娘はうそで病気になった振りをして、ある日兄に「私、病気になったの」と言うのである。

## II. 未来完了動詞

-атуғын / -етуғын, йтуғын は、未来完了副動詞-а<sup>3</sup> と同様に、母音調和と動詞語幹の種類に従って附加される。そもそもこの未来完了動詞は、複合接尾辞で、-а<sup>3</sup> (未完了副動詞) に тур- (現在進行の補助動詞) 「(立って) ~している」の-қан<sup>4</sup>形 (完了形動詞) が附加、縮合 (即ち、турған>туғын) してできたものである。

## II-1) -атуғын<sup>3</sup> の限定修飾用法

名詞の限定修飾語として用いる時の-атуғын<sup>3</sup>の意味は、「～するところの～」、「～するための～」(cf.英語のing形) という意味になる。

оқытуғын кітап 読もうとしている本

оқытуғын жас 就学年齢

аралайтуғын жер (ぶらぶら見て回る場所→) 観光スポット

тахтай тилетуғын завод (板をカッティングする工場→) 製材所

айтыўға болмайтуғын сөз 言ってはいけない言葉、禁句

Хәзир сиз түсетуғын остановка.

次はあなたが降りる停留所です。

Илгери басыўды тилемейтуғын киси бар ма екен?

進歩を望まないような人なんているのか？

## II-2) -атуғын<sup>3</sup> の文末述語用法

### II-2)-1. [-атуғын<sup>3</sup> еди] / 否定形 [-майтуғын<sup>6</sup> еди]

- ① [過去の習慣や状態を断定する]: 「かつては～するものであった。」

Ол автобуспенен Алматыға бар келетуғын еди.

彼はバスでアルマトゥへ行き来していました。

Будан бирнеше жыл бурын Қытай балаларының 98 проценти оқымайтуғын еди.

これより数年前、中国の子供たちの98パーセントは、就学しないのが常であった。

- ② [反日仮想を表す]: 「本来なら～するところだ (だが実際は...)」

Ол аш қасқырды әуел бастан ақ қутқармаса болатуғын еди.

彼は腹ペコの狼を初めから助けなければ良かったのだ。(しかし、実際は助けてしまったのでひどい目にあった。)

Егер мени мына бала жеткізбесе, мен сени таба алмайтуғын едим.

もしも、私をこの子が連れてきてくれなかったのなら、私は君を見つけることはできなかつたでしょう。

Буны адам күши ямаса жел күши менен жүретуғын кемелерменен салыстырыўға улыўма болмайтуғын еди.

これを人力もしくは、風力で動く船と比較するのは、全くだめなことだ。(そもそも比較の対象にすらならない)

### II-2)-2. [-атуғын<sup>3</sup> 推量語] / 否定形 [-майтуғын<sup>6</sup> 推量語]

- ◆ [現在・未来推量を表す]: 「～するだろう」

Ол бүгін жолға шығатуғын шығар.

彼は今日出発するだろう。

Сен қарақалпақ досларменен хәммә ўақыт барыс-келіс жасайтуғын шығарсаң?

君は、カラカルパク人の知り合いと、いつも行き来しているんじゃない？

Ол да усы поездбенен қайтатуғын көринеди.



彼もこの列車で帰るみたいだ。

## II-2)-2. [-атуғын<sup>3</sup> емес]

◆ [見込みのない否定を表す]: 「～するようなことはありえない」

Жақын арада оңа қоятуғын емес!

近い内に好転するようなことなんてありえない。

## II-3) -атуғын<sup>3</sup> の副詞用法

### II-3)-1. [-атуғын<sup>3</sup> бол-]

◆ [状態や傾向の変化、見込みなどを表す]: 「～するようになる」

Жақыннан бери аўқат сиңбейтуғын болды.

近頃、食事が消化しなくなった。

Мен көзим жақсы көрмейтуғын болдым.

私はものがよく見えなくなりました。

## III. 予期形動詞 (-ар<sup>3</sup>)

-ар<sup>3</sup>は、母音調和と動詞語幹の子音の種類に従って、動詞語幹に附加される (-ар / -ерは子音語幹へ、-рは母音語幹に)。また、その否定形は-мас<sup>6</sup>である。

### III-1) -ар<sup>3</sup>の限定修飾用法

-ар<sup>3</sup>は「～する (べき)」、「～するであろう」程度の意味であるが、名詞の限定修飾語としての利用は限られている。物事のありさまや性質などを客観的に捉えた、理屈めいた若干の定型化した表現に用いられる。また、この否定形-мас<sup>6</sup>は、「～するはずない」といった、断固とした否定を表す。

айтар сөз 言う言葉

кийер кийим 着る服

минер ат 乗る馬

келер шақ 未来形 (文法)

Аяқ басар жер жоқ. 足の踏み場もない。

өшпес мийнет 消ええぬ功績

умытылмас ұақыя 忘れられぬ戦闘

### III-2) -ар<sup>3</sup>の文末述語用法

#### III-2)-1. [-ар<sup>3</sup>人称助詞]

◆ [未来推量、蓋然性を表す]: 「将来において、おそらく～する可能性があるろう」

Мен ертең киноға барарман.

私は明日、映画に行くかもしれない。

Хәзирше тура турасын, үш-төрт күннен соң ойласармыз.

目下、そのことはおいておいて、3,4日したら私たちは話し合うこともあるろう。

Жумыс болмаса келип қалар.

仕事がなければ、ひょっとして彼は来るかもしれない。

Онда қысындырмайыңш. Келип турарсыз!

では、無理強いはしません。今後ともよくいらして下さいよ。

### III-2)-2. [-ар<sup>3</sup> еди]

- ① [確定未来を表す]: 「将来～することになっている」

Мен барар едим.

私は行くことになっています。

- ② [特にとして、控え目な断定や希望を表す]: 「別に悪くはなからう」、「そうあればよい」

Пүткіл жер шарын алып магнит деўге болар еди.

全地球を大きな磁石と言っても良いでしょう。

Бизге жұмыстан соң ушырассақ жақсы болар еди.

私たちにとっては、仕事の後に会えたらよいのだが。

- ③ [假定未来を表す]: 「本来なら～することになっていた」

Егер сиз мени ертип келмегениңизде, оның үйін еле таба алмаған болар едим.

もしあなたが私を引き連れて来なかったら、私は彼の家をまだ見つけられずにいたことでしょう。

### III-3) -мас<sup>6</sup> の文末述語用法

#### III-3) -1. [мас<sup>6</sup> 人称助詞]

[断定否定を表す]: 「～しようはずがない」

Мениңше ол бүгін келе қоймас.

私が思うに、彼は今日来っこないよ。

Кеш батып баратыр, отыра берсем соңғы машинаға да үлгере алмаспан деймен.

夜が更けてゆきます。私は更に居座り続ければ、最後の車にも間に合いっこありませんよ。

Бүгін жаўын жаўа қоймас па екен?

今日、雨はふらずにおくかなあ?

#### III-3) -2. [мас<sup>6</sup> еди]

- ① [確定否定未来を表す]: 「将来～することになっていない」

Мен бармас едим.

私は行くことになっていない。(私は行きっこない)

Егер бир тал мерўерт топыраққа көмилип жатса, онда оның түри топырақтан өзгеше болмас еди.

もし、一粒の真珠が土に埋まっていたならば、その色は土とは何ら(今後)変わってくることはない。

- ② [假定否定未来を表す]: 「本来なら～することになっていなかった」

Мени күтип турмай-ақ өзиң бара берсең болмас па еди?

私を待っていないで、そもそも君はかまわず行ったらいけないのか?

### III-4) -ар<sup>3</sup> の目的語用法

[近未来における行為のあり方を表す]: 「～すべきこと(を)」、「～すること(を)」

Түнде қайда қонарымды билмеймен.

晩に私はどこに泊まるのかしりません。

Айтарыңды жөнименен айт.

君の言おうとしていることを、分かりやすくいいなさい。

Не исперин билмей қатты састы.

彼は何をすべきか分からず、ひどくうろたえた。

### III-5) -ар<sup>3</sup>のその他の用法

#### III-5)-1. [арда<sup>3</sup>] (-ар<sup>3</sup>+位格助詞)

[物事を行う直前を表す]: 「～する際に」、「～する前に」

Еки киси хошласарда; «Хайыр, хош» деди.

2人の人が別れる時、「ごきげんよう、さようなら」と言った。

Ол қыз өлерінде бирнәрсе демеп пе?

彼女は彼の死に際して何か言わなかったのかい?

また、補助名詞 алдында「(その) 前に」と共に用いられ、同様に「～する前に」の意味を表す。

Жигит жүрер алдында ҳаялы менен ақылласыпты.

青年は出かける前に、妻と話し合ったそうだ。

#### III-5)-2. [V-ар<sup>3</sup> - V-мастан<sup>6</sup>] (Vは動詞語幹、-танは奪格)

[行為の間際を表す]: 「今にも～しようとしている時に」

Үйге жетер-жетпестен 家へ今にも着こうとしている時に

жазып болар-болмастан 今にも書き終えんとしている時に

Айтар-айтпастан сөзін тоқтата қойды.

彼は今にも言わんとしている時に、発言を止めてしまった。

### III-6) -мас<sup>6</sup>のその他の用法

- ◆ [-мастан<sup>6</sup>] (-танは奪格。なお、この-мастан<sup>6</sup>は一般に、否定の未完了副同土語尾-май<sup>6</sup>と互換可能である。また、後置詞に分類した қарамастан「～にも関わらず」も、同じこの語尾に由来する)

[予想される行為の不覆行を連用形用法で表す]: 「～せずに」

Ол иркилместен жууап берди.

彼は言葉に詰まることなく、返答を帰した。

Ол уялмастан; «не ушын!?» деп қайта сорау қойыпты.

彼は動じることなく、「なぜだ!？」と逆に質問して返した。

Белгили бир жағына ғана қарамастан, хәржақлама денесине қарау керек.

特定の一面のみを見るだけではなく、各方面の有り様に目を向けなければならない。

Қойындағы боз торғайын дәуге билдирместен алып ылақтырып жиберди.

彼は、彼の懐に入れたヒバリを、巨人に気付かれることなく取り出して、さっと放り投げた。

## IV. 従事形動詞 (-ыўшы<sup>4</sup>)

-ыўшы<sup>4</sup>は母音調和と語幹の種類に従って設備される。動名詞-ў<sup>2</sup>と、従事者を表す名詞から名詞を派生させる接尾辞-шы<sup>2</sup>とが結合した、複合接尾辞である。

### IV-1) -ыўшы<sup>4</sup>の限定修飾用法

#### IV-1)-1. 「～に従事するところ (者)」を表す。

музыка үйрениўши бала 音楽を学んでいる子供

жумысты тексерийши 仕事を検査する人

ел бийлеўши хан 民を支配するハン

また、従事者を説明するばかりでなく、固定的な従事者名詞を派生する。

оқыўшы 生徒

басқарыўшы 支配人、主催者

оқытыўшы 教師

қурастырыўшы 編集者

更に、[-ыўшы<sup>4</sup> болма-] という文型の中では、暫定的な従事者名詞を形成し、「(以後) 決して～する者とならぬように」といった、強い禁止を表す表現に用いられる。

Будан былай келиўши болма.

今後、君は来ないでくれ。

Май жанса, ҳеште оған суў қуйыўшы болма.

油が燃えたら、決してそれに水を注ぐことがないよう。

Бул исти екеўимиз ғана билемиз, ҳешбир жанға айтыўшы болмайсаң.

このことは、私たち2人だけが知っています。君は、他の誰にも決して話してはなりません。

#### V. 意向形動詞 (-мақшы<sup>6</sup>, -жақ)

-мақ<sup>6</sup>は母音調和と、語幹末の子音に従って附加される。(-мақ / -мекは母音と й, ў, л, р の後、-бақ / -бекは з, м, н, ң の後、-пақ / -пекは無声子音の後)。-жақは変化しない。

##### v-1) -мақшы<sup>6</sup> / -жақ の限定修飾用法

名詞を修飾する際の意味は、行為者の意向や希望で、「～するつもりで～」、「～しようとする～」などと訳すると当たろう。

айтпақшы/айтажақ болған сөз 言うつもりという言葉

ислемекши/ислей жақ болған жұмыс するつもりの仕事

Быйыл демалысты қалай өткизбекши/өткизжақ болған ойың бар?

今年は、休暇をどのように過ごす考えがありますか？

Қойшы өз күшине өзін сенбегенликтен жүйрик атпенен қашпақшы/жақ болған нийети бар еди.

羊飼いは、自らの力に自分自身が信頼をおいていないので、駿馬で逃亡するつもりでいるのだった。  
なお、文頭で айтпақшы は、「そういえば」の意である。

Айтпақшы сен қашан келесен?

そういえば、君いつ来るんだい？

##### v-2) -мақшы<sup>6</sup> / -жақ の文末述語用法

###### v-2)-1. [-мақшы<sup>6</sup> / -жақ 人称助詞]

[行為者の意向や希望を表す]: 「～するつもりでいる」

Мен бир сүүретке түспеқшимен/түсежақпан.

私は写真を1枚撮ってもらいたいです。

Олар қайыққа отырып не ислемекши/ислейжақ?

彼らはボートに乗って何をするつもりですか？

Бул мәселеге көп тоқталып отырмақшы/отыражақ емеспен.

私はこの問題について多く述べるつもりはない。

#### v -2)-2. [ -мақшы<sup>6</sup> / -жақ еди ]

[行為の意向や希望を断定的に表す]: 「～するつもりでいる/いた」

Биз түстен кейин оның кеўлин сорап бармақшы/баражақ едик.

私たちは午後、彼のお見舞いに行こうと思っていたんですよ。

Мен бармақшы/баражақ емес едим.

私は行くつもりではなかった。

#### v -3) -мақшы<sup>6</sup> / -жақ の副詞的用法

##### ◆ [-мақшы<sup>6</sup> / -жақ бол-]

[行為者の意向や希望、欲求の発生などを表す]: 「～したくなる」

Ол сени усы жерде күтпекши/күтежақ болған.

彼は君をここで待つことにしていますよ。

Мен саған жақсы бир жұмыс орынын айтпақшы/айтажақ болып келдим.

私は君に重要なある用件を言いたくて来たんです。

Себетлерин көтерген дййханлар поездға отырып қалаға бармақшы/баражақ болып жүр.

籠を提げた農民たちは、列車に乗って町へ行こうとして（あくせくして）います。

### (13) 動名詞

動名詞とは動詞由来の名詞で、動詞と名詞の両方の機能を備えている。ここで特に注意したい動名詞の若干の特殊な用法について見てゆきたい。

#### I. -қы<sup>4</sup>

動詞語幹に、-ғы / -ги, -қы / -ки (-қы<sup>4</sup>)を付し、その上、人称所有語尾が付いたものは、文中でその人称希望や願望を表す。一般に、動詞 кел-「来る」(келий)と共に用いられる。動詞 кел-の人称は、常に三人称である。

Мен опера театрына барғым келеди.

私は、オペラ劇場へ行きたいです。

Мен терапевтке көрингим келеди. (主格: терапевт)

私は内科医に診察してもらいたく思います。

Хешкимнің де кейин қалғысы келмейди.

誰も取り残されたくはない。

Қайсы сызығын жазғым келсе, сол сызығын жаза беретуғын едим.

私は元は、どの線(筆画)を書きたいと思ったら、その線を構わず書いてしまうものでした。(決まっ

た

筆画順には従わずに、好き勝手に線を引いて字を書いてしまうものであった)

## II. -ÿ

本来、動詞の不定形と同じものである。「～すること」という抽象名詞を形成する。普通の名詞と同じように主語として用いられ、名詞人称語尾や、各語尾も附加される。

**Бұл мақаланың жазылыұы қыйын екен.**

この文章の書かれたさまは、かなりよい。(この文はよく書けている)

**Оның бар зейини оқыұда.**

彼のあらゆる注意は学ぶことにある。

### (14) 補助動詞

その動詞本来の意味が薄れ(文法化し)、他の動詞の副動詞形と共に用いられ、その動作の様々な行われ方(アスペクト)を表すようになった動詞群を、補助動詞という。日本語でいう「降りだす」、「行ってみる」、「書きおく」に見られるような、「だす」、「みる」、「おく」といった動詞の用法に相当するものである。

カラカルパク語においてもこの種の動詞群が豊かに発達している。日本語で、これらの表出する細かなニュアンスを表現するためには、いくつもの説明や副詞を補うなどしないと、より正確には解釈できないことなどにも遭遇する。カラカルパク語を習得するための関門の1つとでも呼べるジャンルである。

さて、ここで取り上げる補助動詞は、次のようなものである。

1. ал-(алыұ) 取る
2. бар-(барыұ) 行く
3. басла-(баслаұ) 始める
4. бер-(беріұ) 与える
5. бол-(болыұ) なる
6. жазла-(жазлаұ) ~しそうになる
7. жат-(жатыұ) 横たわる
8. жөнел-(жөнелиұ) 急いで行く
9. жүр-(жүріұ) 行く
10. жибер-(жибериұ) 送る
11. кел-(келиұ) 来る
12. кет-(кетиұ) 去る
13. көр-(көріұ) 見る
14. қал-(қалыұ) 残る
15. қой-(қойыұ) 置く
16. отыр-(отырыұ) 座る
17. сал-(салыұ) 放つ
18. тасла-(таслаұ) 捨てる
19. тур-(турыұ) 立つ
20. түс-(түсиұ) 落ちる

## 21. шық-(шығыў) 出る

では以下、補助動詞の用法と用例を見てゆきたい。ただ、これらの動詞が、動詞本来の意味で用いられた場合の用法に関しては、発想理解の手助けになると思われた場合などを除き、特に言及はしなかった。また、現在嗜好を表す **атыр, жатыр, жүр, отыр, тұр** の 5 語は本書では、これらの統語機能と形態面の特徴から補助動詞とはみない。活用をせず、限定語にもならないこれらは不変化詞である。助動詞の項目を参照されたい。

### 1. ал- 取る

#### ◆ [-ып<sup>3</sup> ал-]

- ① [その行為によって生ずる具体的物を獲得する]

Ол бир күни бир қуўыршақ жасап алды.

彼女はある日、人形を一つこしらえた。

Ағамның арқасында үй салып алдым.

私の兄のおかげで、家を建てました。

Мен жанармай қуйып алыўым керек.

私は給油しなくてはならない。

- ② [その行為による不利益を獲得する]

Мен квартираның гилтин жоғалтып алдым.

私はアパートの鍵をなくしてしまった。

Қолымды қайнаған суўға күйдирип алдым.

私は手を熱湯でやけどしてしまった。

Ол қолын кесип алды.

彼は切って手に怪我をした。

- ③ [その行為自体をしっかりと獲得する]

Ол билегине себет илип алған.

彼女は腕に籠を提げていた。

Бала кетпей отырып алды.

子供は立ち去らずに（図々しく）居座った。

Кесиртке дийўалға жабысып алыпты.

トカゲが壁にくっついてしまっている！

#### ◆ [-а<sup>3</sup> ал-]

- ① [能力を表す] : 「～する能力がある」

Ол хат танымағанлықтан оқый алмады.

彼は文字を知らなかったので、読むことができなかった。

Сорлы бийшара бул жерди адасып таба алмағаннан соң бир адам таўып, соған баслатып келген болса керек.

惨めで可哀相なあの人、この場所を、道に迷って見つけられなかったものだから、1人2人見つけてその人に道案内させて来たのかも知れない。

- ② [可能性を表す] : 「～する見込みがある」

Сиз маған жолығып кете аласыз ба?

あなたは、私に会って行くことはできますか？

Енди қозғалмасақ үлгере алмаймыз.

もうこれで私たちは動かなければ間に合いませんよ。

## 2. бар- 行く

### ◆ [-ып<sup>3</sup> бар-]

- ① [その行為の主体が実際に離れ、遠ざかって行くことを表す]

Сиз қалған ақшаңызды умытып баратырсыз.

あなたはおつりをお忘れになってゆかれていますよ。

Китап түсіп баратыр, устай бер.

本が落ちていくよ！さっとつかまえて！

Самолётимиз жоқары көтерилди. Төменде муз даласы қалып баратыр.

われわれの飛行機は上昇した。下には氷の原が取り残され、過ぎ行く。

Тереңлеп баратыр.

ますます深くなってゆく。

- ② [その行為が先へ（積極的に）進行・発展していく感じを表す]

Малдың саны жылдан-жылға көбейіп баратыр.

家畜の数が年々増えていく。

Науқасы ауырып баратыр.

彼の症状は重くなってゆく。

Жауын сирпилеп барып басылды.

雨がしとしとこぶりになって行って、止んだ。

### ◆ [-а<sup>3</sup> бар-]

[その行為を、ついでの気軽な行為として進行する]

Ала бар.

ついでの持って言ってよ！

Айта бар

ついでの言っちゃってよ！

(なお、[-а<sup>3</sup> бар-]には、「～しに行く」という目的を表す用法もあるため混同せぬよう)

Ол шет жерлерге тексеріу жүргизиуге, сапарға барғанда, ...

彼は外地へ調査しに、旅行へ出かけたとき、...

## 3. басла- 始める

### ◆ [-а<sup>3</sup> басла-]

[その行為が始まることを表す]

Гүздің күни жапырақлар сарғая баслайды.

秋、木の葉は黄色くなり始めた。

Ол бул оқыушыны досқаға шығарды да пүткил класс алдында мазақлап күле баслады.



彼はこの生徒を黒板（の前）へ出して、全クラスの前であざけて笑い始めた。

#### 4. бер- 与える

◆ [-ып<sup>3</sup> бер-]

[その行為が他者のために行われることを表す]

Ол қосықты жақсы айтып берди.

彼は歌を上手に歌ってくれた。

Сиз маған Асанның телефон нөмірін айтып бериңизши!

あなたは私にアサンの電話番号を言ってくださいな！

◆ [-а<sup>3</sup> бер-]

[その行為が何はばかりことなく進行することを表す]

Сизлер сөйлесе бериңизлер.

皆様方、どうぞそのまま話し合いを続けてください。

Ол киноға барайық деп қайта-қайта айта бергеннен соң, бірге барып көріп келдим.

彼が、「映画に行こうよ」と何度も何度も言い続けたものだから、一緒に行って見てきた。

#### 5. бол- なる

◆ [-ып<sup>3</sup> бол-]

[その行為が全て終わることを表す]:「～し終わる」

Кино көріп болып бірге кетейік.

映画を見終わって、皆で一緒に行こう。

Олар кеңсесін тазалап болды.

彼らは事務所を掃除し終わった。

◆ [-май<sup>6</sup> бол-]

[その行為をしなくてはいけないことを表す]

Бундай ескилік пенен гүреспей болмайды.

このような旧習とは闘わなくてはいけない。

Қыс түсіп, суық қысқанлықтан, үйде пешке от жақпасақ болмайтуғын болды.

冬になり、冷え込むので、家ではかまどに火を焚かなくてはいけなくなった。

#### 6. жазла- ～しそうになる

◆ [-а<sup>3</sup> жазла-]:「もう少しで～するところであった」

[動作が、行われる間際であることを表す]

Мен автомобильге үлгере алмай қала жазладым.

私はもう少しで車に間に合わないところだった。

Мен бул жұмысты умытып кете жазлаппан.

私はもう少しでこのことを忘れてしまうところだったよ。

Қорыққаннан жүрегі жарыла жазлады.

彼は、怖くて心臓がはちきれんばかりだった。

## 7. жат- 横たわる

- ◆ [-ып<sup>3</sup> жат-] (ただし、бар- / кел-以外の場合のみ。бар- / кел-が来る場合は-атыр-を用いる)

Таудың етегинде өзен ағып жатады.

※жат-はカザフ語で多く用いられるが、カラカルパク語であまり使われず、-атыр-が頻繁に使われる。

## 8. жөнел- 急いで行く

- ◆ [-а<sup>3</sup> жөнел-]

[その行為が迅速に行われることを表す]

Ол барлық күшименен қаша жөнелди.

彼はありったけの力で駆け逃げた。

Ол келе сала бирден сөйлей жөнелди.

彼はやって来るや、即話し始めた。

## 9. жүр- 行く

- ◆ [-ып<sup>3</sup> жүр-]

- ① [その行為が習慣的に、日頃、身体の動きを伴った行動の中で行われることを、現在進行として表す]

Сен оқып жүрген мектепте мениң әкем муғаллим болып ислейди.

君が通っている学校で、私の父は先生として働いています。

Бул қарақшылар елимнің тынышын алып жүргенлер еди.

この盗賊達は、我が国の平穩を乱して横行している者達だったのでした。

- ② [その行為があちこち、せわしなく行われることを現在進行として表す]

Жалғыз өзиңіз аұқат писирмен деп жүрмей, бизиң үйден жей ғойыңыз.

あなた 1 人、ごはんを作るんだなどとせわしなくしないで、私たちの家でついでに食べてってくださいよ。

- ◆ [-а<sup>3</sup> жүр-]

[жүр- (仕事/日常活動) する際に付帯する行為を表す]

Гезекшилик ислей жүрип үйренемиз.

私たちは、当直の仕事をしながら勉強します。

Олай болса, бәримиз де хаўа райынан берилетуғын мағлыўматқа кеўил бөле жүрейик.

では、私たち皆は、日頃から天気予報に注意して活動しよう。

## 10. жибер- 送る

- ◆ [-ып<sup>3</sup> жибер-]

- ① [その行為がすばやく行われることを表す]

Маған көрсетип жибериң.

私にちょっと見せてくださいよ！

Мени көрип жылап жиберди.

彼は、私を見てたちまち泣いてしまった。

- ② [その行為が決然と行われることを表す]

**Бармасаң, онда сени биз усы қудыққа арқансыз таслап жиберемиз.**

お前が行かないのなら、では、お前を俺たちはこの井戸に、綱なしで放り込んでやるぞ。

**Арыслан оны аяғыменен урып жығып, жарып жиберди.**

ライオンは彼を脚でたたいて倒し、引き裂いてしまった。

## 11. кел- 来る

- ◆ [-ып<sup>3</sup> кел-]

- ① [その行為の対象が、近づいてくることを表す]

**Гүз жақынлап келди.**

秋が近づいてきた。

- ② [その行為の対象が、近づいてくる感じを表す]

**Олардың бирлесіуі күн сайын күшейіп келеди.**

彼らの団結は、日増しに強まってきます。

- ◆ [-а<sup>3</sup> кел-]

[「来る」動作に付随して行われる行為を表す]

**Есикке барғанымда ишки жақтан әкем шыға келди.**

扉の所へ行ったら、中から父が（出会い頭に）出てきた。

**Бис сизден хал сорай келдик.**

私たちはあなたに、ご機嫌伺いしに参りました。

## 12. кет- 来る

- ◆ [-ып<sup>3</sup> кет-]

- ① [その行為の対象が、実際の元の間から去ることを表す]

**Таудан тас домалап кетти.**

山から石が転がっていった。

**Ол басқалардың дүнья-мүлкін алдап әкетти.**

彼は他の人の全財産を騙し取っていった。

- ② [その行為が（他者の力の及ばぬところで）すっかり行われてしまうことを表す]

**Үй қалап кетти.**

家が倒れてしまった。

**Жауын жауып жол ылай болып кетти.**

雨が降って道がぬかるみになってしまった。

**Сен жүкті мықлап буу, шешилип кетпесин.**

お前、荷物をしっかり縛れ！ほどけてしまわぬように！

**Патша қырық үезирдің айтқан сөзине онша исенип кетпепти.**

王は、40人の大臣の言った言葉があまりに信じられなかったそう。

**Оның дауысы жүдә жууан екен, басқалардың дауысын түуел басып кетти.**

彼の声がとても大きいのでした。他の人たちの声をことごとく押さえ込んでしまった。

Волга әстен-әстен кеңейеди де жағалары улыўма көринбей кетеди.

ボルガ川は少しずつ少しずつ広がってゆき、その岸と言う岸は全く見えなくなってしまう。

- ③ [感情や感覚等に関わる動作が、にわかになりに強くなることを表す]

**Уялып кеттим.**

私は恥じ入ってしまいました。

**Шөллөп кеттик.**

私たちは喉がからからに渴いてしまいました。

**Қарным аш болып кетти.**

私はお腹が空いてしまいました。

**Басым аўырып кетти.**

私の頭が痛くなってしまいました。

**Денем қышып кетти.**

私の体がにわかになりに痒くなりました。

**Бала қорқып кетти.**

子供はにわかにおびえ上がった。

**Ашыўдан тула бойы титиреп кетти.**

怒りから彼の全身がにわかになりに震え上がった。

- ◆ [-а<sup>3</sup> кет-]

- ① [その行為が、手間なく行われる様を表す]

**Мени биеге ала кетши!**

私をついでに連れて行ってよ！

**Ертең мен ат әкелип сизди ала кетейин.**

明日、私は馬を持ってきて、あなたをお連れしましょう。

**Ол мени танымаса да, үйир адам дай әңгимелесе кетти.**

彼は私と面識がなくとも、親しい間柄の者のように気兼ねなく話した。

- ② [その行為が、たちまちの内に行われることを表す]

**Ол зейинли киси, басын айтсаң ар жағын түсине кетеди.**

彼は聡明な人で、君が彼の頭を働かせれば、事の次第をたちまち理解してしまうよ。

**Бир жерге келгенде алты қанат ақ орда гезлесе кетипти.**

ある場所へ来たとき、6枚の格子壁でできた白い宮殿が突然、目に入ってきた。

- ◆ (なお、[-а<sup>3</sup> кет-]には、「～しに出かける」という目的を表す用法もあるため混同せぬよう)

**Ол досты менен аманласа кетти.**

彼は、彼の友達に挨拶をしに出かけた。

### 13. көр- 見る

- ◆ [-ып<sup>3</sup> көр-]

[その行為の体験を表す]

**Қарақалпақша сөйлеп көр!**

カラカルパク語を話してみな！

Бул исти мен билмеймен, ана кисиден сорап көр.

このことは私は知らない、あの人に尋ねてみなよ。

Ол хызметте шаршап көрген адам емес.

彼は仕事において、これまで疲れを感じたことのない人間だ。

◆ [-a<sup>3</sup> көр-]

[多くの命令形を用いて、懇願の意を表す]

Олай деп дей көремиз.

そのようにおっしゃらないで下さい。

Мен қарақалпақша сөйлегенимде сөзим қопаллау болып шығады, буны кеуілңизге ала көрмеңиз.

私はカラカルパク語を話すと、言葉がぎこちなめになります。このことをあなたはお気かけないでください。

14. қал- 残る

◆ [-ып<sup>3</sup> қал-]

- ① [ある状態になることを表す]

Магазин жабылып қалды.

店は閉まってしまった。

Оның оң көзи соқыр болып қалды.

彼の右目は失明してしまった。

- ② [その行為の完結を表す]

Ол жолға шығыпты, бәлким ертең келип қалар.

彼は出発したそうだよ。多分、明日到着するだろう。

Муғаллим бир баланың жыртық кийим менен келгенин байқап қалды.

先生は、1人の子供がぼろぼろの服でやって来たのを目に留めた。

- ③ [その行為が不意の結果になることを表す]

Мен енди барайын деп отырғанымда, муғаллим өзи келип қалды.

私がちょうど出かけようとしていたら、先生本人がやってきた。

Ертең уйықлап қалма!

明日、寝坊しないでよ！

Кешқурын бир жаққа кетип қалма.

晩はどこかへでかけてしまうな。

- ④ [その行為がもうじき実現することを表す] (始まる、終わる、近づく、出来上がる等に関わる意味を有する動詞と用いられると、よくこの意味を表す)

Таң атып қалды.

もうじき夜が明けようとしている。

Мен тапсырмамды орынлап болдым, өзиң де орынлап болып қалған шығарсаң.

私は宿題をやり終えたよ。君自身も、もうじきやり終わるんじゃないの。

◆ [-a<sup>3</sup> қал-]

- ① [その行為が突然行われることを表す]: 「たちまち～する」

Оның жүзіндегі күлкі изи өше қалды.

彼女の顔の笑みのあとが、突然消えてしまった。

Бұл жалмауыз кемпір екен, жеті баслы жыланға айнала қалды.

これは、鬼婆であったのだ。たちまち、七首の蛇にへんげした。

- ② [その行為が、成り行きで、そうなることを表す]

Автомобиль әстен келип тоқтай қалды.

車がゆっくり走ってきて止まった。

Мынау телефон нөмерім, келе қалса маған хабарлап қоярсыз.

これは、私の電話番号です。(品物が)届いたら私にご一報ください。

## 15. қой- 置く

※文法的には **қой-**と表記されるが、口語的に**-ғой**と発音されることが多い。

- ◆ [-ып<sup>3</sup> қой-]

- ① [その行為の結果をある場所にしておく意を表す]

Ол хәр күні баласын мектепке апарып қояды.

彼女は毎日、自分の子供を学校に送り届けている。

Сен анау кітапты түрге бөліп қой.

君、あの本を種類別に分けておきなよ。

- ② [その行為を、実行したという事実をつくっておく意を表す]

Сиз сүрткіш пенен столды сүртіп қойыңыз.

あなたは、ふきんで机を拭いておいてください。

Мен саған оны сөзсіз таныстырып қояйын.

私は君に彼を必ず紹介するよ。

Оны шақырып қойсаңыз қайтеди?

あなたは、彼を呼んで頂けないでしょうかねえ? (電話口で)

Мен бір жақсы орынды қолдан жиберіп қойдым.

私は一つのよい機会を手元から取り逃した。

- ◆ [-а<sup>3</sup> қой-]

- ① [さっと手際よくその行為が実現されるさまを表す]

Мен соған барып келе қояйын.

私は彼のところへちよっと行ってきます。

Бүгін кетпей қоймайман.

今日、私は行かなければなりません。

Ол қоллай қоймас.

彼は同意すまい。

Соңына дейін еле жазылып бола қоймаған еди.

その最後まで、まだ書かれ終わってはいなかったのであった。

Аңшылар әдеуір ғамланып үмітлі болып шықса да, оларға аң онша көп гезлесе қоймайды。

獵師たちは相当に準備を整えて、希望いっぱいにでかけたものの、かれらに獣はそれほど沢山遭遇はしな

いのである。

- ② [命令形で用いて、年上の者が、年下や子供などにやさしく行為を促す]

**Келе қой, балам!**

こっちへおいで、坊や!

**Сен барып әкеле қойшы, — деп хаялын жумсапты.**

「お前、ちょっと行って取ってきておくれよ」と妻を遣わした。

- ◆ [-май<sup>3</sup>-ақ қой-] (-ақは強意助詞)

[その行為が、さっとは完遂されずにある意を表す]

**Мына китапты таба алмай-ақ қойдым.**

私は、この本が（どうしても）見つからなかったんです。

**Жүр, биз оны елемей-ақ қояйық.**

行こう、私たちは彼を相手にせずにおこう。

**Жұмысың болса келмей-ақ қой.**

君は、用事があるなら来ないでおきなよ。

## 16. отыр- 座る

- ◆ [-ып<sup>3</sup> отыр-]

**Мен оқып берейин, сенлер тыңлап отырып жазып алыңдар.**

私が読んであげよう、君たちはきいていて、書き取りなさい。

**Ол бұл мәселеден тайсалып отырған жоқ.**

彼は別にこの問題を避けているわけではない。

**Ол хәе 12 саат сайын бамбуктың бойын өлшеп отырды.**

彼は、12時間毎に竹の丈を測っていた。

- ◆ [-а<sup>3</sup> отыр-]

[отыр- (座る行為/静的動作) する際に付帯する行為を表す]

**Жұрт түүел келип болғанша, газета оқый отырайық!**

人が皆、集合し終わるまで、新聞を読んでいようよ!

**Хәрқандай исти ой жуўырта отырып ислеў керек.**

いかなることも、頭を働かせながら行わなければならない。

## 17. сал- 放つ

- ◆ [-ып<sup>3</sup> сал-]

[何らかの放つ行為を表す]

**Мен сени шығарып салғым келеди.**

私は君を送り出してあげたい。

**Енди қойшыдан сорағанда, ол да шынын айтып салады.**

次に羊飼いを尋ねると、彼も真実を打ち明けるのである。

◆ [-a<sup>3</sup> сал-]

[~した直後に、~するなり、の意を表す]

Ол жүгин қоя салды да, үстине отыра кетти.

彼は荷物を放り出して、その上にどかっと腰を下ろした。

Келе салып құлай кеткениң не?

君は、やって来るなり倒れこむのは何だ？

Мен бул қосықты есите сала оны ойладым.

この歌を聴くなり、私は彼のことを考えた。

## 18. таста- 捨てる

◆ [-ып<sup>3</sup> таста-]

① [実際に捨てる行為を現す]

Пештиң күлин алып төгип тасташы.

ストーブの灰を取って、あけて捨ててよ。

Ишкен дәриниң бәрин құсып тастады.

彼は飲んだ薬を、みなもどして吐き出してしまった。

② [その行為が決然と実行されることを表す]

Қолымдағы исти ислеп тастап, кейинирек жатайын.

手元の仕事を片付けてしまって、後々横になるよ。

Кереги жоқ болса, апарып тастамайсаң ба?

必要がなければ、持って行って突っ返してこないわけ？

Бул ретки жарыс бизиң гейбир хәлсизликлеримизди ашып тастады.

今回の試合は、我々各人の力の無さを暴露した。

Әкем оған урысып тастады.

私の父は、彼を叱り付けてやった。

## 19. тур- 立つ

◆ [-ып<sup>3</sup> тур-]

① [習慣的行為を、現在進行として表す]

Хәр күни мени жұмыс орныма апарып турды.

彼は、毎日私を仕事場に連れて行っていました。

Үзбей хат жазып турыңыз.

あなたは、途切れなく手紙をよこしてくださいね。

Удайы келип турыңыз.

あなたは、しょっちゅういらしてくださいね。

② [断続的・持続的な行為・状態を現在進行として表す]

Егер телефон ызыңлап турып алса, телефон линиясы босамағанлығын билдиреди.

もし電話がツウーツウーツウーと繰り返しているようなら、電話の線が空いていないことを示しています。



Жауын қуйып турғанлықтан қонақлар түске дейін үзилип-созылып келди.

大雨が降っていたので客人たちは正午になるまで、とぎれとぎれにやって来た。

Қалада электр шырағы жарқырап турады.

町では、電灯が輝いている。

Биз писип турған жүзим ағашларының қасына келип тоқтадық.

私たちは、熟している葡萄の木々の傍らへ来て立ち止まった。

③ [[-ып<sup>3</sup> турып] として、転折を表す]

Клей, конверт ала келемен деп турып умытып кетиппен, усы жерде бар ма?

糊と封筒を持ってくるといっておいて、私はすっかり忘れてしていました。ここにありますか？

◆ [-а<sup>3</sup> тур-]

[しばらく、暫時的にその行為を行うことを表す]

Қәлеминди бере тур.

君のペンをちょっと貸して！

Тоқтай турыңызшы!

しばらく（立ち）止まっていて下さいな！

Асықпа, асықпай тура тур.

あせるな、あせらずにしばらく待ちなよ！

◆ [-май<sup>6</sup> турып]

[「～していない」状況下における条件を表示する]

Машина котланбай турып жүрмейди.

機械は火気がないのでは、動きません。

Мамасы келмей турып баласы кетпейди.

母親が来ないようなら、その子は行きません。

Гейде биреудің кәсибин билмей турып одан жөн сорауға тура келгенде, не деу керек?

時に、相手方の職業を知らないで、その人から尋ね事をしなくてはならなくなったら、どのように言わな

ければなりませんか？

## 20. түс 捨てる

◆ [-а<sup>3</sup> түс-]

[その行為の程度が、強化・進展していったり、いっそう持続してゆくことを表す]

Күннің гүркиреуі күшейе түседі.

雷がますます強まっていく。

Ол ислеген сайын ғайратлана түсті.

彼は、する度に意気込んでいった。

## 21. шық- 出る

◆ [-ып<sup>3</sup> шық-]

[一定の時間をかけて、ある行為が完遂されることを表す]

Достым берген кітабын мен кеше оқып шықтым.

友達が貸してくれた彼の本を、私は昨日読了した。

Мен бұл жұмысты оның көмегисіз іслеп шықтым.

私はこの仕事を、彼の助けなしでやりのけた。

Ол жақсы мұғаллим болып шықты.

彼は良い教師となった。

Неше күн айқасып ақыры жауды жеңіп шықты.

何日か争って、その行為敵を打ち負かした。

◆ [-а<sup>3</sup>шық -]

[出る行為に付随して行われる行為を表す]

Есикти жаба шығыңыз.

出掛けに扉を閉めてください。

## 不変化詞類

### 副詞

不変化動詞類に属する、最も多岐にわたる来源を持つ語彙がこの中に含まれる。他の品詞類同様、単一の形態素からなるものと、派生によるものが見られる。

#### I. 単一の形態素からなるもの

хәзир 今、үнеми いつも、сәл かすかに、зорға/зордан やっと...

#### II. 派生によるもの

бирден 突然

(<бир 《1》 + ден (奪格語尾))

ауызша 口語で

(<ауыз- 《口》 + -ша (様式副詞形成辞))

бир-бирлеп 1つ1つ

(<бир 《1》 + -ле- (動詞形成辞) + -п (完了副動詞語尾))

дегендей 言うほどに

(<де- 《言う》 + -ген (完了形動詞語尾) + -дей (形容詞形成辞から副詞形成辞への転)) ...

以上の様に副詞は、色々な語彙や接尾辞などから必要に応じて転成されうる。副詞相当の働きをする要素の数はおびただしい。しかし、幸いそれらはみな不変化である。よって本課では、個々の副詞について、これまでの様にいちいち取りあげて用法の解説は行わない。

### 助動詞

本書では、現在進行を表す4つの補助動詞 жат-/атыр-, жүр-, отыр-, тур-からの派生語 жат/атыр, жүр, отыр, тур を、助動詞と呼んでいる。これらはそれ自体、何ら動詞らしい活用をしないばかりか、格語尾をとったり、形容詞として用いられるなどの名詞類の特徴すらも備えていない。ただ動詞の副動詞形をとるか、単独で元の動詞に由来する物事の存在を表すのみである。よって、これらは明らかに不変化詞類に含まれる。

これらの用いられる文の人称は、人称助詞または断定・過去 еди に付加される動詞人称語尾などによって表示される。アスペクトはいずれも動作・存在の継続・持続を表す。しかし、日本語で「～しています」は、現在完了の意も含むが、カラカルパク語でのこれらの意味は、あくまで現在進行である。

#### 1. жатыр 横たわっている : ~している、атыр ~している

##### ◆ [жатыр] (単独用法)

[(生物・無生物に関わらず) ある場所に、横たわる感じで、位置・存在していることを表す]

Ол төсекте жатыр.

彼は寢床の上に横たわっている。

Қыздың көз қарасында билинер-билинебес мысқылдың изи жатыр.

娘の黒目に、かすかな嘲笑のあとがある。

Китап, дәптер, қәлем, қарандаш оқыушының сумкасында **жатыр**.

本、ノート、ペン、鉛筆は生徒のかばんにある。

◆ [-ып<sup>3</sup> атыр]

[（その場で）行為が進行していることを表す]

Биз 12 қабатлы турақ жайды салып **атырмыз**.

現在、私たちは 12 階建てのアパートを建設しています。

Үлкен адамлар корзинкаларды машиналарға тийеп **атыр**.

大人たちが、複数の籠を、複数の車に積み込んでいる。

Мамам кийим тигип атыр.

現在、私の母は服を縫っている。

Астыңғы қабатта шауқым болып **атыр**, барып көрейік.

階下がにぎわっているよ、行ってみよう。

Бир кишкене күшик суудан шыға алмай **атыр**.

1 匹の子犬が水辺から出れないでいる。

Бир нәрсени қағазға орап омырау қалтасына салып **атыр**.

彼は、何かある物を紙に包んで、胸ポケットに入れていた。

◆ [-а<sup>3</sup> атыр]

[「行く」、「来る」につき、行為が進行していることを表す]

Поезд жүрип баратыр.

列車が走って行っている。

Олар жұмыстан қайтып келеатыр.(кеятыр)

彼らは仕事から帰って来ている。

## 2. жүр 動いている

◆ [-ып<sup>3</sup> жүр]

- ① [その行為が、日頃習慣的に身体の動きに伴った動作の中で行われていることを表す]

Ата-анаңды сағынып жүрсең бе?

（日頃から）君は父母のことを偲んでいるのかい？

Еки-үши күннен бери ауқатққа зауқым болмай жүр.

2,3 日以来、食事に欲求がずっとなくしている。

- ② [動作があちこち、せわしなく行われていることを表す]

Хәррелер гүл шийринин сорып жийнап жүр.

ミツバチたちが蜜汁を吸ってせわしなく集めている。

Бирнеше бала жулынған алмаларды корзинка менен тасып жүр.

何人かの子供が、もがれた複数のりんごを籠でせつせと運んでいる。

## 3. отыр 座っている

◆ [отыр]（単独用法）

[ある場所に、座っていることを表す]

Бала орынлықта **отыр**.

子供は椅子に座っている

Пышық столдың астында **отыр**.

猫がテーブルの下で座っている。

◆ [-ып<sup>3</sup> отыр]

[座って行ったり、大きな動きを伴わない静的動作や、思考などに関係する行動が行われていることを表す]

Дуўтар шертип **отыр**.

彼は座ってドゥタールを弾いている。

Олар үйінде күтип **отыр** ма?

彼らは彼らの家で待っているのか？

Мен ертең таңазанда барыўды ойлап **отыр**ман.(отырыппан)

私は明日の朝、立つことを考えています。

#### 4. **тур** 立っている

◆ [тур] (単独用法)

① [立っていることを表す]

Бөлмеде үлкен стол **тур**.

部屋に大きなテーブルがある。

Бул көшеде бир ағаш үй **тур**.

この通りには、1軒の木造の家が建っている。

Газета алыў ушын гезекте **турыппан**.

私は新聞を買うために、列に並んでいる。

② [存在を表す]

Кеўилиниң бир бурышында басқа ой **тур**.

彼の心の片隅には、別の考えが存在している。

③ [形容詞と共に用いられて、そうあるさまを表す]

Үйдиң есиги ашық **тур** екен.

家の扉は空いたままになっているではないか。

Сандық бос **тур**.

衣装箱の中は、空である。

Бәри де сай **тур**.

全て準備万端だ。

Биз сабақ оқытуғын бөлмеде көсемлердиң портретлери илиўли **тур**.

私たちが授業を学ぶ部屋には、指導者たちの複数の肖像が掛けてある。

◆ [-ып<sup>3</sup> тур]

① [その行為を立てて行っていることを表す]

Сыртта биреў сизди шақырып **тур**.

外で誰かが 1 人、あなたを呼んでいます。

- ② [断続的・持続的な行為・状態を、現在進行を表す]

**Самал қарағайларды қозғалтып тұр.**

風が松の木々を揺らしています。

**Бизде жарық жанбай тұр.**

私たちのところでは、明かりが灯らないでいます。

**Краннан суу ағып тұр.**

蛇口から水が流れています。

**Терезе алдына күн түсіп тұр.**

窓の前に日光が射しています。

**Мен аязлап қызып тұрман.**

私は風邪を引いて、発熱しています。

**Жеуін ғой жеймен, бірақ онша жегім келмей тұр.**

食べるには食べますが、でもあまり食気がしません。

## 後置詞

後置詞とは、印欧諸語における前置詞に対する名称である。名詞類の直後に置かれ、その名詞との様々な文法関係を明示する働きをもつ。カラカルパク語の後置詞は、支配する格によって 5 種類に分かれる。I.主格支配、II.属格支配、III.与格支配、IV.奪格支配、VI.助格支配である。

## I. 主格支配

### арқалы

- ① 「～を通じて」(過程を表して)

Еңбек іслеу арқалы, тұрмысты қалай жүргизиу керек екенін енді түсіндім.

- ② 「～によって」(手段を表して)

Биз тил арқалы қарым-қатынас жасаймыз.

私たちは、言葉によってコミュニケーションを取ります。

Бүгін бизге магнитофон арқалы сабақ өтілді.

今日、私たちには、テープレコーダーを使って授業が行われました。

### бойы

- ① 「～の全時間的過程を通じてずっと」(時を表す名詞と共に)

жыл бойы 一年を通じて

ай бойы 一月を通じて

күн бойы 一日中

түн бойы 一晩中

жол бойы 道中を通じて

Күн бойы үйде отырады.

彼は一日中家にいる。

- ② 「～の全時間的過程を通じてずっと」(完了形動詞と共に)

Ол кеткен бойы келген жоқ.

彼は行ったきり、来ない。

### **бойынша**

「～に基づいて」、「～に従って」、「全～的に」

талап бойынша 要求に従って

мектеп бойынша 全校的に

мәмлөкет бойынша 国を挙げて

**Жазыу қағыйдасы бойынша жазыңыз!**

皆さんは、書き方の規則に従って書いて下さい。

### **хақында**

「～に関して」

өндирис хақында 生産に関して

мен хақында 私について

сен хақында 君について

Ел зат бөхәси хақында айтып жүр. 人びとが物価についてがやがや議論している。

### **жолында**

「～のために」(政治的な文に用いられる)

Миллетлер бирлигин күшейтиу жолында не ислеуимиз керек?

民族団結を強化するために、われわれは何をすべきか?

### **қурлы**

「～と同様な」

Мың жылқыны бир ууыс бидай қурлым көрген жоқ, бир-ақ сыпырып кетти.

1000 頭の馬群を一握りの小麦ほどにも見ずに、一息に搔っ攫って行った。

адам қурлы көрмеу 人として見て扱わない

Асан буларды елең қурлы көрмей, бар интәсы менен кәсипти тез уақытта ийелеуді ғана ойлады.

アサンは、これらのことを気にも留めずに、全力でこの職種を速やかにマスターすることだけを考えた。

### **ретинде**

「～として」

Ол уәкил ретинде жыйналысқа қатынасты.

彼は代表として会議に参加した。

Усы бир шәуғим алтынды садақа ретинде өз қолыңменен апарып бер.

この1つのやかん分の黄金を布施として、お前自身の手で持って行って与えなさい。

### **сайын**

「～ごとに」

жыл сайын 年ごとに

ай сайын 月ごとに

саат сайын 毎時間ごとに

күн сайын 日ごとに

Ол усақ тасларды гүзеге салған сайын, гүздеги суу әстен көтеріле берди.

彼が小石を甕に入れるごとに、甕の中の水は少しずつ、上昇し続けた。

### **Себебли**

сол себебли その理由で、そのために

Мен бүгін жыйналысқа бара алмағанлығым себебли, ол истен хабарсыз қалдым.

私は今日、会議に行けなかったために、そのことにつき、何も知りません。

### **секилли / сыяқты / сықыллы**

Қар секилли аппақ. 雪のように真っ白だ。

Мениңше, көргизбеге қойылған нәрселер азырақ сыяқты.

私が思うに、展覧会に置かれた品物は少なめのようなのだ。

Сен сықыллы жан жоқ. 君みたいな人はいない。

### **соң**

① 「～の後で」(完了形動詞の後で)

Қәте ислегениңди билгеннен соң бірден дүзетиуің керек.

過ちを犯したことを知った後は、ただちに直す必要があります。

② 「～なので」(完了形動詞の後で)

Билет болмағаннан соң залға кире алмадық.

チケットがなかったので、ボールへ入れなかった。

Билмеймен дегеннен соң билмеймен!

知らないと言ったら知らないんだ！

### **сынлы**

「～といった」、「～等の」

Токио және Осака сынлы үлкен қалалар

東京及び、大阪といった大きな都市

Гүл егиу, ағаш отырғызыу, шөп егиу сынлы көгелиндириу жұмысын жақсы ислеу керек.

花を植える、植樹する、草を植えるといった緑化の仕事をしっかり行う必要があります。

### **тәризли**

「～の様な」(секилли 等に比べると文学的な言葉)

Үйде киси жоқ тәризли.

家には人がいないようだ。

### **туұралы**

「～について」

Мен сизден дин туұралы гейбир ахұалды сорап уғыуға келдим.

私はあなたから宗教について、若干個々の状況を尋ね、理解するために来ました。

Олар әлле не туұралы сөйлесип турған секилли.

彼らはどうやら何かについて話しているようだ。

### **ушын**

① 「～にとって」(後に алғанда を伴って用いられることが多い)

Бизлер ушын жүдә пайдалы. 私たちにとって、とても有益である。

Усы жолғы тәжирийбе мен ушын алғанда табылмайтуғын нәрсе болды.



今回の経験は、私にとって得難いチャンスとなった。

② 「～のために」(目的を表す)

Мен сен ушын бардым. 私は、君のために行ったんだ。

Үйрениў—қолланыў ушын. 学ぶのは、使うためだ。

③ 「～に対して」(対象を示す)

Темеки денсаўлық ушын зыянлы. タバコは、健康にとって有害です。

Адамға жыртық кийими ушын күлгениңиз уят.

人へ向かって、その破れた服に対してあなたが笑ったのは、恥ずべきことだ。

④ 「～したので」(完了形動詞の後で、原因を表す)

Ол хақысыз жұмыс ислегени ушын, бай оған кітаптарын оқыўға берди.

彼は報酬なしで仕事をしたので、金持ちは彼に本を読むために与えた。

Мен жүдә жақсы оқығанлығым ушын, мектеп дирекциясы маған мақтаў грамотасын берди.

私はとてもよく勉強したので、学校の指導部は、私に表彰状を与えた。

## II. 属格支配

### арқасында

「～おかげで」

Сизиң арқасыңызда үй салып алдым. あなたのおかげで、私は家を建てました。

### кесиринен

「～のせいで」

Мениң кесиримнен кешигип қалдыңыз. 私のせいで、あなたは遅れてしまいました。

### салдарынан

「～のせいで」(ただし、上記の2語とは異なり、語義的な特性上、人称代名詞の属格形からは直接支配されないようである。従って、салдар《悪い結果》に附加される人称所有語尾は、常に三人称ということになる)

Соның салдарынан дүньяға жаңа келген қыз бала күнине дизимге алынып, 18 жасқа толғанда айдарғаға берилип отырады екен.

そのせいで、この世に新しく生を受けた女の子はその日ごとに帳簿へ記され、18才に達した時に大蛇へ差し

出されているのであった。

※なお、時に属格が省略された形でも用いられる。

Жуўапкерсизлик салдарынан, мал зыянға ушырады.

無責任さのせいで、家畜が損失にあった。

## III. 与格支配

### бола

「もっぱら～のために」

Саған бола келдим.

私はもっぱら君のためにやって来ました。

Белим ауыра береді, ревматизм ауырұына шылынған сыяқлыман, соған бола емлениўге кетип

бараман.

私の腰が痛み続けています。私はリウマチにかかってしまったようです。そのために治療へ行きます。

### дейин/шекем/шейин

「～まで」

Биз шайырларға ушырасқалы Алтай аймағының бирнеше районына дейин бардық.

私たちは民間詩人に会うために、アルタイ州のいくつかの農村まで行きました。

Бул жұмыс түске шекем питеди.

この仕事は、正午までに終わります。

Атақлы алымның илимий мийнети Англияда көп ұақытқа дейин бәхәланбады.

著名な学者の学術著作は、英国では長い期間に渡って評価されなかった。

### қарсы

① 「～に反対して」

Басмашыларға қарсы урысты.

バスマチ達に反対して戦った。

② 「～に直面して」

Келе атырған адамларға қарсы жүрдим.

やって来ている人たちへ向かって私は歩いた。

### қарай

① 「～へ向かって」(近くから遠くへ向かって行くことにつき)

Түске қарай қатты ысыды.

正午に向かってひどく暑くなった。

② 「～に応じて」

Салмағына қарай хақы төлейсиз.

あなたは、重さに応じて料金を支払います。

### қарап

① 「～へ向かって」

Ол қалаға қарап кетти.

彼は町へ向かって出かけた。

② 「～に応じて」

Жағдайға қарап проект/жоба дүземиз.

私たちは、状況を見て計画を立てます。

### қарағанда

「～に比べると」

Биз сөзсиз, оларға қарағанда бахытлы турмыс кеширетуғын болдық!

私たちは必ずや、彼らに比べれば幸せな生活を送ることができるようになった!

### қарамай

「～に関わらず」

Бай-жарлы, жақсы-жаман болыуыңызға қарамай сизге тийеди.

あなたが金持ちか貧乏人か、善人か悪人か関わらず、彼女はあなたに稼ぎます。

## **қарамастан**

「～にも関わらず」

Көтеріліс ушын көпшилик өмірлерине дөнген қәуіп-қатерге қарамастан, хәр түрлі қарыу-жарақларды жасырын түрде жасай баслады.

革命のために、人々は自分たちの命に襲いかかる危険にも関わらず、各種の武器を次から次へと作り始めてい

たのでした。

## **сай**

「～に依拠して」

аты затына сай 名実とともに

Уқсас нәрселердің бәрі өз заманына сай тууыла берди.

同じようなものはすべて、その時代に応じて生まれ出るべきものだ。

Талапларыңызға сай, оны еки басқа аўмастырып жибердим.

皆様のご要望に基づいて、それを2頭と取り替えてしまいました。

## **жақын**

「～間近の頃に」

быйыл қысқа жақын 今年、冬間近の頃に

бәхәрге жақын 春間近の頃に

жазға жақын 夏間近の頃に

гүзге жақын 秋間近の頃に

## **таман**

「～へ向かって」(遠くから近くへ向かって来ることにつき)

Үйге азанғы саат 10ға таман зорға жеттим.

私は家へ、朝の10時にやっとたどり着いた。

## **IV. 奪格支配**

### **ары**

「～のあちら側に」

таўдан ары 山の向こう

дарьядан ары 川の向こう

мыңнан ары 1000 以上

оннан ары 10 以上

бул мәселени ары жибермеў керек.

この問題を、1年より先に延ばしてはいけない。

Ол енди буннан ары сөйлегиси келмей, тоқтап қалды.

彼は、もうこれ以上話す気がせずに止めた。

### **басқа**

「～以外」

будан / буннан басқа これ以外

оннан басқа  それ以外

### **бери**

「～以来」

содан бери  その時以来

бир неше күннен бери  数日後

хәптеден бери  一週間以来

бир жылдан бери  一年来

Жақынғы бирнеше жылдан бери елимиздің раўажланыўы жүдә тез болды.

  昨今数年来、我が国の発展は非常に速くなった。

### **бетер**

「～より更に (ひどく)」

Жаңағыдан бетер жылап кетти.

  彼女は、先ほどよりも更に泣いてしまった。

Мен оны ит гөшинен бетер жаман көремен.

  私は彼を犬の肉よりも忌み嫌っています。

Ишим одан бетер аўрып кетти.

  私のお腹が余計痛くなってしまいました。

### **бурын**

「～より前に」

Сеннен бурын келди.  彼は君よりも先に来ました。

Сен будан былай тапсырма орынлаўдан бурын, әўели бир я еки рет қайталап алып, түсингеннен кейин исле.

  君は今後、宿題をする前に、必ず 1,2 回復習して、理解した後でしなさい。

※参考までに、例えば он жыл бурын 《10 年前に》に見られる бурын は、単なる副詞としての用法である。奪格支配とはならない。

### **кейин**

「～より後に」

содан кейин  それ以来

аздан кейин  しばらくして

үш күннен кейин  3 日後に

Шыпакер сениң наўқасынды емленгеннен кейин саған не деди?

  医者は、君の病気を治療した後で、君に何と言った？

### **көре / гөре**

「～よりも」

Сизлер меннен көре оның жағдайын көбирек билесизлер.

  皆さんは私よりも彼の状況をたくさん知っていますね。

Оннан көре, сен мықлысаң.

  彼よりも君はしっかりしている。

### **қарағанда**

「～から判断すると」

Бүгінгі класс жыйналысына қарағанда, көпшілік түйел оныншы тармақтың руўхый бойынша ислеп отыр екен.

今日のクラス会から判断すると、皆はすべて第 10 条の精神に従って行っていますね。

#### **соң**

「～の後で」(完了形動詞以外の後で)

бир сааттан соң 一時間後

аздан соң しばらくしてのち

соннан соң その後

#### **сырт**

「～のほかに」

будан сырт そのほかに

#### **тыс**

「～のほかに」

будан тыс そのほかに

#### **алдын / илгери**

「～前に」

будан бес жыл алдын 5年前に

### **V. 助格支配**

#### **бирге**

「～と一緒に」

менменен бирге 私と一緒に

сенменен бирге 君と一緒に

соныңменен бирге それと一緒に

мен сизбенен бирге барайын. 私はあなたと一緒にいきます。

#### **қабат**

「～と共に」、「～と同時に」

соныңменен қабат それと同時に

#### **қатар**

「～と同時に」

соныңменен қатар それと同時に

## 接続詞

本書では、以下に見るように 20 あまりの接続詞を取り上げてみた。それらは前後の文脈により、I.並立接続詞、II.選択接続詞、III.逆説接続詞、IV.原因接続詞、V.結果接続詞、VI.条件接続詞、VII.換言接続詞などに分類できる。

### I. 並立接続詞

#### хәм

- ① 「それに加えて」（前の文に言葉を付け加えてという場合）

Пахтасы қалың хәм жүдә жыллы өзи.

綿が厚いし、それにとっても暖かいよ、それ自身は。

- ② 「A であり、且つ B」（文にとって、A と B が同等の意味上の重さがある場合の並列に用いる）

Ыбрай хәм шайыр хәм жазыўшы болған.

イブライは、民間詩人であり、且つ作家であった。

#### да / де, те / те

- ① 「も」

Менде қәлем де, ручка да, сыйя да бар.

私の元には鉛筆も、ペンも、インクもあります。

Олар мектепте де, көшеде де бирге жүреді.

彼らは学校でも、通りでも一緒に歩く。

- ② 「そして」（2つの順接の文をつなぐ。この際、完了副動詞に置き換えることができる）

Бала бөлмеге кирди де есикти жапты.

子供は部屋に入った。そして扉を閉めた。

→Бала бөлмеге кирип, есикти жапты.

#### және

「および」（文中の 2 つ以上の様々な成分をつなぐ）

Менде ручка және қәлем бар.

私のもとには、ペンおよび鉛筆があります。

Зоопаркта аю, түлки және тинди көрдик.

私たちは動物園で、クマ、キツネおよびリスを見ました。

Олар бирге оқыйды және бирге ойнайды.

彼らは一緒に学びます。そして一緒に遊びます。

#### менен, бенен, пенен

「と」（2 つの名詞または、名詞化した語をつなぐ。本来、助格語尾と同じものだが、接続詞の場合は、名詞と離して綴る）

Оқушы қарандашпенен ручка сатып алды.

生徒は鉛筆とペンを買いました。

Зоопаркта хайуанларменен қуслар бар.

動物園には、獣と鳥がいます。

#### сондай-ақ

「そしてまた」、「それとともに」

Еркин муғаллим орыс тилин, сондай-ақ англис тилин биледи.

エルキン先生は、ロシア語、そしてまた英語を知っている。

## II. 選択接続詞

### ямаса

- ① 「もしくは」、「か」(単独)

Сизге ямаса кассаға төйлейин бе?

私はあなたへ、もしくはレジへ支払いしましょうか?

- ② 「もしくは」、「か」(併用)

Ол сениң ямаса танысың, ямаса достың.

彼は君の知り合いか、もしくは友達だ。

- ③ 「或いは」

Биреудің мазасын алған болсам, кеширим сорап; «Әпиў етиңиз» ямаса «Кешириңиз» деп едим.

私が、誰かの不興をかっとなれば、許しを請うて、「勘弁してください」或いは、「お許してください」と言うでしょうね。

### яки

- ① 「もしくは」、「か」(単独)

Маған қәлем яки ручка берши.

私に鉛筆かペンをちょうだいな。

- ② 「もしくは」、「か」(併用)

Бүгін биз киноға, яки театрға барамыз.

今日私たちは、映画館か劇場へ行きます。

- ③ 「或いは」

Заводтың машина-жабдықлары өзимизден шыққан ба, яки импорт етилген бе?

工場の機器設備は国産ですか、或いは輸入されたのですか?

### я

- ① 「或いは」(単独)

Мына жерде телефон дәптери бар, содан излеп көриңиз, я болмаса 114-номерден сораңыз.

ここに電話帳があります。それで探してみてください。或いはだめなら、114番で尋ねてください。

- ② 「或いは」(併用)

Я сен кел, я мен барайын.

或いは君が来い、或いは私が行こう。

Ертең я келеди, я келмейди.

彼は、明日来るかも知れないし、また来ないかも知れない。

## III. 逆説接続詞

### ал

「しかるに」

Соңынан Ғыпша бетин жуқа нәрсеменен жаўып алып, түрмеге қамалған адамларды бирден қарап шығады, ал түрмедегилер бул адамның ким екеннен хабарсыз қала береді.

その後にグプシャは、顔を薄いもので覆って、牢獄に閉じ込められた人々を1人1人ながめ通した。しかるに、

牢獄の者達は、この人が誰であるのかを、分からずにいつづけるのである。

Жаўын азайса құрғақшылық болады, ал көбейсе суў апаты болады.

雨が少なくなれば、旱魃になる。しかるに、増えれば水害になる。

### **бирақ**

「しかしながら」

Оқыўшылардың көби анық дести, бирақ гейбир оқыўшылар онша анық есите алмапты.

生徒の多くは、はっきりしていたと言いつつ、しかしながら、一部の生徒たちはそれほどはっきり聞くこと

ができなかったそうです。

Қарақалпақшаны сөйлеўин ғой сөйлеймен, бирақ ҳәзирше онша биймәлел сөйлей алмайман.

私はカラカルパク語を話すには話しますが、でも今のところそれほど流暢には話せません。

Көриўи көринеди, бирақ анық емес.

見えるには見えますが、とは言え、はっきりはしていません。

Қараңғы түсти, бирақ көшелерде еле шам жағылған жоқ.

日が暮れて暗くなった。しかし、通りにはまだ明かりが灯されていない。

Ислеўин ғой ислеиймен, бирақ шамам жетпейди ғой деймен.

するにはしますが、でも私の能力は及ばないと思いますよ。

### **сонда да**

「それにもかかわらず」

Саат 12 болды, сонда да ҳешким еле уйқылаған жоқ.

12時になった。それにもかかわらず誰もまだ寝ていない。

## **IV. 原因接続詞**

### **себебли / өйткени / үйткени**

「なぜなら」

Жыланды неге жақсы көрмейсең? - Себеби жыланда у бар, адамды шағып өлтиреді.

「君は蛇がなぜ嫌いなのか?」「だって、蛇には毒があり、人を噛んで殺します」

Мен мектепке келе алмадым, себеби аўырып қалдым.

私は学校に来ることができませんでした。なぜなら病気にかかってしまったからです。

## **V. 結果接続詞**

### **сонлықтан**

「それゆえ」、「だから」

Үшінши қоңыраў болды, сонлықтан биз залға кирдик.



3回目のベルがあった。それゆえ私たちは大広間へ入った。

Солай, сонлықтан да жер шарында көклем, жаз, гүз, қыс төрт мәуһсым болады.

そうです。それだからこそ地球には春、夏、秋、冬の四季があるのです。

## VI. 条件接続詞

### егер

「もし」

Егер ол бүгін келмесе не қыласаң?

もし、彼が今日来なかったら、君はどうするの？

## VII. 換言接続詞

### атап айтқанда

「要するに」、「すなわち」

Атап айтқанда, мақұл болған ұақытта сол ислеўди және ислегеннен кейинги зардабын ескериў тийсли, солай ма?

要するに、Okする時点で、そのことを行うことを、そして行った後の結末を頭に置く必要がある、ということだ。でしょ？

### қысқасы

「要するに」

Ғарры барып турған жалқаў болыпты. Жалқаўлығы соншелли, туалетке шықпайды екен. Қысқасы, күндиз күннің көзин, түнде аспанның жулдызын көрмейтуғын болыпты.

おじいさんは極めつけの無精者になってしまったそうだ。その無精さの程と言ったら。用足しにも出ないのだ。

要するに、日中はお天道様を、晩は天上のお星様を見ることがなくなってしまったという。

## 人称助詞と否定助詞

不変化詞類に属す助詞の一種で、人称に関係する文の述部に附加される。「(私は) ~です」、「(君は) ~です」、「(あなた方は) ~です」等の意を表す。一人称、二人称に関わる文では、人称代名詞は省略されても、人称助詞は省くことはできない。

これらは、以下の表に示すように I. (名詞類・不変化詞類人称助詞) と、II. (副動詞人称助詞) の 2 タイプに分類できる。

### I. 名詞類・不変化詞類人称助詞：肯定形

人称 \ 数	単数			複数		
	一人称	母音と、ж, з 以外の有聲子 音の後	ж, з の後	無声子音の後	母音と ж, з, м, н 以外の有 声子音の後	ж, з, м, н の後
-ман / -мен		-бан / -бен	-пан / -пен	-мыз / -миз	-быз / -биз	-пыз / -пиз
二人称	普通	-саң / -сең		-саңлар / -сеңлер		
	尊敬	-сыз / -сиз		-сызлар / -сизлер		

また、その否定形は、否定助詞 **емес** 《~ではない》に、名詞類・不変化詞類人称助詞が附加されて表される。

### I. 名詞類・不変化詞類人称助詞：否定形

人称 \ 数	単数		複数
	一人称	<b>емеспен</b>	
二人称	普通	<b>емессең</b>	<b>ң</b>
	尊敬	<b>емессиз</b>	<b>емессизлер</b>
三人称	<b>емес</b>		

次に、II. の副動詞人称助詞を見てみたい。これには、接続する副動詞が、2 種類 (完了副動詞と未完了副動詞) あることから、それぞれの音節末における音声的条件によって、更に 2 タイプに分類できる。

II.-1) 完了副動詞(-ып³)+副動詞人称助詞

II.-2) 未完了副動詞(-а³)+副動詞人称助詞

II.-1) 完了副動詞(-ып³)+副動詞人称助詞：肯定形/否定形共通

人称 \ 数	単数		複数	
	一人称	-пан / -пен		-пыз / -пиз
二人称	普通	-саң / -сең		-саңлар / -сеңлер

	尊敬	-сыз / -сиз	-сызлар / сизлер
三人称		-ты / -ти (肯定文で) , па / пе (否定文で)	

II.-2) 未完了副動詞(-а<sup>3</sup>)+副動詞人称助詞：肯定形/否定形共通

人称 \ 数		単数	複数
		一人称	-ман / -мен
二人称	普通	саң / сең	саңлар / сеңлер
	尊敬	-сыз / -сиз	-сызлар / -сизлер
三人称		-ды / -ди (肯定文で) , ма / ме (否定文で)	

副動詞人称助詞は、一人称と二人称においては、名詞類・不変化詞類に附加される人称助詞に順ずるが、三人称では来源の異なる**-ты<sup>4</sup>** (<тур(立つ))が補われたものである。従って、本来、名詞類・不変化詞類人称助詞と、副動詞人称助詞は同じものである。どちらも、文末に添加されていた人称代名詞が弱化したものに由来する。ただ、副動詞の場合、語幹の音声的な条件が各々**3**つと単純なので、一人称でのバリエーションは名詞類・不変化詞類の場合よりも少ない。なお、副動詞人称助詞の用法と意味については、副動詞の各項目を参照されたい。

問い：次の文を、名詞類・不変化詞類人称助詞に注意して訳しなさい。

1. Сиз мениң муғаллимимсиз.
2. Сизлер оқыўшы емессизлер.
3. Барлығыңыз пионерсеңлер ме?
4. Мен бул қалада биринши ретпен.
5. Полат деген менмен.
6. Ол күни сен жоқсаң.
7. Биз бахытлымыз.
8. Бул журналды сүйип оқытуғын көп оқыўшылардың биремен.
9. Жүдә бәнтпен.
10. Мен аўылданман.

11. Сен қайжердесең? - Мен сауда дүкандаман.
12. Неше жастасаң? - Мен отыз жастаман.
13. Сиз не ислейтуғын адамсыз?
14. Жүдә қызықлы екен, сен де оқымақшысаң ба?
15. Сен билетуғын шығарсаң.

### その他の助詞

これまでも若干の助詞に関しては、名詞類や動詞類の関係箇所中でその都度言及してきた。ここでは特に、それらに補足説明を付したり、特に注意したい若干のものについて取り扱う。

### екен де(се) (деは де-《言う》の命令形)

Усылай екен десе! そういうことだったのかあ。

Жағдайға қарағанда, үйрениудің ямаса хызметтің жақсы болыў-болмаўы демалыс пенен тиккелей байланысly екен да.

状況から鑑みると、学習若しくは仕事の出来の良し悪しは、休息と直接に関係がある訳なんだあ。

Булай болғанда, күн ошағын көмир менен суйылтылған газдың орнына испетиўге болады екен да!

こうなってくると、ソーラー・コンロを石炭と液化ガスの代わりに使用することができるって訳だあ!

※なお、екен 自体の用法に関しては、名詞類 екен の②、③も参照のこと。

### деймен

[一人称の確定推量を表す。ただ、稀に用いられるのみ]

Сөз гезеги енди маған келди деймен.

話す番は、次は私に回って来たようだな。

### ғой / қой

#### ◆ [ғой<sup>2</sup>]

- ① [文末に附加し、聞き手の注意を喚起する]: 「～だよ」、「～じゃない」

Жоқ қой. ないじゃないか。

Нан көгерип кетипти ғой. パンがかびちゃってるよ。

Хе, буның себеби усындай екен ғой. へえ、その理由はそういうようなことだったんだね。

Ол жақсы еди ғой. うわあ、実にそれはすばらしいじゃないか。

- ② [前の話を取り立てて強調する]

Асықпаңыз, алаңсыз күтиниңиз. - Дурыс қой, бірақ ишимнен қатты асығып турман.

「焦らないでください、安心して養生して下さい」「それはそうなんだ。とは言っても、内心はひどく焦っているんだよ」

◆ [бар ғой]

[特に口頭語で、トピックを取り立てる]:「～はね」

Өзің көр! Мынаў бар ғой, мен бурын саған айтқан оның суўүрети.

見てみなよ、君。これはね、私が以前君に話した彼の写真だよ。

Мен бар ғой, сениң достың Полаттың әкеси боламан.

私はね、君の友達のポラットの父親なんだよ。

◆ [ғой<sup>2</sup> деймен]

[話者の主張を取り立てる]:「私は～だと思ふ」

Ана жақта ғой деймен.

Биреў бар ғой деймен.

◆ [-ў ғой, -ўын ғой, -ўын да ғой, -ўда ғой]

[譲歩文を強調し取り立てる]:「～するにはするが (しかし…)」

Алыўын да ғой алдым.

私は買うには買った。

Болыўын ғой болады, бирақ...

いいにはいいのだが、しかし...

Бул жердеги қарақалпақлар арасында да гейде солай айтыўға ғой айтамыз, бирақ жайшылықта биз корзинка деп айтамыз.

ここいらのカラカルパクの間でも時にはそういう風に言うことは言いますが、でも普段私たちはロシア語で、カルズィンカ (籠) と言います。

Сол гезде оны алғым келиўи ғой келди, бирақ ҳәзир онша ақшам жоқ деп ойладым да алмадым.

私はその時、それを買いたいとも思いましたが、でも今のところそれほどお金がないと思い、買いません

でした。

Оныкине барыўын да ғой бардық, бирақ үйинде жоқ екен.

私たちは、彼の家へ行ったは行ったのですが、でも彼は家には居ませんでした。

Айтыўда ғой солай айтамыз, ислеўге келгенде умытып қалады екенбиз.

言葉ではそう言いますが、行うとなるとつい忘れてしまうんですね。

**ма / ме, ба / бе, па / пе (疑問助詞 (独立系))**

[疑問代名詞を用いない疑問文の<sup>注</sup>文末で、疑問ご語気を表す]:「～か?」

Мурат па?

彼はムラットか?

Жейсең бе?

君は食べるか?

注) 特に口語において、疑問代名詞が特定の名詞の代替語として暫時的に用いられた場合には、疑問助詞は現れる。

Ким келди ме, кәдимги Садық?

あの人来た? ええと、サドゥクは。

Сен нени әкелдің бе, кәдимги магнитофонды?

君、あれ持ってきた？あのを、テーブルレコーダーを。

**-мы / ми, -бы / би, -пы / -пи** (疑問助詞 (前接形))

[多く、後に二人称人称助詞を従えて、親しみの情を込めた疑問の語気を表す]:「～かい？」

Муратпысаң?

ムラト、君なのかい？

Жеймисең?

君は食べるかい？

**-мыс / -мис** (嘲笑助詞)

[肯定的に評価できる内容を含んだ文の末尾に附加されて、その内容を逆さにとった、揶揄やあざけりの気持

ちを表す]:「～だと、よくもそんな風に言えたものだ」

Ол соны да билмей турып, жигирма жыллар бойы муғаллимлик ислеп келипти-мис.

彼はそんなことも知らないくせに、20余年の間教員をしてきたんだってさ。

Хасан менменситин адам. Бир жыл ғана немис тилин үйрененип соның маманыман деп көтерілип сөйлейди-мис.

ハサンはうぬぼれやの人間だ。1年ばかりドイツ語を勉強しただけで、その専門家だなんて豪語するんだ。

Ол мектепте төрт жыл орысша үйренген-мис, бирден онға дейинги санларды да дурыс айта алмайды.

彼は学校で4年間ロシア語を勉強したんだってさ。1から10までの数字も正しく言うことができないんだ。

Ол атқа мине алмай турып бурын батыр еди-мис.

彼は馬にも乗れないくせに、以前は勇者だったんだってさ。

**ше / не**

[文末で催促や強調、提起、反問などを表す]

Өзиң ше?

君自身はどうなの？

Бай қуанып кетеди. Қуғанбағанда не! Ақысыз хызметкер. табылды.

金持ちは喜ぶ、喜ばないことがあるか！タダで使用人が見つかったのだ。

Болмағанда ше?

ない事があるでしょうか！もちろんありますとも。

Сениң исленген тәжирибең сәтли болып шықса не?

(失敗する失敗すると気を揉んでばかりいずに) 君の行った実験が無事に終わったとしたらどうだい？

**-шы / -ши**

[催促や強調、提起を表す]:「～はどうなの？」

Бейбит-не?

ベイビットはどうなの？

Сөйтип ислетпеймиз? Мынаў не?

私たちがそう用いないって？これはどうだい（使っているじゃないか）。

## 文法便覧

### 1. 名詞の構造

名詞の語源には基本的には以下の成分（接尾辞）が付きうる。太字で表した個所は、例文 **жұмыс** の場合に付きうる成分である。

語幹		複数	人称（所有・所属）	格
語根	派生			
<b>жұмыс</b> 労働	<b>-шы</b> 者	<b>-лар</b> ~-лер たち	<b>-(ы)м</b> ~ 私 の <b>-(и)м</b>	<b>-∅</b> (なし) が
			<b>-(ы)ң</b> ~ 君 の <b>-(и)ң</b>	<b>-ның</b> ~ <b>-нің</b> , <b>-дың</b> ~ <b>-дің</b> , <b>-тың</b> ~ <b>-тің</b> の
			<b>-(ы)ңыз</b> ~ あなた の (尊敬語) <b>-(и)ңиз</b>	<b>-ны</b> ~ <b>-ни</b> , <b>-ды</b> ~ <b>-ди</b> , <b>-ты</b> ~ <b>-ти</b> , H を
			<b>-(с)ы</b> ~ 彼(女)の、 その <b>-(с)и</b>	<b>-қа</b> ~ <b>-ке</b> <b>-ға</b> ~ <b>-ге</b> , Hへ、に
			<b>-(ы)мыз</b> ~ 私 たちの <b>-(и)миз</b>	<b>-на</b> ~ <b>-не</b> <b>-а</b> ~ <b>-е</b>
			<b>-ларың</b> ~ 君 たちの <b>-лериң</b>	<b>-да</b> ~ <b>-де</b> , <b>-та</b> ~ <b>-те</b> で、に
			<b>-ларыңыз</b> ~ あなた 方の <b>-лериңиз</b>	<b>-нан</b> ~ <b>-нен</b> , <b>-дан</b> ~ <b>-ден</b> , <b>-тан</b> ~ <b>-тен</b> から
			<b>-(с)ы</b> ~ 彼(女)ら の、 <b>-(с)и</b> それらの	<b>-менен</b> ~ <b>-бенен</b> ~ <b>-пенен</b>

жұмыс + -шы + -лар + -ымыз + -да  
 労働 者 たち 私たちの に  
 →жұмысшыларымызда 私たちの労働者たちに



## 2. 人称代名詞

私	君	あなた	彼、彼女、それ	
мен	сен	сиз	ол	が
мениң*	сениң*	сиздиң	оның*	の
мени	сени	сизди	оны	を
маған*	саған*	сизге	оған*	へ
менде	сенде	сизде	онда	で、に
меннен	сеннен	сизден	одан	から
мен менен*	сен менен*	сиз бенен*	оның менен*	と
私たち	君たち	あなたたち	彼ら、それら	
бизлер	сенлер	сизлер	олар	が
бизлердиң	сенлердиң	сизлердиң	олардың	の
бизлерди	сенлерди	сизлерди	оларды	を
бизлерге	сенлерге	сизлерге	оларға	へ
бизлерде	сенлерде	сизлерде	оларда	で、に
бизлерден	сенлерден	сизлерден	олардан	から
бизлер менен*	сенлер менен*	сизлер менен*	олар менен*	と

## 3. 基数

0	ноль				
1	бир	11	он бир	21	жигирма бир
2	еки	12	он еки	22	жигирма еки
3	үш	13	он үш	30	отыз
4	төрт	14	он төрт	40	қырық
5	бес	15	он бес	50	елиў
6	алты	16	он алты	60	алпыс
7	жети	17	он жети	70	жепис
8	сегиз	18	он сегиз	80	сексен
9	тоғыз	19	он тоғыз	90	тоқсан
10	он	20	жигирма	100	жүз
200	еки жүз	1995	бир мың тоғыз жүз тоқсан бес		
300	үш жүз	2000	еки мың		
400	төрт жүз	10000	он мың		
500	бес жүз	100000	жүз мың		
600	алты жүз	100 万	миллион		
1000	мың	10 億	миллиард		

#### 4. 動詞の構造

動詞の構造には基本的に以下の成分（接尾辞）が付きうる。

語幹		活用（時制・アスペクトなど）	人称（述語・所有）
語根	派生		
бар- 行く	-л/-н される	-а （母音の後で、-й）する -р だろう（否定-мас） -п したそうだ、ようだ -мақшы するつもりだ -ғай したい -ған したことがある -атуғын したものだ	-ман 私は -саң 君は -сыз あなたは -(ды) 彼（女）は -мыз 私たちは -санңлар 君たちは -сызлар あなた方は -(ды) 彼らは
	-с しあう	-ды した -са ならば	-м 私は -ң 君は -ңыз あなたは -語尾なし 彼（女は） -қ 私たちは -ңлар 君たちは -ңызлар あなた方は -語尾なし 彼らは
	-дыр/-т/-ар/ғыз させる	-語尾なし しなさい、しよう	-(а)йын しよう -語尾なし しなさい -(ы)ңыз してください -сын 彼にしてほしい -(а)йық しましろう（複） -(ы)ңлар しなさい -(ы)ңызлар してください -сын 彼らにしてほしい
	-ма しない	-ған した（もの） -р 常にする（もの） -мақшы つもりの（もの） -атуғын する（もの） -ғы したい気持ち -ў すること	-(ы)м 私の -(ы)ң 君の -(ы)ңыз あなたの -(с)ы 彼（女）の -(ы)мыз 私たちの -ларың 君たちの -ларыңыз あなた方の -(с)ы 彼らの
	(連用形+補助動詞)	-п して	

	<p>(-май , -мастан しないで)</p> <p>-а (母音の後に-й) して</p> <p>-ғалы するために</p> <p>-ғанша まで、よりは</p> <p>-ғанда したときに</p> <p>-атуғынын しに、ために</p> <p>-ғаныменен けれども</p> <p>-ғаннан と同時に</p>	
--	--	--